

仁木町

モンガク丘陵の遺跡群

モンガクA・B・F遺跡

— 北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

昭和 63 年 度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

仁木町

モンガク丘陵の遺跡群

モンガクA・B・F遺跡

— 北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

昭和63年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

例 言

1. 本書は、北後志東部地区広域営農団地農道整備事業にともなう、モンガクA・B・F遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本書の執筆は、モンガクA・F遺跡(それぞれ石器の項を除く)と、遺物の分類・モンガクB遺跡の土器の項を工藤義衛が分担し、他は田才雅彦が行った。

写真撮影は、現場においては三浦正人(モンガクB)、工藤義衛(モンガクA・F)が、写場においては立川トマスが担当した。

3. 整理作業の分担者は下記のとおりである。

土器復元・拓本	岸本 朋子、小林 晴美
土器実測・トレース	藤内まゆみ、小林 晴美
剥片石器実測・トレース	山田真理子、湊 啓枝
礫石器実測・トレース	高田 京子、小林 晴美
フローテーション・資料選別	高橋 立史、田中 暢子 川口 泰代

遺物集計・計測	千葉まゆみ
図版作成	千葉まゆみ、田中 暢子

なお、種子の同定については『PROJECT SEEDS』に依頼した。

4. 土器実測図・拓本は3分の1、石器実測図は2分の1に統一してある。また写真図版は、土器2分の1、石器5分の4に統一してある(モンガクA遺跡の台石のみ2分の1)。
5. 調査にあたっては、仁木町教育委員会の協力を得た。また、次の諸機関及び人々の指導・協力を得た。
仁木町役場産業課農政係、小樽市博物館 土屋周三・石神敏・松木光治、北海道大学埋蔵文化財調査室 吉崎昌一・樽坂恭代、久保武夫、鍋島直久

目 次

例言

I	調査の概要	1
1	調査要項	1
2	調査体制	1
3	調査の経緯	1
4	遺跡の立地と環境	6
5	発掘区の設定	8
6	遺物の分類	9
II	モンガクA遺跡	11
1	遺跡の概要	12
2	層 序	12
3	遺 構	14
4	包含層出土の遺物	20
5	まとめ	42
III	モンガクB遺跡	45
1	遺跡の概要	46
2	層序	46
3	遺 構	48
4	包含層出土の遺物	53
5	まとめ	71
IV	モンガクF遺跡	75
1	遺跡の概要	76
2	層 序	76
3	包含層出土の遺物	77
4	まとめ	89
	写真図版	91

I 調査の概要

1. 調査要項

事業名	北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内埋蔵文化財発掘調査
委託者	北海道後志支庁
受託者	財団法人 北海道埋蔵文化財センター
遺跡名	モンガクA遺跡 (北海道教育委員会登録番号 D-18-4) モンガクB遺跡 (北海道教育委員会登録番号 D-18-5) モンガクF遺跡 (北海道教育委員会登録番号 D-18-9)
所在地	モンガクA遺跡 余市郡仁木町東町12丁目73番地ほか モンガクB遺跡 余市郡仁木町東町10丁目25番地ほか モンガクF遺跡 余市郡仁木町東町12丁目90番地ほか
調査面積	モンガクA遺跡 2460㎡ モンガクB遺跡 3630㎡ モンガクF遺跡 730㎡
調査期間	発掘調査 昭和63年 5月 9日～昭和63年 7月 2日 整理作業 昭和63年11月 1日～平成元年12月31日

2. 調査体制

昭和63年度 (発掘調査、一次整理作業)

モンガクA・F遺跡	調査第一課長 種市 幸生 (発掘担当者)
	嘱託 工藤 義衛
モンガクB遺跡	文化財保護主事 田才 雅彦 (発掘担当者)
	文化財保護主事 三浦 正人、田口 尚

平成元年度 (整理作業)

調査第三課長 越田賢一郎
文化財保護主事 田才 雅彦
嘱託 工藤 義衛 (6月30日まで)

3. 調査の経緯

昭和58年4月、小樽市と仁木町を結ぶ広域農道整備事業に係る第一次埋蔵文化財事前協議書が、北海道後志支庁から北海道教育庁文化課に提出された。モンガクの遺跡群については、昭和60年9月20日に提出された協議書に基き、同年10月30日に所在確認調査、翌61年6月10日～13日に範囲確認調査が実施され、工事計画の変更が困難な場合には、発掘調査及び一部立会調査が必要であるとの結論が出された。

本事業にともなう遺跡の発掘調査は、昭和59年度の小樽市忍路11遺跡を皮切りに、忍路土場遺跡 (昭和60～62年度)、忍路5遺跡 (昭和62年度) と小樽市内の遺跡が続き、昭和63年度は、余市町栄町5遺跡と本遺跡群が対象となった。

なお工事立会部分の調査は、発掘調査期間中の5月19・26・27日に、北海道教育庁文化課が実施し、モンガクB遺跡で発掘調査区との境で土壌1基 (P8) を確認したほか、三遺跡それぞれに遺物を得ており、本書で併せて報告する。



図1 モンガクの遺跡群と周辺の遺跡 (国土地理院発行 1:50000 地形図 小樽西部・仁木)

表1 モンガクの遺跡群と周辺の遺跡一覧(仁木町管内) 注:Noは道教登録番号で、図1と同じ

No	遺跡名	時代、時期	内容	調査	文献
A	モンガクA (No4)	縄文群・中・後	住居跡ほか	昭63年	1-4
B	モンガクB (No5)	縄文群、縄文群中・後、縄文群後編	T・ピットほか	昭63年	2, 3
F	モンガクF (No9)	縄文群	未詳	昭63年	1
3	フレトイ	縄文群・縄文群後編	未詳		1, 2
6	モンガクC	縄文群	未詳		
7	モンガクD	縄文群	未詳		
8	モンガクE	縄文群	未詳		
10	北町1	縄	未詳		
11	南町1	縄文群	未詳		
12	南町2	縄文群	未詳		
13	南町3	縄文群	未詳		
15	旭台	縄文群	未詳		
16	區の川	縄	未詳		
21	北町2	縄文群	未詳		

表2 モンガクの遺跡群と周辺の遺跡一覧(余市町管内1)

No	遺跡名	時代、時期	内容	調査	文献
1	大浜中貴人の塚	縄	土器遺構		5
2	フゴッペ貝塚	縄文群後編、縄文群後編、縄文群	貝塚、集落跡	報告	2-4
3	栄町	縄文群後編、縄文群、縄	墓塚	昭33-34年	
5	大浜中	縄	港跡か		5, 6
6	大川	縄文群後編、縄文群後編・後編、縄文群中・後	墓塚、港跡	報告	2-4, 7, 8
7	登町西山	縄文群中・後編	配石?		8
8	登町政五郎沢	縄	住居跡か		3
9	カッチャライシ	縄	石積み跡		
10	木村台地	縄文群	未詳	昭33-37年	1, 4, 9
11	フゴッペ洞窟	縄文群後編・土器、縄文群	洞穴、国指定史跡	昭25-46年	1, 4, 10
12	シリバ山ケルン群	縄	石積み跡	昭31-32年	11
13	川上山ケルン	縄	石積み跡		
14	大谷地貝塚	縄文群中・後編	貝塚	昭8年	2, 12, 13
15	モイレ橋墓跡	縄	石垣		5
16	モンガク古墳	縄	配石遺構		8, 14
17	大崎山	縄文群	未詳	昭40-42年	15-17
18	天内山	縄文群後編、縄文群中・後	墓塚	昭45年	2, 18
19	安芸	敷	配石遺構か		18
20	シリバ山麓	縄文群	貝塚		
21	天内山チャシ跡	中・後	チャシ跡	昭45年	2, 18
22	浜中台地	縄文群	未詳		
23	旧下イチテ運上屋	縄文群 (No43)、江戸群	運上屋は国指定史跡		5
24	登町2	縄文群	未詳		
25	登町2	縄	未詳		
26	登町3	縄文群	未詳		
27	登町4	縄文群	配石遺構		5, 14
28	栄町3	縄文群中・後編	配石遺構		2, 14, 19
29	登町5	縄文群	石組み跡		8
30	八幡山	縄文群	配石遺構		8, 14, 20
31	登町6	縄文群	配石遺構		
32	旧登川右岸	縄文群	未詳		2
33	三吉神社	縄文群、縄文群	貝塚		2
34	モンガク	縄文群	未詳		8
35	道分	縄文群	未詳		
36	旧東中学校校庭	縄	未詳		
37	警察墓山	縄文群中・後編	配石遺構	昭27年	2, 8, 14, 19
38	山田	縄文群、縄	集落跡		2, 3

表3 モンガクの遺跡群と周辺の遺跡一覧(余市町管内2) 注: X-Zは文献に記載がみられるが未記載の遺跡

No	遺跡名	時代、時期	内容	調査	文献
39	旧美園競馬場	数坑	集落跡か		3
40	永町	数坑中・数坑	墓塚、集落跡	昭63年	21
41	シリバ沢	埴	未詳		
42	ヌッチ川	埴	貝塚		22
44	シリバ岬烽火台跡	埴	未詳		
45	旧余市福原遺跡	数坑	国指定史跡		
46	登町7	埴	未詳		8
47	栄町4	数坑	未詳		
48	栄町5	数坑中・数坑	墓塚	昭63年	
X	本郷力寺前の畑地	埴	未詳		2
Y	墓地山ストーンサークル	埴	巨石遺構		14
Z	山田中西丘跡地	埴	集落跡か		2, 3

文献

- 1 阿部義平 編 1968『仁木町史』
- 2 寺田貞次 1919「余市附近の土地と古代住民」『北海道人類学会雑誌 第一号』
- 3 宇田川洋 校註 1981・1983『河野常吉ノート 考古編 1・2』
- 4 久保武夫 1967「余市平野の私たちと水害」『郷土の科学 No.55・56』
- 5 瀧川政次郎、島田正郎 1953「調査日誌」『余市』地方史研究所 編
- 6 松下亘 1973「北海道余市町大浜中遺跡の遺物一特に一括出土した青磁について」『北海道考古学 第9輯』
- 7 余市町教育委員会、余市町郷土史研究会 1961『大川遺跡一余市町大川遺跡発掘調査報告書』
- 8 久保武夫、佐藤利雄 1986「登町の先史時代」『登郷土誌』登郷土誌作成委員会 編
- 9 余市町教育委員会、余市町郷土史研究会 1962「遺跡 木村台地(予報)」『郷土史研究 No.6』
- 10 名取武光 編 1970『フゴッベ洞窟』
- 11 余市町教育委員会事務局 1956『シリバ・ケルーン発掘概要』
- 12 五十嵐鉄 1934『大谷地貝塚の層位的研究』
- 13 五十嵐鉄 1936『大谷地貝塚出土土器に表れたる縄文土器の発達歴史』
- 14 久保武夫 1970「余市町附近のストーンサークルの分布」『北海道の文化 18』
- 15 大崎山遺跡調査団 1965『余市町大崎山遺跡第一次調査概要』
- 16 高倉新一郎、大場利夫 1965「余市町大崎山遺跡について」『北方文化研究報告 第二十輯』
- 17 余市町教育委員会 1968『昭和42年度余市町大崎山遺跡調査報告書』
- 18 余市町教育委員会 1971『天台山一統縄文・據文・アイヌ文化の遺跡』
- 19 駒井和愛 1953「余市附近のストーンサークル、環状列石墓、その他」『余市』地方史研究所 編
- 20 佐藤利雄 1977「余市町登川流域丘陵より出土の石棒について」『北海道考古学 第13輯』
- 21 余市町教育委員会 1989『沢町遺跡』
- 22 峯山巖 1958「ヌッチ川遺跡」『郷土研究 No.1』

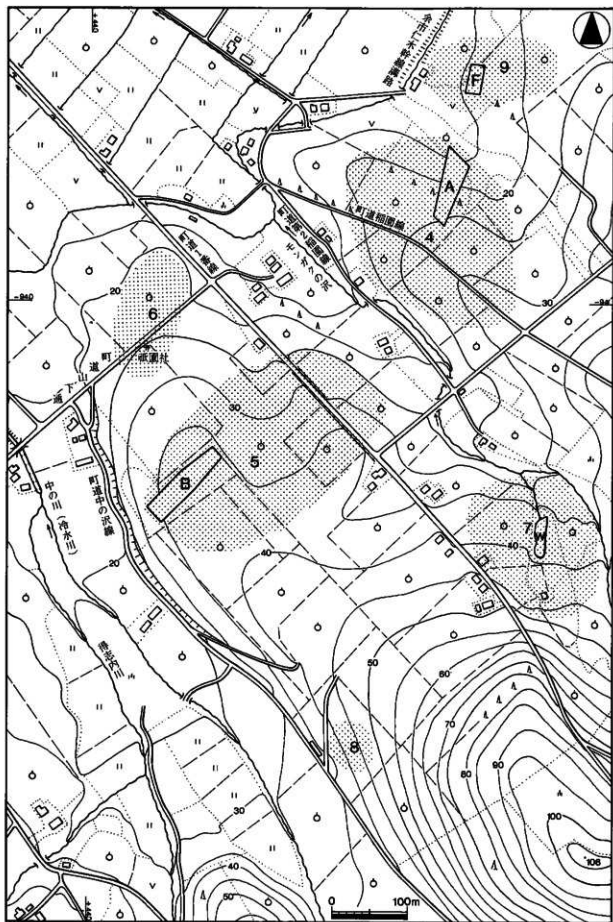


図2 発掘区の位置と周辺の地形

□ 推定包蔵地範囲、Noは表1に同じ
A・B・Fは発掘区を示す。

4. 遺跡の立地と環境

現在「モンガク」と呼ばれている地域は、かつては「ムンカルシナイ」と呼ばれていた（松浦武四郎の蝦夷山川取調図などに記載がある）。ひろくこのあたりの自然・歴史などの調査を続けておられる久保武夫氏は、他の古記録なども照合しながら、ムンカルシナイ→モンカクスあるいはモンカクウス→モンガクへと転じたものではないかとしている（久保、1983）。「ムンカルシナイ」は、『北海道蝦夷語地名解』（永田、1972）では、ムン・カルシュー・ナイ（Mun-karush-nai）、茅を刈る沢と解釈されているが、原義は、mun（草を）kar（刈り）us-i（つけている・所の）nai（沢）であろう。この沢が、今回調査したモンガクA遺跡とモンガクB遺跡の間を流れている「モンガクの沢」（図2参照）であり、今でも清冽な水が豊富に流れている。周辺は現在水田化されてしまっているが、往時は湿地が広がり、アイヌ民族にとっては、日常生活に欠かせない種々の草を刈るには絶好の場であったことが窺われる。モンガクの小字名は、この沢を中心とする丘陵地一帯に付されたものである。

仁木町の位置する辺りは、那須火山帯に連なり、火山活動を始めとする地殻変動の激しい地帯で、殊に海底火山の活動によって噴出した、玄武岩・安山岩・石英安山岩・緑色凝灰岩（グリーンタフ）が目立つことから、一名グリーンタフ地帯とも呼ばれる。モンガク丘陵を含む仁木町東部の丘陵地帯は、赤井川カルデラを取り巻く外輪山の一角を構成している元服山（げんぷくやま）、大黒山（だいくくやま）及び、カルデラの側火山である頂白山（ちょうはくさん）の裾部にあたり、赤井川ローム層と呼ばれる第四紀の土層が厚く堆積している。

遺跡の上に立つと、眼下には余市平野が横たわり、北側正面にはシリバ山・モイレ山の威容がそびえる。余市平野の形成過程についても久保氏の詳細な論考がある（久保、1965・1967、図3～6は同氏の図を元図として使用している）。それによれば、縄文時代前期頃までの余市平野は、気候の温暖化による海水面の上昇で溺れ谷（入海）となっており、その範囲はほぼ標高10mの等高線と一致する（図4）。縄文時代中期頃になると、余市川の運搬する土砂が徐々に三角州を広げ、湾口には砂州（黒川砂丘）が発達し、入海の口が狭められる（図5）。更に縄文時代晩期頃になると、海水面がほぼ現在の水準に達し、黒川砂丘の外側に大川砂丘が発達する。余市川は土砂の堆積を早め、入海の淡水化が進み、泥炭の地積が目立つようになる（図6）。やがて梅川・ヌッチ川・余市川・登川などの流れを残して、入海は完全にその姿を消し、温和な気候と肥沃な土壌に恵まれ、北海道有数の果樹園を擁する余市平野が現出することになる（図3）。

こうした余市平野の発達に連れて、遺跡の分布もその範囲と密度を増し、古余市湾形成時代には丘陵部に限られていたものが、次第に平野部や砂丘上へと展開していく様子がみられる。

モンガク丘陵には、現在8ヶ所の遺跡が登載されているが、本地域に遺跡が所在することは比較的古くから知られており、北海道人類学会雑誌の第一号（寺田、1919）に、フレトイ遺跡と並んで早くもその記載がみられる。しかし、発掘調査が実施されたのは今回が初めてであり、モンガクC・D・E遺跡及び、余市町管内のモンガク古墳、モンガク遺跡とも、その内容は詳らかではない。ただ、今回の限られた調査範囲の中でさえ、旧石器時代から縄文時代までの各期の遺物が出土しているように、モンガクの沢を中心とした地帯は、黒曜石の主要な原産地である赤井川と余市平野とを結ぶ交通の要衝に位置していることもあって、古くから人類の生活に極めて重要な場であったことは明白で、モンガク丘陵の遺跡群がもつ意味は真に大きいものがあるといえよう。

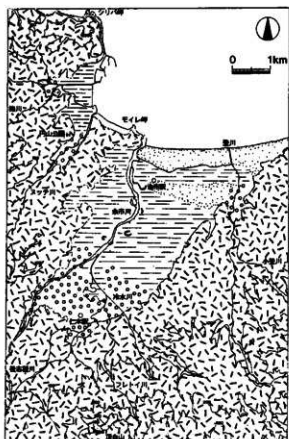


図3 余市平野の地形

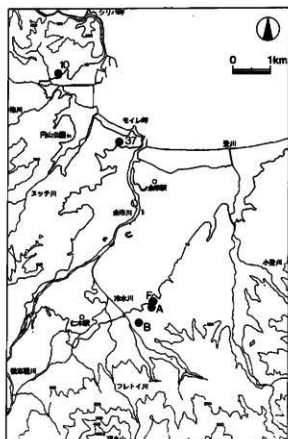


図4 古余市湾形成時代

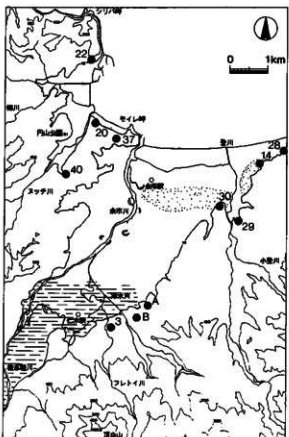


図5 黒川砂丘形成時代

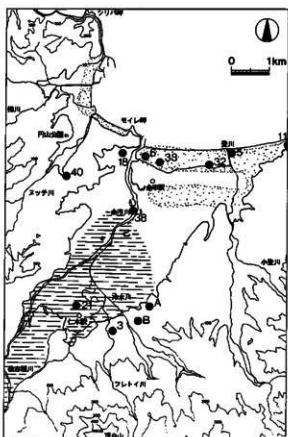



図6 大川砂丘形成時代

凡例  山地丘陵  扇状地  三角洲(泥炭地)  砂丘(砂州)

5. 発掘区の設定

発掘区は、道路予定センターラインを基準として設定した(図7)。F・A遺跡については、S.P. 1500地点とS.P. 1600地点を結ぶ線を基線とし、S.P. 1500地点をX=2、Y=9とし、X軸の正方向を南(S.P. 1600)側に、Y軸の正方向を東(山)側とする座標を、B遺跡については、S.P. 2100地点とS.P. 2200地点を結ぶ線を基線とし、S.P. 2200地点をX=9、Y=2とし、X軸の正方向を南西(S.P. 2300)側に、Y軸の正方向を南東(山)側とする座標を設定した。

グリッドは(XY)で表示する10m×10mの大グリッドを基本とし、各々の大グリッドを1m×1mの小グリッド(xy)100個に分割した。各グリッドの表示は、大グリッドの場合、29区、10・2区などとし、小グリッドを指す場合には、51-00区、15・7-70区などとした。

なおX軸の方位は、F・A遺跡ではN-170°-W、B遺跡ではN-134° 30'-Wである。

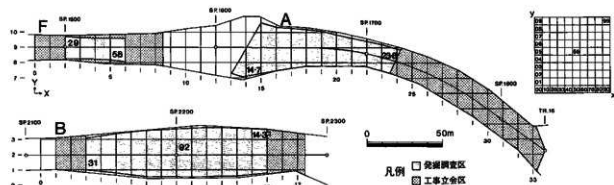


図7 発掘区の設定と表示(右上は大グリッドの分割と小グリッドの表示)

引用参考文献

- 阿部義平 編 1968『仁木町史』
 太田良平ほか 1954『5萬分の一地質図幅説明書 仁木』
 久保武夫 1965「余市海岸の砂丘」『余市高等学校紀要』
 1967「余市平野のおいたちと水害」『郷土の科学 No.55・56』
 1970「余市町附近のストーンサークルの分布」『北海道の文化 18』
 1983「ふるさと再発見 26 モンガクと言うところ」『仁木町広報』
 瀬川秀良 1974『日本地形誌 北海道地方』
 知里真志保 1973『知里真志保著作集 3 生活誌・民族学編』
 寺田貞次 1919「余市附近の土地と古代住民」『北海道人類学会雑誌 第一号』
 永田方正 1972『北海道蝦夷語地名解』
 仁木町郷土史研究会 編 1983『仁木旧地名録』
 1986『仁木ノ古地図』

6. 遺物の分類

土器

今回の調査では、縄文時代早期から縄文時代晩期にわたる土器が出土している。便宜的に縄文時代早期をⅠ群に、以下順に前期、中期、後期、晩期にⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群をあて、統縄文時代にはⅥ群を、縄文時代にはⅦ群をあてた。

Ⅰ群 縄文時代早期：東銅路Ⅲ式（羽状縄文、組紐圧痕、撚り糸圧痕）

Ⅱ群 縄文時代前期：中野式、網文式（斜行縄文）

Ⅲ群 縄文時代中期 a類：天神山式（萩ヶ岡3式相当）

b類：柏木川式（ノダツⅡ式を含む）

c類：北筋式（トコロ6類、小島の沢Ⅰ、Ⅱ式相当）

Ⅳ群 縄文時代後期 a類：余市式（大沼忠春の煉瓦台式、静狩式を含む）

b類：手稲砂山式

c類：大津式

d類：ウサクマイC式、船泊上層式

e類：手稲式

f類：鮫淵式

g類：堂林式

Ⅴ群 縄文時代晩期

Ⅵ群 統縄文時代

Ⅶ群 縄文時代

石器

剥片石器と礫石器とに大別し、更に器種毎に細分している。以下に器種毎の特徴を記す。

剥片石器

石鏃 尖頭器類の内、重量が5g未満のもの。形態としては、有柄凸基、同平基、無柄凹基、柳葉形、木葉形、菱形がある。

石槍 尖頭器類の内、重量が5g以上のもの。石槍と石銛との区分はしていない。形態としては、有柄凸基、同平基、柳葉形、木葉形、菱形、五角形がある。なお、五角形のものについては重量に関らず本類に含めた。また、削・掻器として用いられたものもあると思われるが、両面加工で、ほぼ左右対象形の本類に含めた。

石錐 一般的に、幅広い基部をもつものと棒状のものがあるが、今回の調査では棒状の例はない。

抉入石器 矢柄の研摩等に使用されたと考えられている石器。剥片の縁辺部に抉り（ノッチ）をもつもの。二ヵ所以上の抉りをもつものもある。

楔形石器 骨や木を断ち割るのに用いられたと考えられている石器。両端あるいは四辺に階段状の剝離がみられるもの。断面が凸レンズ状を呈するものが基本的な形態とされているが、文字通り「楔形」を呈するものも多い。

削・掻器 エンド・スクレイパー、サイド・スクレイパー、ラウンド・スクレイパー、つまみ付きナイフ等の定形的な石器のほかに、剥片を素材とし、縁辺に剝離を加えて明瞭な刃部を作出している石器類を含む。先端を切り出しナイフ状に尖らせたものや、木葉形を呈するものがある。

R・F (retouched flake) 二次加工(retouch)のある剥片。縁辺の一部に剝離を加えて刃部を作出しているもの。また、器種の特定ができない各種石器類の未製品等を含む。

U・F (utilized flake) 使用痕のある剥片。縁辺の一部に、使用の際に生じたと思われる刃こぼれ状の連続剝離、もしくは擦痕（肉眼での判別による）のみられる剥片。

石核 縄文時代の石核の場合、旧石器時代にみられる石核と異なり定形的なものはほとんどない。また、石質に問題があるためか礫皮を一度剥いだけで放棄されている例も多い反面、礫皮を素材とした石器も少なくない。従って、石核か否かの判断は容易ではない。ここでは、同一打面から少なくとも二枚以上の剥片を剥いているものについて石核として扱うこととする。

旧石器時代の石器

細石刃 一ないし二本の稜をもち、両側縁が平行する幅1cm未満の縦長(長さが幅の二倍以上)剥片。棒状の木に、何本も並べて組み込み使用されたといわれている。幅1cmを超えるものについては石刃とした。

細石核 細石刃を得る目的で調整された石核。

スポール 両面体石器を調整し細石核とする際や、打面再生の際に剝離される調整剥片。最初に剝離される断面三角形の調整剥片をファースト・スポールと呼ぶ。

礫石器

石斧 泥岩または片岩を素材としたものが多い。大半が破損品である。

たたき石 円礫や楕円礫、棒状礫の端部・側縁部・腹背面に敲打痕を有するもの。一般にくぼみ石と呼ばれる凹状の敲打痕を有するものも含む。なお、「トチむき石状」としたものは、渡辺(1980)に基づく区分で、端部が使用によって偏平もしくは「V」字状を呈するものである。

すり石類 主として安山岩の偏平礫をそのまま、あるいは周辺部を剝離調整して形を整えて用いる。この調整段階に止まり、未使用のものを「石板」とした。今回の調査では使用痕の明確にみられるものはなく、3点共に「石板」である。

石冠 石皿・台石と対になる道具で、すりつぶすことを目的として制作されたもの。鉢巻状に凹帯を廻らすことによって把握部を作出している。

石錘 漁撈の際に網の重りとして用いられたと考えられるもの。偏平な礫の二端、あるいは四方を打ち欠いたもの。

砥石 一面あるいは両面に擦痕や凹状の溝がみられるもの。

板状礫 文字通り板状を呈する礫で、石皿・台石の素材として、あるいはそのまま台石的に使用されるもの。

台石 作業台として用いられたと考えられるもので、一面あるいは両面に擦痕や敲打痕がみられる。

この他に、垂飾と思われるもの、珪化木、焼けた石が出土している。

引用参考文献

江別市教育委員会 1982『萩ヶ岡遺跡』

大沼忠春 1981「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年について」『考古学雑誌66巻4号』

渡辺誠 1980「飛騨白川村のトチムキ石」『藤井祐介君追悼記念考古学論叢』

II モンガクA遺跡

II モンガクA遺跡

1 遺跡の概要

本遺跡は、余市平野に向かって伸びる舌状台地上に位置しており、北にシリノ岬、南にモンガクの沢を挟んでモンガクB遺跡を望むことができる。今回は台地の頂上部から、沢の一部を含む北側の斜面を調査した。この沢は湧水が源となっており、農業用水として利用されている。なお、沢の北側台地縁辺部には、モンガクF遺跡が存在する。

本地点は長年畑地として利用されており、台地頂上部はブドウ畑、斜面部分は、菜種、ビート、豆類などが植えられていた。畑作にともなう整地も幾度が行われており、斜面に何か所かあったと思われる平坦部分も、傾斜の均一化のためにならされてしまっており、プラウ痕がIV層にまで届いている地点も認められた。なお、頂上部と斜面の境界には段が設けられ、風防けの針葉樹が植えられていた。遺物は、こうした整地、耕作によってかなり動かされており、摩耗が甚しい。

出土遺物は、総数 15209 点で、このうち土器片が 1206 点、石器等が 14003 点である。遺物から判明した遺跡の時期は、縄文時代早期から後期、擦文文化期である。また、確認した遺構は、住居跡 1 軒、土壇 5 基であった。

2 層序

- I 層 表土 (耕作土)
- II 層 黒色土 (遺物包含層)
- III 層 暗褐色土 (漸移層)
- IV 層 黄褐色土 (礫を含む)
- V 層 暗褐色土
- VI 層 黒褐色土
- VII 層 黒色土 (植物の根を多く含む)
- VIII 層 青灰色粘土層 (グライ化しており多量の円礫を含む)
- IX 層 黄褐色粘土層 (酸化層)
- X 層 黄褐色粘土層 (IV 層の崩落土)

沢部分は、整地による盛土が厚く堆積しているが、もとの表土(V層)には遺物はみられなかった。

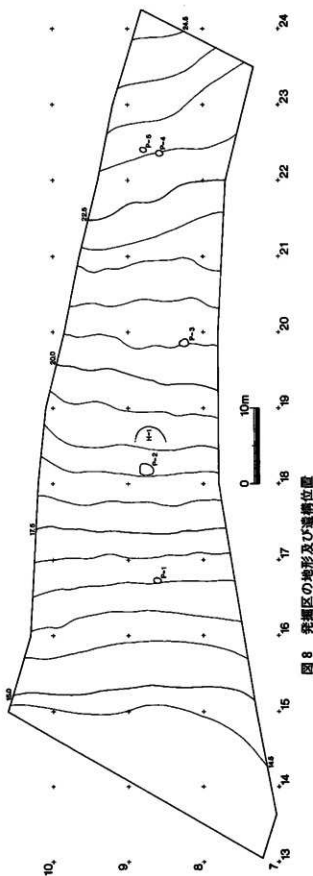


図 8 発掘区の地形及び遺構位置

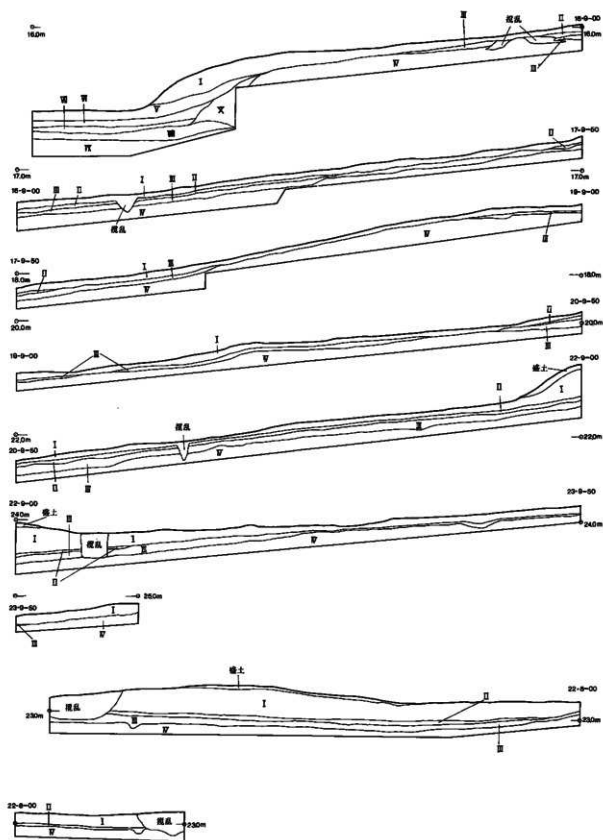


图9 土层断面

3 遺構

今回の調査で検出された遺構は、住居跡1軒(H-1)、土壌5基(P-1~5)である。以下、遺構別に記述する。

H-1 長さ(確認面での最大値、以下同じ)354cm、幅301cm、深さ12cm。

18・8-67区周辺で検出された。Ⅲ層上面で確認され、一部はⅣ層まで掘り込まれている。18・8区付近は、5~15cmの耕作土の下にすぐⅢ層が現われるが、これは先に述べたような整地作業により包含層が削られたため、本来は、比較的平坦な部分であったと思われる。北側半分の立上りを捉えることができなかったのは、整地によって削られてしまったためである。

床面はあまり固くなく、ほぼ平坦で、炭化物などで汚れ、黒曜石・珪岩などの割片が散乱していた。なお、18・8-76区から一括土器が出土している。壁はやや斜めに立上り、壁際に柱穴が廻っているが、斜面の下部では検出できなかった。

南側の壁から1mほど離れた地点に浅い小ピット1をもち、その東側に、楕円形の小ピット2がある。また、はっきりとした炉は検出されなかったが、覆土に多数の割片・砕片とともに焼土粒を含む小ピット3がある。

出土した土器はいずれも縄文時代中期のⅢ群c類土器である。図10の拡大図は、床面から一括で出土した土器の出土状況図で、口縁部から胴部にかけての約二分の一を欠く。図12-1は復元実測図である。胎土に白色岩片、石英などを含み、器面は細かにヒビが入っている。口縁がやや外反し、胴部が少しふくらむ器形である。口唇は丸みを帯び、刻みが施されている。口縁はほぼ平坦で、口縁直下にはO I 刺突文が廻っている。器面には、L R + R L 横回転による羽状縄文が施され、その上からほぼ4cm間隔で横位の綾縄文が施されている。口縁内側にも縄文が付けられ、内面には横位の調整痕がみられる。口縁付近には炭化物が付着しており、同下半部は、熱のため表面が剥落し赤褐色を呈している。口縁直下の刺突文には、内部が炭化物によって埋められているものもある。2は覆土から出土した。口縁部はやや肥厚し、半截竹管状工具による二列の突引文が施されている。さらに口縁直下にも突引文が一列通り、その下にO I 刺突文が施されている。また、口縁部には数ヶ所、逆V字形に粘土紐が貼付され、刺突が加えられている。器面にはL R 縄文が施され、綾縄文が横位に4cm間隔でつけられている。内面には横位の調整痕がみられるが、凹凸を残している。1とは、器形、文様、大きさなどに共通点が多い。3は2と同一個体の口縁部片であり、4・5は2と同一個体の胴部片である。6はR L 縄文が施され、焼成がよく固い。7は口縁部片で、口唇部に突引文が施されているほか、口縁部が肥厚し二列に突引文が加えられ、肥厚帯の直下に刺突文が施されている。器面にはR L 縄文が施され、横位の綾縄文と突引文が加えられている。また、口縁内側には縄文が施されている。

石器は覆土中から4点、小ピット3の覆土中からも4点が得られている。図12-8-9は、黒曜石製の石槍未製品と基部片で、いずれも剝離が浅く、中央部分が凸状に残ってしまっている。10は基部・先端側に刃部加工のみられる礫皮片で、刃部はつぶれている。11・12は一個縁に、13は両側縁に刃こぼれ状の剝離がみられる割片である。この他に、石斧の破片と思われる片岩の割片2点がある。

割片・砕片は、図11に示したように小ピット3を中心に、床面・覆土から総計539点が出土している。内訳は黒曜石が354点、珪質頁岩など黒曜石以外の石質が185点である。

土層注記1 黒色土(Ⅱ層)、2 暗黄褐色土(Ⅱ<Ⅳ層)、3 焼土粒を含む褐色土(Ⅳ>Ⅱ層)

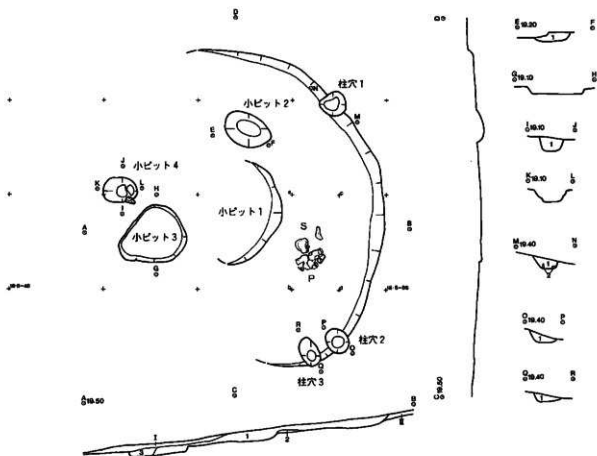


図10 H-1平面及び断面

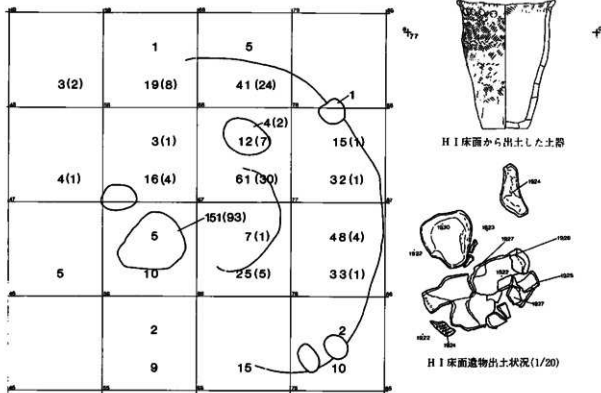


図11 切片出土点数 ()内は頁岩の切片数

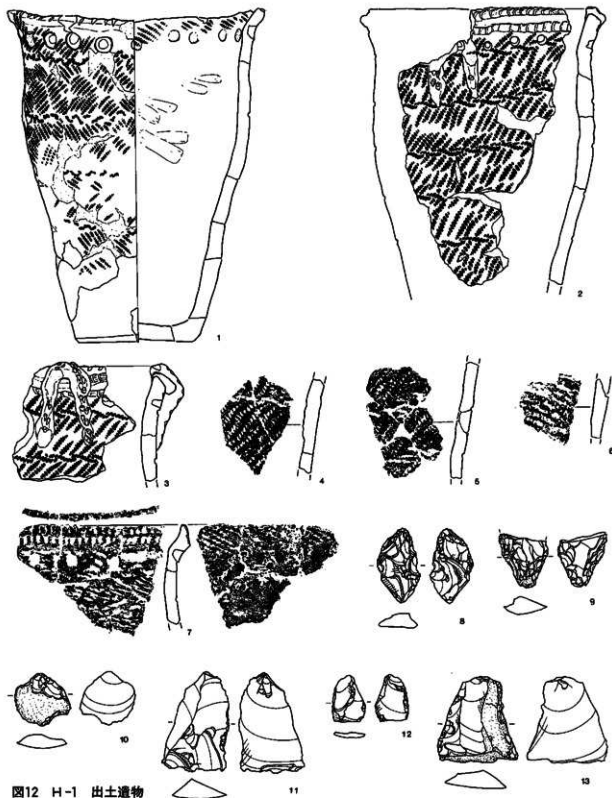


図12 H-1 出土遺物

表4 モンガクA遺跡H-1 出土復元土器一覽

図番	リッド	層位	器形	胴径(cm)	口径(cm)	底径(cm)	特徴
12-1	19-8	床面	深鉢	26.4	20.4	9.5	口縁部入、O1割破文、胴位の横線文、羽状文(RL+LR)
12-2	19-8	覆土	深鉢	(22.2)	16.6	—	口縁から下がる羽状文、尖形文、O1割破文、胴位文、尾端欠

表5 モンガクA遺跡H-1 出土石器一覧

図番	刀	種	層位	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重(g)	備考
12-8	19-8	石槍	覆土	黒曜石	21.1	39.0	7.0	5.0	未経、未検
12-9	19-8	石槍	覆土	黒曜石	29.1	27.2	10.3	6.8	未検
12-10	19-8	R・F	覆土	黒曜石	27.7	29.6	7.4	5.6	断面形状、先端：断面直上、2点
12-11	19-8	U・F	覆土	黒曜石	54.3	34.3	10.3	12.6	一面が凸状
12-12	19-8	U・F	AP-3	黒曜石	24.3	17.7	4.3	1.8	一面が凸状、先端欠損
12-13	19-8	U・F	AP-3	黒曜石	46.8	43.1	13.0	17.2	両面が凸状
—	19-8	石斧片	AP-3	片岩	18.7	6.4	2.1	0.4	中央部
—	19-8	石斧片	AP-3	片岩	13.1	3.3	0.6	0.1	中央部

P-1 長さ88cm、幅64cm、深さ15cm。

16・8-75、76区で検出された。IV層上面でプランを確認し、確認面での形状は楕円形を呈する。土層からみると自然に埋没したものと思われる。南西の壁際に少量の炭化物がみられたのみで、遺物は出土していない。

土層注記 1 黒色土(II層)、2 暗褐色土(II=IV層)、3 褐色土(II>IV層)、4 暗黄褐色土(III>IV層)

P-2 長さ122cm、幅160cm、深さ15cm。

18・8-17区で検出された。IV層上面でプランを確認し、確認面での形状は不整形を呈する。墳底及び南側の壁付近に火山灰粒を多量に含む層(2層)がみられた。土壌の北側にもこうした層の存在が考えられたが、斜面の下側にあたり覆土がほとんど残っていなかったことから確認できなかった。墳底部の西側から北海道式石冠が横倒しの状態で1点出土した(図13、図14-7)ほか、墳底からやや浮いた状態で礫が2個検出された。石冠は一端を欠いているが、全体を非常に丁寧に磨いている。作業面は全体に使い込まれた様子で、片減りはみられない。

本土壌の時期は縄文時代中期と考えられる。

土層注記 1 暗褐色土(II>IV層)、2 径2~5mmの火山灰粒を多く含む暗黄褐色土(III>IV層)、3 火山灰粒を多く含む暗褐色土(III>IV層)、4 褐色土(II>IV層)

P-3 長さ130cm、幅124cm、深さ15cm。

19・8-82で検出された。プランはIII層上面で確認し、確認面での形状は不整形であった。東南の壁際から土器の口縁部の大破片(図13、図14-1)が墳底からかなり浮いた状態で、また西側の墳底近くからは土器の底部(図14-2)が出土している。石器は石槍2点(図14-8・9)と、三角柱状の礫が南寄りの壁際から出土しているほか、11点の礫が出土している。図14-1は、平線で口縁直下に縄線文が一条めぐる。胴部がややふくらみ、器面には結束羽状縄文が施文されている。内面には指頭による調整痕が見られる。口縁部には炭化物が厚く付着している。2は墳底から出土した底部である。器面にはRL縄文が施文され、底面は調整などによる凹凸が残っている。内面には指頭による調整痕が見られ、中央部が盛り上がっている。8は、逆刺をもつ石槍であるが、H-1出土の石槍同様に、剝離が十分に伸びずに凸状に残った部分がある。同9は、柳葉形を呈す石槍であるが、基部が本土壌内からの出土で、先端部は19-9区から出土したものである。

本土壌の時期は、出土土器片から縄文時代中期後葉と考えられる。

土層注記 1 黒褐色土(IV>II層)、2 ロームブロックを含む暗黄褐色土(III>IV層)

P-4 長さ98cm、幅84cm、深さ32cm。

22・8-35区から検出された。IV層上面でプランを確認し、確認面での形状は円形を呈する。壁はオーバーハングし墳底は平担である。土層は明確に自然堆積であることを示していたが、土

掘下部やや東寄りの覆土4層中に、白色粘土状の物質が検出された。骨の可能性があると思われるが確認できなかった。覆土から土器片が1点(図14-3)、剥片2点、礫1点が出土している。図14-3は北筒式土器に比定されるⅢ群b-3類土器である。口縁部は肥厚し、LR縄文が施文されている。器面は摩耗し赤褐色を呈している。また、規模、形状ともに類似する隣接のピット5からも、同時期の土器片が出土している。

本土壌の時期も、出土土器片から縄文時代中期後葉と考えられる。

土層注記 1 黒色土(Ⅱ層)、2 暗褐色土(Ⅲ層)、3 褐色土(Ⅳ>Ⅲ層)、4 小礫を含む暗褐色土(Ⅳ>Ⅱ・Ⅲ層)、5 黒色土(Ⅱ層)

P-5 長さ77cm、幅68cm、深さ26cm。

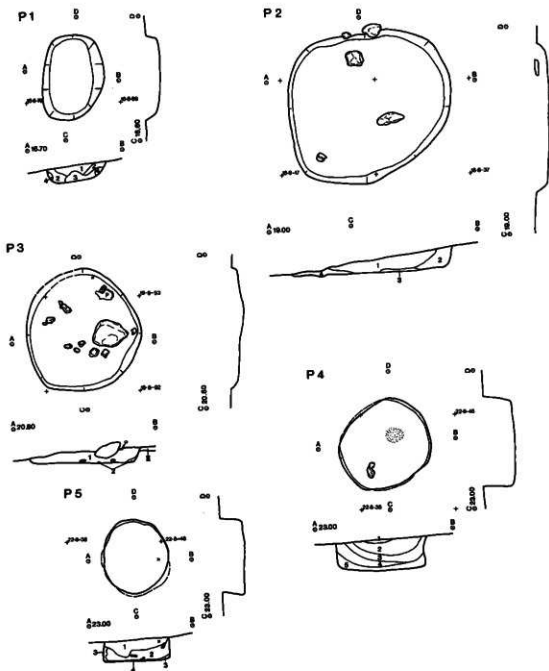


図13 土坑平面及び断面

22・8-37区で検出された。IV層上面でプランを確認し、確認面での形状は円形を呈する。壁はオーバーハングし、城底は平坦である。確認面付近の土層は自然堆積を示しており土壌の上面はくぼんでいたと思われる。遺物は、覆土から土器片5点(図14-4~6)、削・掻器1点(図14-10)、すり石片1点(同11)、剥片4点が出土している。図14-4は口縁部破片で、口縁に三列の突引文を施文し、その直下にO I 刺突文を加えている。5は胴部破片で、器面は暗褐色を呈し、摩耗している。10は削・掻器の先端部片と思われるもので、かなり焼けている。11はすり石片で、剝離調整が施されている。10同様に焼けている。

土層注記 1 暗褐色土(Ⅱ>Ⅳ層)、2 黒色土(Ⅱ層)、3 ローム粒を含む暗黄褐色土(Ⅳ>Ⅱ層)、4 褐色土(Ⅱ・Ⅲ>Ⅳ層)

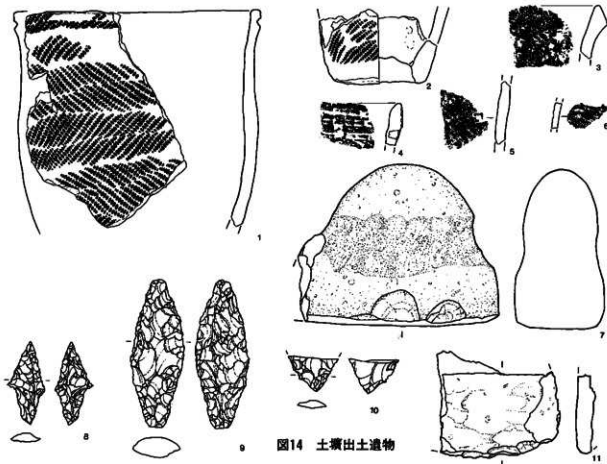


図14 土壌出土遺物

表6 モンガクA遺跡土壌出土復元土器一覽

図番	遺構	層位	器形	胴(cm)	口(cm)	髒(cm)	特徴
14-1	P-3	覆土	深鉢	(17.2)	19.8	—	平縁、口縁下に三列の突引文(RI+LR)、底縁欠
14-2	P-3	覆土	深鉢	(5.9)	—	7.2	底縁欠、底縁R1欠

表7 モンガクA遺跡土壌出土石器一覽

図番	遺構	器種	層位	石材	長(mm)	幅(mm)	厚(mm)	重量(g)	備考
14-7	P-2	石冠	覆土	安山岩	85.7	105.9	45.5	610	一器欠
14-8	P-3	石槍	覆土	黒曜石	42.8	20.4	7.0	3.1	剥離あり
14-9	P-3	石槍	覆土	黒曜石	77.5	27.9	10.6	22.0	剥離あり、先部は19-9区I層から出土
14-10	P-4	削・掻器	覆土	黒曜石	18.2	26.6	5.9	2.0	先端部片、前縁部削離加工、焼けている
14-11	P-4	すり石片	覆土	安山岩	63.4	53.7	11.5	32.1	削れている

4 包含層出土の遺物

土器

モンガクA遺跡からは、1206点の土器が出土した。時期は多様で、縄文時代早期から後文文化期に及んでいる。しかし、その多くは長年にわたる整地作業や耕作によって摩耗した小破片で、復元し得たものはなかった。以下、分類別に記述する。

I 群土器 (図15-1・2)

縄文時代早期の土器である。1は平縁で口縁直下に一条の燃糸文が廻っている。器面は摩耗が甚しい。2は器面に結条体回転文が施されている。用いられている結条体は、燃りの方向が違ふ二本の燃り糸を組み合わせたものである。

II 群土器 (図15-3~8)

縄文時代前期の土器である。3は器面が暗褐色を呈し、太めの縄文がほぼ水平に施されている。口縁は平縁で、内面には横位の調整痕がみられ、胎土に繊維を含む。口縁下に補修孔がみられる。4は器面にR L縄文が施されており、よくみると部分的にL R縄文もみられる。内面調整は比較的粗く、指頭による凹凸がみられる。胎土に繊維を含むがそれほど顕著ではない。口唇は薄くなっている。5は口唇が薄くなっており、胎土に繊維を含む。器面にはR L縦回転の縄文が施されている。6は器面にR L縄文が施されており、赤褐色を呈し摩耗が甚だしい。胎土には繊維を含んでいる。7は太めのL R縄文が施され、胎土に少量の繊維を含む。内面の調整は粗く、指頭による凹凸が顕著である。8は胎土に繊維を含む、器面には太めの縄文が施されているが、やや摩耗している。

III 群土器 (図15-9~図18-110)

縄文時代中期の土器群である。天神山式、柏木川式、北筒式の三類(a~c)に細分したが、いずれも中期後半の土器である。

a 類 (図15-9)

器面にR L縄文が施され、口縁部は肥厚し、二列の突引文が施されている。口縁部突起の直下にV字形の貼付帯が設けられ、これに連なってジグザグ状の貼付帯が垂下する。貼付帯の下端からは二本一組の半截竹管状工具による沈線が延びている。内面は指頭による調整痕がみられる。

b 類 (図15-10~図16-30)

10・11は同一個体である。10は口唇及び器面に複節縄文が施され、口縁部に縄線文が二条横環し、その下に斜めに押圧が加えられている。横環する縄線文の上から、径0.2cm程の棒状玉具によるO I刺突文が加えられている。内面には指頭による調整痕がみられるが、ごく粗いものである。胎土には繊維を含んでいない。11は口縁に二条の縄線文が横環しているほか、その下に斜め右下がりの縄線文が二条みられる。12は胎土に繊維を含む。口縁は平縁で、二条の縄線文が横環する。口唇は丸みを帯び、内面には乱雑な条痕文がみられる。13~16は同一個体である。13は赤褐色を呈し、比較的焼成はよい。14は器面が著しく摩耗している。17は器面の摩耗が著しく、文様が非常に見え難くなっているが、口縁に二条の縄線文が廻っている。18は焼成がよく硬い。口縁直下に無文帯をもち、その下に縄線文が廻っている。口唇は丸みを帯び、やや外反する。19は口唇部に貼付帯をもち、その直下が磨消されている。胴部には羽状縄文(R L + L R)が施されている。口唇は無文で、貼付帯の縫目がみえる。内面には横位の調整痕がみえる。20は、19と同一個体と思われる口縁下から胴体下部の破片で、羽状縄文が施されている。器面上部と内面の底部付近には炭化物が付着している。21は口唇に刻みが施されている。口縁は液状でやや外反し、頂部から右下がりにさきくた工具による沈線がみられる。器形は胴部にかけて少しくびれ、内外面にR L縄文が施されている。胎土には白色の岩片を含んでい

る。岩片の大きいものには、径1cm程のものも含まれている。22は折り返し口縁で、わずかに肥厚した部分の直下に半截竹管状工具による横位の突引文が施されている。内面調整はごく粗い。23は22と同じ折り返し口縁で、肥厚帯に二条の縄線文が施されている。また肥厚帯の直下に横位の縄線文が施され、頸部にはささくれた工具による沈線が横位にみられる。24は胴部の破片で、器面は赤褐色を呈し焼成は良好である。貼付帯が横環し半截竹管状工具による突引文が施されている。貼付帯の直下と内面には縄文が施されている。25も胴部片で、縦位の貼付帯が施されている。貼付帯には半截竹管状工具による刺突文が加えられている。26は器面に横位の縄線文が施され、その上に25と同様の貼付帯が設けられている。27は口縁が外反し、口唇に縄の押圧が施文されている。器面には半截竹管状工具による横位の突引文が施されているが、摩耗が著しいため地文やその他の文様ははっきりしない。内面も著しく摩耗しているが焼成は良好である。28は内外面とも摩耗が著しい。口唇は丸みを帯び平縁で、口縁部に肥厚帯が設けられ、棒状工具による刺突が加えられている。器面にはR L縄文が施されている。29は口唇に竹管状工具による刺突列が施文され、器面にはL R縄文が施されている。内面には横位の調整痕がみられる。30は口唇が薄くなり、器面に半截竹管状工具による突引文が施されている。

c 類 (図16-31~52)

31~33は同一個体である。口縁がやや外反し、胴部が少しふくらむ器形である。口唇は丸みを帯び、何ヶ所かに突起が設けられており、半截竹管状工具による刺突が加えられている。口縁にはO I刺突文が施されている。刺突文の間隔はかなり広く、5~6cm以上はある。突起の直下などの数ヶ所から突引文が垂下し、器面にはL R縄文が施されている。内面には横位の細かい調整痕がみられる。33は胴部の破片で、器面にはL R縄文のみが施されている。内面はへら状工具による調整がやや乱雑になされている。34は口縁が外反し、口唇及び口縁直下に半截竹管状工具による突引文が施されている。器面にはR L縄文と横位の縄線文が施され、その上にO I刺突文が加えられている。35は器面にR L縄文が施されている。口唇は薄く尖り、口縁に二列の突引文が廻っている。36は口唇及び口縁のやや肥厚した部分に突引文が施されている。肥厚帯の下にはO I刺突文が加えられ、器面及び内面にはL R縄文が施されている。37は口縁に半截竹管状工具による突引文が二列施され、内外面にはL R縄文が施されている。突引文の直下にはO I刺突文が加えられている。38は口縁がやや外反し、二列の突引文が施され、その直下にO I刺突文が加えられている。内面には炭化物が付着している。39は器面の摩耗が著しい。口唇はやや角張り、口縁部のわずかに肥厚した部分に二列の突引文が施されている。40は口縁が折り返され、肥厚した部分に竹管状工具による刺突文が加えられている。器面の摩耗が著しい。41は口縁が断面三角状に肥厚し、肥厚帯及びその直下に突引文が施されている。器面にはL R縄文が施されている。なお器面は摩耗が進んでいる。42は口唇に棒状工具による刻みが施され、口縁部の肥厚帯には二列の刺突文が加えられている。これも器面の摩耗が著しい。43も42同様に、口唇に棒状工具による刻みが施され、口縁部に竹管状工具による刺突文が加えられているが、43に比して口縁部は薄い。44は突起部である。口唇には突引文が施され、頂部から貼付帯が垂下し、口縁の下1cm程に肥厚帯が設けられている。肥厚帯上端には突引文が加えられており、内面にはL R縄文が施されている。45は口縁の肥厚帯に二列の爪形文が施されて、肥厚帯直下に加えられたO I刺突文からは突引文が垂下する。46は折り返し口縁で、二列の爪形文が施されており、45と同一個体かと思われる。47は口縁部が断面三角形に肥厚し、三列の突引文が施されている。内面にはL R縄文が施されている。48は器面の摩耗が著しく文様が判然としない。49は口縁がやや外反し胴部が少しふくらむ器形で、口唇と器面にL R縄文が施されている。口縁部に加えられたO I刺突文の下に横位の縄線文が施されて

いる。50～52は同一個体の土器の胴部である。50は器面にR L縄文が施され、横位に廻らされた突引文の上に、直交するように縦位の突引文が加えられている。51は器面の摩耗が著しいが、同様の突引文がみられる。52は羽状縄文(R L+L R)が施されている。

53～110は、Ⅲ群に属するが地文のみのため類別に分けることが困難な資料である。53は暗褐色を呈する器面に結束羽状縄文が施されており、内面にはL R縦回転の横走縄文がみられる。58・59は横走する綾縄文が施されている。61は内外面にL R縄文が施され、口唇に刻み加えられている。82は胎土にわずかに繊維を含む。

Ⅳ群土器 (図19-111～136)

縄文時代後期の土器群である。いずれも初頭から中葉にかけての資料で、余市式、手稲山山式、大津式、ウサクマイ式、手稲式、鯉淵式の六類(a～f)に細分した。

a類 (図19-111～116)

111は口縁が外反し器面にL R縄文が施されており、縄文の切れ目に稜がみられる。焼成は良好である。112は口縁がやや外反し、口唇が丸みを帯びわずかに肥厚している。113は内面に横位の調整痕がみられる。焼成は良好で断面に粘土を接合した筋がみられる。116は結束羽状縄文が施されている。

b類 (図19-117～127)

117は、口縁が肥厚し突起部をもつ。肥厚帯には二条の縄文が廻り、突起部の直下にV字状の貼付帯が設けられている。器面にはL R縄文が施され、ささくれだった工具による弧状の沈線などが加えられている。内面にもL R縄文が施されている。口縁上部及び内面には炭化物が付着している。118は117と同一個体で、ささくれだった工具による沈線が施文されている。120は弧状の沈線が施文されている。124は同心円状の沈線が描かれており、その間を部分的に短い沈線で充填している。127は鋭さの感じられる深い沈線が弧状に描かれている。

c類 (図19-128)

口唇が薄くなり、横位に蛇行した貼付帯が設けられている。器面の摩耗が著しい。

d類 (図19-129)

器面にL R縄文が施され、矩形の沈線文が配されている。内面は摩耗しており調整痕などを観察することはできなかった。

e類 (図19-130)

無文で内外面の調整は粗く、口唇は薄くなり内傾している。

f類 (図19-131～134)

131は口縁が波状をなし、外面と内面の一部及び口唇部にR L縄文が施されている。内面は良く磨かれており横位の調整痕がみられる。口唇に縄文を施すのはd類などにみられることから、Ⅳ群d類に含まれる可能性もある。132はL R縄文が乱雑に施され、その上に沈線文が配される。133-134は底部である。134は内面が黒色を呈し炭化物が付着している。

V群土器 (図19-135)

縄文時代晩期の土器である。横走する沈線文が施され、内面は良く磨かれている。

Ⅵ群土器 (図19-136)

撥文文化期の土器である。ややふくらみをもつ胴部からほぼ直立する頸部にかけての破片である。器面は淡い橙色を呈し、頸部にはささくれった棒状工具による沈線が加えられており、胴部にはハケ目状の調整痕がみられる。

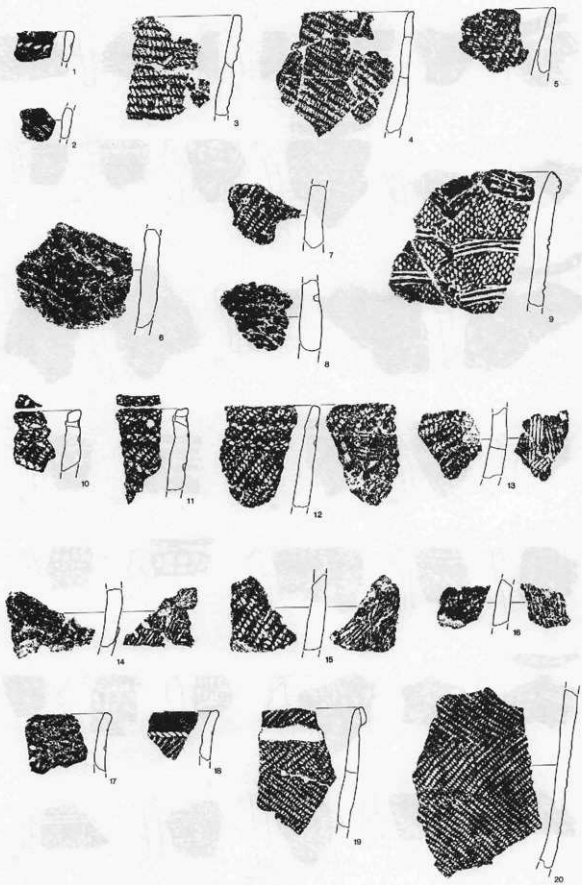


図15 包含層出土の土器 (1)

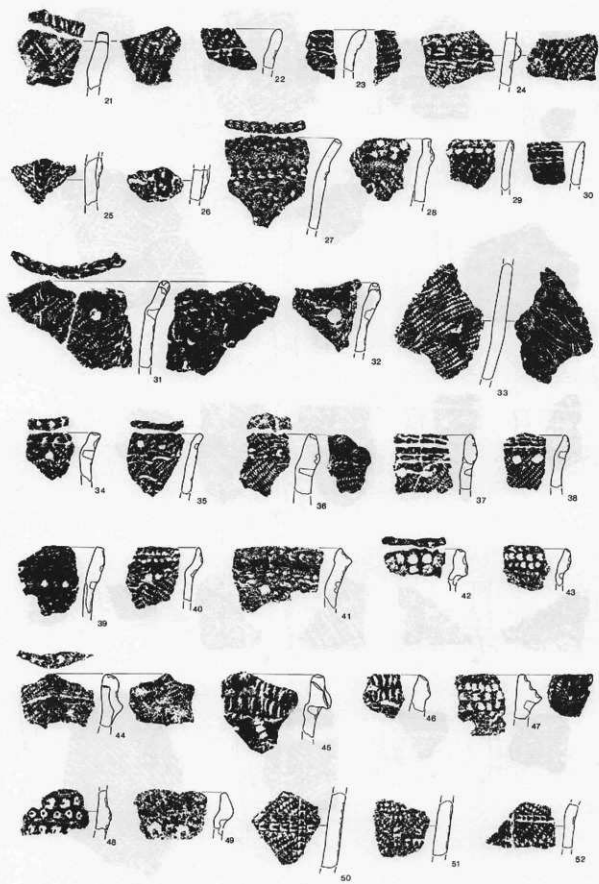


図16 包含層出土の土器 (2)

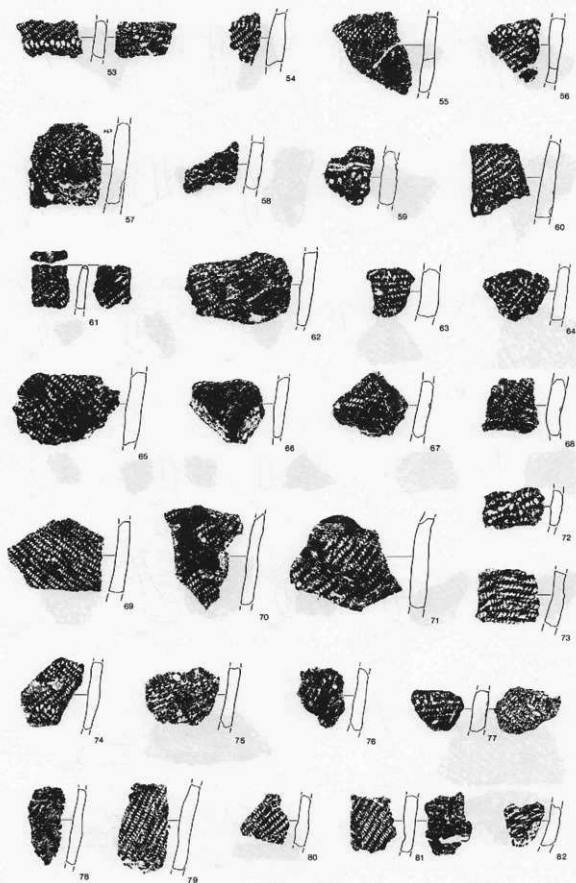


図17 包含層出土の土器 (3)

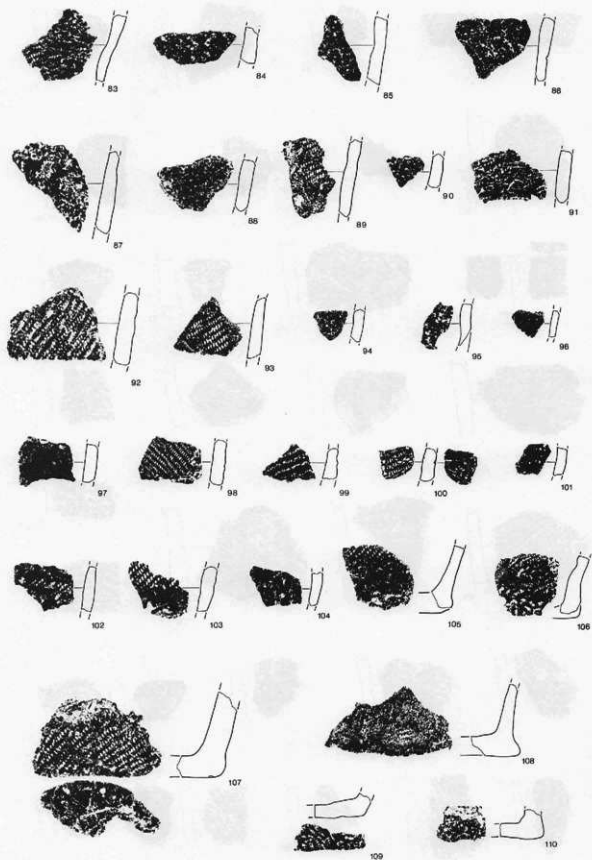


図18 包含層出土の土器 (4)

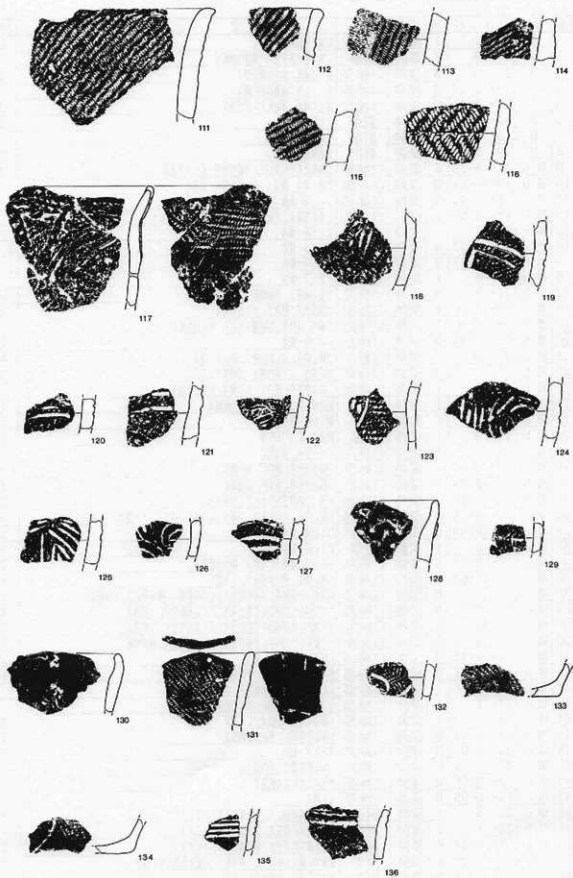


図19 包含層出土の土器 (5)

表8 モンガクA 遺跡拓影機軸土器一覽(1)

図番	分類	グリッド	層位	器形	部位	文	様	通称番号
1	I	20・7	I	深鉢	口縁部	口縁に横位の線刻文		217
2	I	17・8	I	深鉢	胴部	二本の縦向きを隔いた横線刻文		83
3	II	20・9-27	II	深鉢	口縁部	防土に横線、太めの縦走線		285
4	II	16・8-28	II	深鉢	口縁部	R.L・L.R二種類の斜行刻文		38
5	II	20・8-31	III	深鉢	口縁部	防土に横線、縦向斜行刻文		240
6	II	20・9	I	深鉢	胴部	R.L斜行刻文		268
7	II	16・9-38	II	深鉢	胴部	L.R斜行刻文		62
8	II	19・9-78	II	深鉢	胴部	表面磨光		201
9	III a	21・8-36	II	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に突起文、半縦竹管状工具による沈線		344
10	III b	16・10-50	III	深鉢	口縁部	口唇に横文、縦線文、R.L斜行刻文、刺突文		76
11	III b	16・9-49	II	深鉢	口縁部	10と同一模様		66
12	III b	16・8-68	II	深鉢	口縁部	二本の縦線文、L.R横文、内面に垂線文		42
13	III b	16・7	I	深鉢	胴部	12と同一模様		25
14	III b	15・7-87	II	深鉢	胴部	12と同一模様		2、6
15	III b	15・7-87	II	深鉢	胴部	12と同一模様		6
16	III b	15・8	I	深鉢	胴部	12と同一模様		10
17	III b	21・8-05	II	深鉢	口縁部	二本の縦線文、表面磨光		313
18	III b	20・9	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯、縦線文、R.L斜行刻文		269
19	III b	19・9	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯、羽状刻文(R.L+R.L横刻)		183
20	III b	19・9-86	II	深鉢	口縁部	19と同一模様		206
21	III b	22・8	I	深鉢	口縁部	口唇に横文、R.L斜行刻文、内面L.R横文		419
22	III b	21・8-42	II	深鉢	口縁部	口縁部、L.R斜行刻文、肥厚帯下に突起文		348
23	III b	21・9	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に突起文、L.R横文、内面L.R横文		391
24	III b	22・8	I	深鉢	胴部	胴付帯に突起文、L.R横文、内面横文		418
25	III b	17・9	I	深鉢	胴部	胴付帯に突起文		106
26	III b	17・9	I	深鉢	胴部	縦線文、胴付帯に突起文		104
27	III b	21・8	I	深鉢	口縁部	口唇に横文、表面磨光		299
28	III b	16・8	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に刺突文、表面磨光		27
29	III b	21・8-05	II	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に刺突文、表面磨光		312
30	III b	20・9-18	II	深鉢	口縁部	口縁部半縦竹管状工具による突起文		284
31	III c	21・8-18	II	深鉢	口縁部	口縁に突起、口唇に横文、突起から垂下する突起文、L.R横文、O.I刺突文		324
32	III c	21・8-90	II	深鉢	口縁部	31と同一模様		381
33	III c	21・8	I	深鉢	胴部	31と同一模様		300
34	III c	20・8-13	II	深鉢	口縁部	口唇及び口縁部下に突起文、胴付帯の線刻文		237
35	III c	21・8-62	II	深鉢	口縁部	口唇に横文、胴付帯の線刻文、L.R横文		363
36	III c	20・8-41	II	深鉢	口縁部	口縁部下の突起帯に半縦竹管状工具による刺突文、口唇に突起文、L.R横文		244
37	III c	20・8-91	II	深鉢	口縁部	やや肥厚した口縁部に半縦竹管状工具による刺突文、L.R横文		263
38	III c	21・8	I	深鉢	口縁部	やや肥厚した口縁部に半縦竹管状工具による刺突文、L.R横文		300
39	III c	21・8-77	II	深鉢	口縁部	やや肥厚した口縁部に半縦竹管状工具による刺突文、表面磨光		374
40	III c	20・8-82	II	深鉢	口縁部	口縁部に刺突文、L.R横文		259
41	III c	17・8-68	II	深鉢	口縁部	肥厚帯の上下に突起文、L.R横文		102
42	III c	16・9	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に突起の刺突文、表面磨光		47
43	III c	17・8	I	深鉢	口縁部	やや肥厚した口縁部に二列の刺突文、表面磨光		86
44	III c	22・9	I	深鉢	口縁部	口縁部に突起、突起文、L.R横文		438
45	III c	22・9-21	III	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に二列の爪形刺突文		446
46	III c	22・8-03	II	深鉢	口縁部	45と同一模様		426
47	III c	22・9-13	II	深鉢	口縁部	口縁部肥厚帯に三列の突起文		445
48	III c	19・9-08	II	深鉢	口縁部	竹管状工具による刺突文		187
49	III c	19・9-09	II	深鉢	口縁部	L.R横文		189
50	III c	22・8	I	深鉢	胴部	胴付帯に突起の突起文、羽状刻文(R.L+L.R)		417
51	III c	22・8	I	深鉢	胴部	胴付帯に突起の突起文、羽状刻文(R.L+L.R)		417
52	III c	21・8-44	II	深鉢	胴部	胴付帯に突起の突起文、羽状刻文(R.L+L.R)		352
53	III	20・8-28	II	深鉢	胴部	縦走突起刻文、(R.L+L.R横刻)、内面に縦線刻文		238
54	III	20・9-17	II	深鉢	胴部	縦走突起刻文、内面は凹線による沈線		283
55	III	20・8-68	II	深鉢	胴部	縦走突起刻文、内面は凹線による沈線		254

表9 モンガウA遺跡拓影掲載土器一覧(2)

図番	分類	グリッド	胎	器形	部位	文	様	遺物番号
56	Ⅲ	19・8-72	Ⅱ	深鉢	胴部	R1+LR羽状文、表面やや滑長		172
57	Ⅲ	19-10-10	Ⅱ	深鉢	胴部	R1+LR羽状文、内面は中や四凸を成すもほぼ平滑、表面滑長		211
58	Ⅲ	16・8-08	Ⅱ	深鉢	胴部	R1+LR羽状文、腹位の縦線文、表面滑長		37
59	Ⅲ	18・9-47	Ⅱ	深鉢	胴部	腹位の縦線文、LR横文、表面滑長		140
60	Ⅲ	22・8	I	深鉢	胴部	腹位の縦線文、LR横文、内外面滑長		417
61	Ⅲ	19・8-92	Ⅲ	深鉢	口縁部	内外面にLR横文、口縁に刻		175
62	Ⅲ	表採	I	深鉢	胴部	LR横文、表面滑長、内面に灰化層		458
63	Ⅲ	16-10	I	深鉢	胴部	LR横文、胎土に縦線を含む		70
64	Ⅲ	21・8-63	Ⅱ	深鉢	胴部	縦線刻文?		367
65	Ⅲ	18-10-21	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、表面やや滑長		156
66	Ⅲ	18-10-80	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面に腹位の縦線、内外面滑長		163
67	Ⅲ	21・8-25	Ⅱ	深鉢	胴部	腹位の縦線文、LR横文、表面滑長		328
68	Ⅲ	20・9	I	深鉢	胴部	腹位の縦線文、LR横文		273
69	Ⅲ	19・9-86	Ⅱ	深鉢	口縁部	LR横文、内面に縦線		206
70	Ⅲ	22・8-99	Ⅱ	深鉢	口縁部	LR横文、内面に腹位の縦線		436
71	Ⅲ	18・9-47	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、胎片上部に腹位の縦線、胎土に縦線を含む		140
72	Ⅲ	20・7-59	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内外面滑長		222
73	Ⅲ	16・9-39	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横線文、腹位の縦線		63
74	Ⅲ	21・8-90	Ⅱ	深鉢	胴部	結束羽状文(R1+LR)、表面一部刻		381
75	Ⅲ	22・7-09	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面に胎面による凹凸、表面滑長、一部に右上がり筋の刻文?		413
76	Ⅲ	18・9-47	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、表面滑長		140
77	Ⅲ	21・9	I	深鉢	胴部	LR横文、内面R1横文		394
78	Ⅲ	23・8-79	Ⅲ	深鉢	胴部	無文、胎面による縦線		455
79	Ⅲ	20・9-36	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面に胎面による縦線		288
80	Ⅲ	20・9-15	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面に胎面による縦線		280
81	Ⅲ	19・9-67	Ⅲ	深鉢	胴部	LR横文、内面に腹位の縦線		200
82	Ⅲ	20・8-83	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内外面滑長		261
83	Ⅲ	18・9-47	Ⅱ	深鉢	胴部	胎土するLR横文、底部付近の胎片		142
84	Ⅲ	19・7-29	Ⅱ	深鉢	胴部	R1横文、表面滑長、内面は平滑		164
85	Ⅲ	20・7-59	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、表面滑長、内面に胎面による縦線		222
86	Ⅲ	20・9	I	深鉢	胴部	表面滑長		271
87	Ⅲ	22・8-99	Ⅱ	深鉢	胴部	表面滑長、内面は平滑		436
88	Ⅲ	18-10-80	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面に腹位の縦線		163
89	Ⅲ	22・8-01	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、表面滑長		424
90	Ⅲ	20・9-27	Ⅱ	深鉢	胴部	表面滑長、内面は平滑		285
91	Ⅲ	21・9-15	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内外面やや滑長		399
92	Ⅲ	15・8	I	深鉢	胴部	LR横文、内面滑長		11
93	Ⅲ	22・8-01	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面に胎面による凹凸、表面やや滑長		424
94	Ⅲ	18・9	I	深鉢	胴部	LR横文、表面滑長		140
95	Ⅲ	18・9-47	Ⅱ	深鉢	胴部	無文、表面一部刻		140
96	Ⅲ	18・9-47	Ⅱ	深鉢	胴部	表面滑長		140
97	Ⅲ	16-10-72	Ⅲ	深鉢	胴部	表面滑長、R1横文、内面はごく細い縦線		78
98	Ⅲ	21・8-61	Ⅲ	深鉢	胴部	R1横文、内面は平滑		362
99	Ⅲ	21・8-31	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面滑長		334
100	Ⅲ	20・8-53	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、腹位の縦線文、内面滑文		250
101	Ⅲ	20・8-68	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面滑長		254
102	Ⅲ	20・8-40	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内外面滑長		243
103	Ⅲ	22・8-99	Ⅱ	深鉢	胴部	LR横文、内面滑長、胎片下平は無文		436
104	Ⅲ	21・9-51	Ⅱ	深鉢	胴部	無文、胎面に腹位の縦線		408
105	Ⅲ	21・8-36	Ⅱ	深鉢	底部	LR横文、胎片付近無文		342
106	Ⅲ	16-10-72	Ⅲ	深鉢	底部	LR横文、胎片付近		78
107	Ⅲ	19・9-15	Ⅱ	深鉢	底部	LR横文、胎面に横文、胎片が若干張出す、胎面は中や丸みを帯び		192
108	Ⅲ	表採	I	深鉢	胴部	表面滑長、胎片が大きく張出す		457
109	Ⅲ	19-10-00	Ⅱ	深鉢	底部	胎面にR1横文		209
110	Ⅲ	21・8-90	Ⅱ	深鉢	胴部	表面滑長、胎面による縦線		381

表10 モンガクA 遺跡拓影掲載土器一覧 (3)

図番	分類	グリッド	順	器形	部位	文様	遺物番号
111	IV a	17・ 8-18	II	深鉢	口縁部	L.R. 横文、口縁やや平反、内面は平滑	97
112	IV a	16・ 8-80	II	深鉢	口縁部	L.R. 横文、口縁平反、口縁はやや丸みを帯びる	43
113	IV a	20・ 7-59	II	深鉢	胴部	L.R. 横文、内面は平滑	222
114	IV a	18・ 9-81	II	深鉢	胴部	L.R. 横文、内面は平滑	148
115	IV a	20・ 7-38	II	深鉢	胴部	L.R. 横文、内面は平滑	219
116	IV a	19・ 9-87	II	深鉢	胴部	羽状横文(R.L.+L.R.)	207
117	IV b	21・ 9-24	II	深鉢	口縁部	彫摩写に二条の縦横文、ささくた工具による羽状の沈線文、R.L. 横文、内面に横文	405
118	IV b	21・ 9-15	II	深鉢	胴部	117と同じ個体	400
119	IV b	18・ 9-46	II	深鉢	胴部	L.R. 横文、ささくた工具による彫摩の沈線文	138
120	IV b	18・ 9-58	III	深鉢	胴部	L.R. 横文、羽状の沈線文	145
121	IV b	19・ 9-78	II	深鉢	胴部	L.R. 横文、平行沈線文	203
122	IV b	18・10-80	II	深鉢	胴部	L.R. 横文、木の葉状の沈線文	163
123	IV b	20・ 7-38	II	深鉢	胴部	沈線文の間に刺突	219
124	IV b	19・10-28	II	深鉢	胴部	同心円状の沈線文	214
125	IV b	19・10-28	II	深鉢	胴部	ささくた工具による羽状の沈線文、内面は平滑	214
126	IV b	19・ 8	I	深鉢	胴部	羽状の横い沈線文	166
127	IV b	17・ 8-65	II	深鉢	胴部	ささくた工具による羽状の沈線文、内面は平滑	101
128	IV c	15・10	I	深鉢	胴部	羽状の彫摩写、内外面彫摩	23
129	IV d	16・ 9	I	深鉢	胴部	57.57. 状の沈線文、内面彫摩	48
130	IV e	18・ 7-69	II	深鉢	口縁部	口縁内反、横文、唇縁による彫摩状	122
131	IV f	21・ 9-72	II	深鉢	口縁部	R.L. 横文、横い波状口縁、内面は平滑	411
132	IV f	18・ 9-89	II	深鉢	胴部	彫摩写R.L. 横文、羽状の沈線文	151
133	IV f	20・ 9-70	II	深鉢	底部	R.L. 横文	290
134	IV f	20・ 9-70	II	深鉢	底部	134と同じ個体	290
135	V	15・ 7	I	深鉢	胴部	横位の平行沈線文	3
136	VII	21・ 9-03	II	鉢	胴部	ハケ目、平行沈線文、内面彫摩	397

石器等

石器等の器種・グリッド別の点数は次頁の表に示したとおりで、遺構外からの出土は14624点、このうち石器は204点である。出土地点の分布には極端な片寄りはみられないが、耕作等の影響でかなり動かされているものが多いと考えられるので、本来の分布傾向は捉えることはできない。器種別には石鏃・石槍が多いが、その大半が未製品あるいは破損品である。また、石皿の出土がなく、台石もわずか1点の出土である点が特徴的である。

石鏃は20点の出土で、このうち未製品が8点ある。石材は全て黒曜石である。形態は無柄凹基4点、有柄凸基6点、同平基1点、柳葉形・菱形各2点、不明5点である。図20-1は、無柄凹基の未製破損品である。5はかなり肉厚のもので、石鏃の可能性もある。なお、未製品で「折れ」としたものは、調整加工中に折れたと思われるもの、「つぶれ」としたものは、剝離が十分に延びず、凸状に残ってしまった部分があるために、製作途中で放棄されたと考えられるもの、「はがれ」としたものは、剝離が大きく入り過ぎてしまったために、放棄されたと考えられるものである。

石槍は47点の出土で、未製品が21点ある。石材は頁岩が3点あるほかは全て黒曜石である。形態は逆刺をもつもの7点(有柄凸基6点、同平基1点)、逆刺のないもの12点(柳葉形4点、菱形3点、木葉形5点)、不明28点である。

石鏃は、図20-19に示した基部幅広のもの1点が出土しているだけである。

削・掻器は27点の出土で、頁岩製が4点あるほかは全て黒曜石製である。つまみ付きの例は、図20-20・24・26の3点でいずれも縦長である。先端を切り出しナイフ状に尖らせている例は、図21-31・32など3点がある。ラウンドスクレイパーは、図20-21・25、図21-35など6点、サイドスクレイパー(図20-27)、エンドスクレイパー(同28)、サイド・エンドスクレイパー(同29)が各1点ある。図20-22は木葉形を呈するもので、主剝離面の打点側を先端としている。

楔形石器は、いずれも黒曜石製のものが4点出土している。

R・Fは30点あり、うち2点が頁岩製、U・Fは14点で、石質は全て黒曜石である。

石核は26点の出土で、素材は全て黒曜石である。

石斧は破片を含めて12点出土している。石材は泥岩5点、片岩6点、粘板岩1点である。図22-51は刃部のみを研ぎ出したもので、刃部には刃こぼれ状の剝離が顕著である。同52は、すり切り痕を残すものである。

たつき石は14点出土している。石材は安山岩が11点と圧倒的で、凝灰岩・凝灰質砂岩・砂岩が各1点ある。重量は209～660gで、平均は403gである。図22-54・55はいわゆるトチむき石状の使用痕をもつものである。図23-56は三面に二カ所ずつの凹痕をもつ。57は両面に凹痕が連続して残されている。58は使用痕は不鮮明であるが、握り部分に丹念な剝離調整が施されており、57のように両面を使用するタイプのものと思われる。

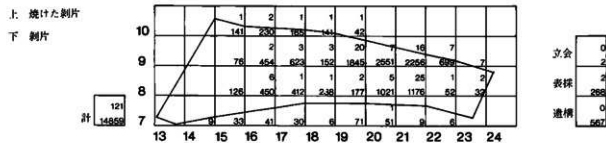
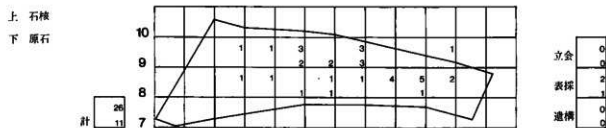
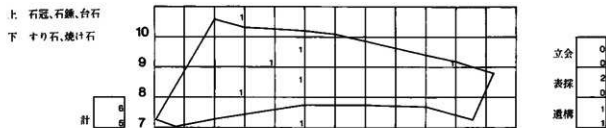
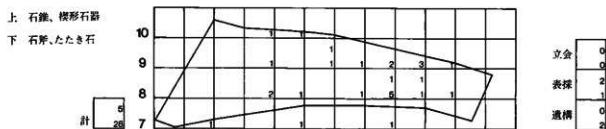
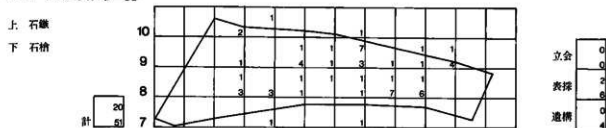
すり石は3点出土している。いずれも使用痕は明確でないが、扁平な楕円礫に剝離調整を加え、一辺を薄く作出して作業面とするものである。石材は2点が安山岩、1点が凝灰質砂岩である。

石冠は2点出土している。共に安山岩製で、両端を欠いている。使用面は片減りが目立つ。

石鏟は、未製品と思われるもの2点出土している。石材は安山岩と玄武岩である。

台石は、安山岩を素材とし一面を磨いて平らにしたもの1点出土している。

表11 石器等分布一覧



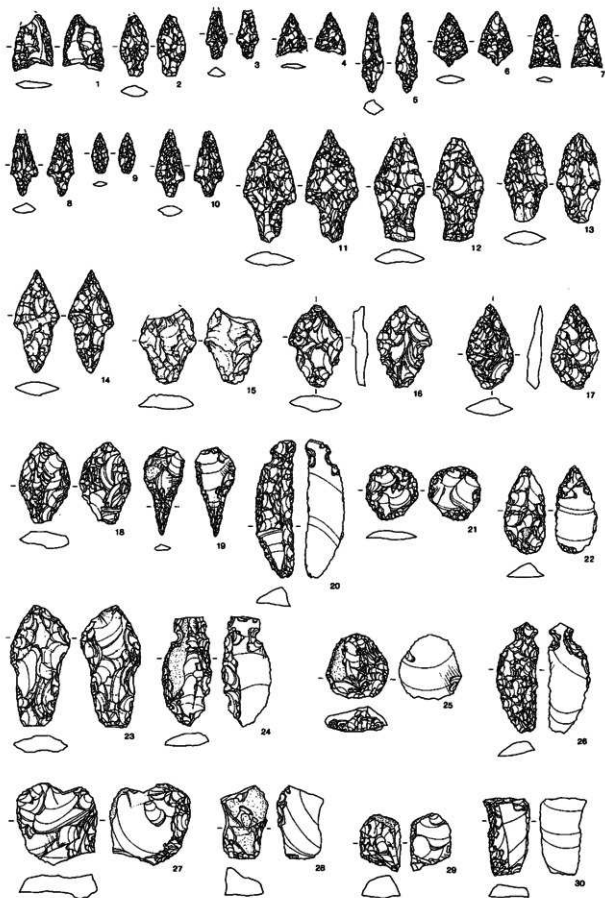


図20 包含層出土の石器 (1)

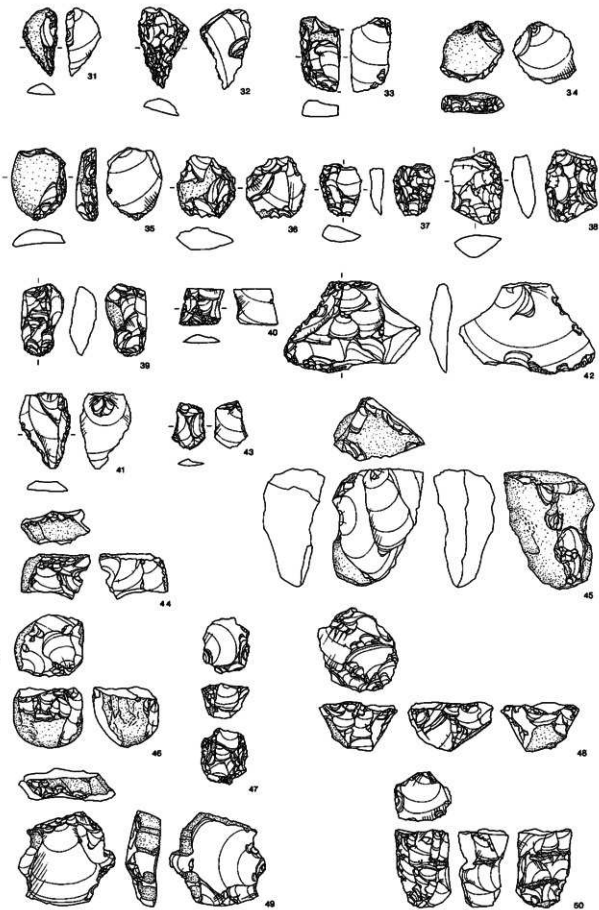


図21 包含層出土の石器 (2)

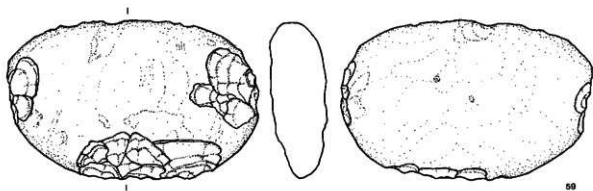
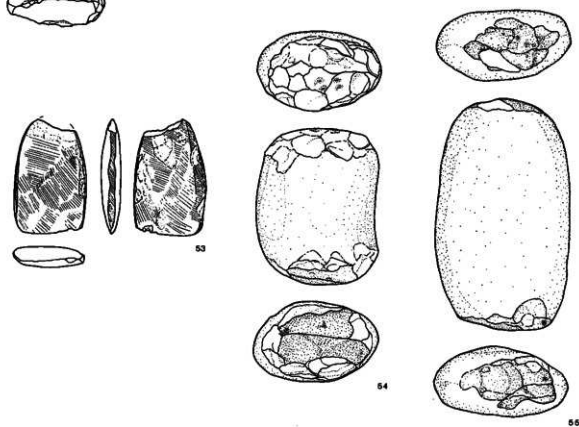
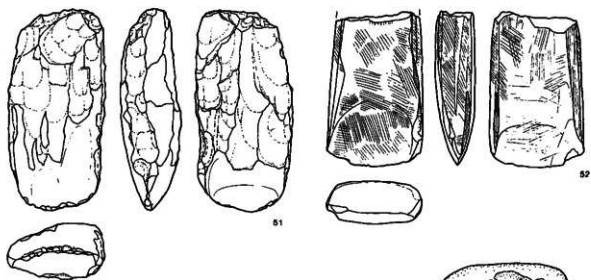
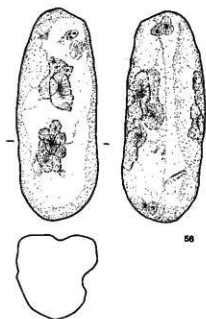
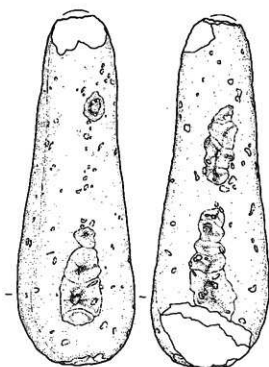


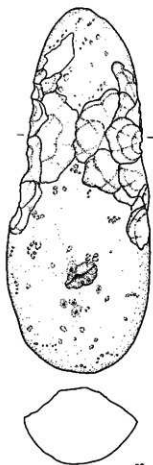
図22 包含層出土の石器 (3)



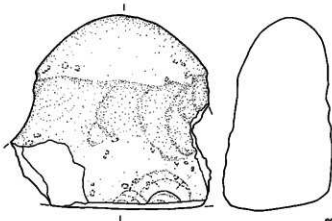
56



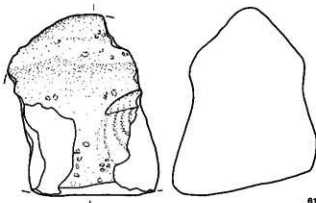
57



58

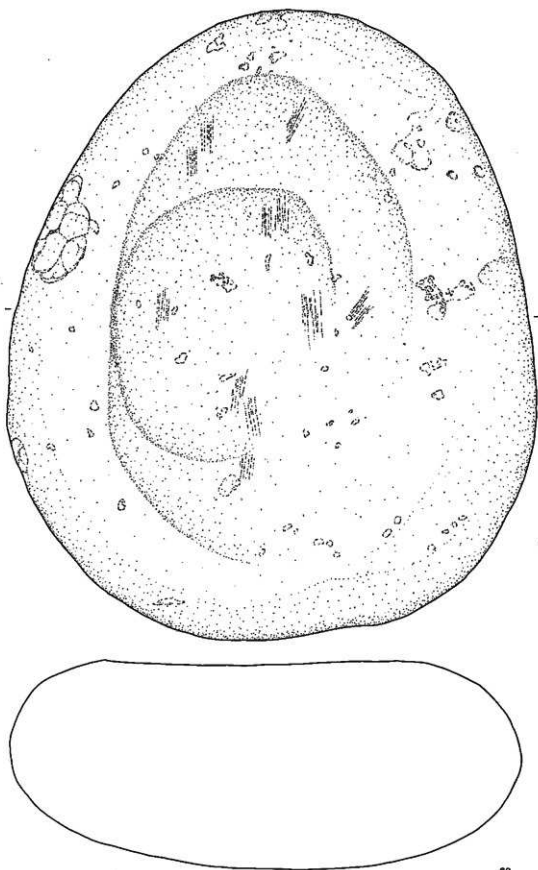


59



60

図23 包含層出土の石鏝 (4)



62

図24 包含層出土の石器 (5)

表12 モンガクA遺跡出土銅片石器一覧 (1)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	取	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図録
1	石鏃	15・8-28	Ⅲ	黒曜石	31.9	20.8	3.1	2.0	無柄凸基	未製品、先端折れ	1
2	石鏃	16-10	Ⅰ	黒曜石	31.9	14.7	5.6	2.2	有柄凸基	先端わずかに欠損	2
3	石鏃	17・8	Ⅰ	黒曜石	24.2	11.0	4.2	1.0	有柄凸基	先端欠損	3
4	石鏃	17・9	Ⅰ	黒曜石	32.4	19.9	4.5	2.8		未製品、基部割れ	
5	石鏃	18・8-78	Ⅱ	黒曜石	31.5	22.6	7.2	3.5	有柄凸基	未製品、つぶれ	
6	石鏃	18・9	Ⅰ	黒曜石	22.3	16.4	2.5	0.6	無柄凸基	基部両端欠損、反っている	4
7	石鏃	19・8-41	Ⅲ	黒曜石	41.3	11.0	6.6	1.9	有柄凸基	一面に凸状部を欠す	5
8	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	40.5	11.9	4.3	1.7		未製品、折れ、焼けた片使用	
9	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	23.6	11.5	4.5	0.9		未製品、折れ、焼けている	
10	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	28.1	18.0	3.8	1.4	変形		6
11	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	26.6	16.2	3.5	1.2	無柄凸基	先端つぶれ、一端線キズ	7
12	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	32.0	14.3	4.4	1.4	有柄平基	先端欠損	8
13	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	18.5	14.5	3.1	0.8	無柄凸基	先端欠損	
14	石鏃	19・9	Ⅰ	黒曜石	29.0	12.3	3.9	1.2	変形	未製品、つぶれ	
15	石鏃	20・8	Ⅰ	黒曜石	15.0	12.9	2.5	0.4		基部片	
16	石鏃	21・8-25	Ⅱ	黒曜石	20.2	8.6	2.5	0.3	変形		9
17	石鏃	21・9	Ⅰ	黒曜石	33.5	15.1	5.0	2.0		先端わずかに欠損、一端線キズ	10
18	石鏃	22・9	Ⅰ	黒曜石	29.6	13.3	3.1	1.3		未製品、つぶれ、折れ	
19	石鏃	表採	Ⅰ	黒曜石	24.0	14.6	4.6	1.1	有柄凸基	未製品、つぶれ、先端折れ	
20	石鏃	表採	Ⅰ	黒曜石	25.3	14.0	4.9	1.2	変形	先端欠損	
21	石槍	15・8	Ⅰ	黒曜石	28.1	23.5	6.9	3.8		未製品、折れ	
22	石槍	15・8	Ⅰ	黒曜石	28.8	16.7	7.3	2.8	有柄凸基	基部欠損	
23	石槍	15・8	Ⅰ	黒曜石	24.0	16.0	4.9	1.8		先端・基部欠損	
24	石槍	15・9	Ⅰ	黒曜石	55.5	22.0	11.0	11.8	変形	未製品、つぶれ	
25	石槍	15-10	Ⅰ	黒曜石	48.0	21.0	10.0	8.5	変形	未製品、つぶれ	
26	石槍	15-10	Ⅰ	黒曜石	29.5	16.4	6.4	2.7	木葉形	先端わずかに欠損、側縁つぶれ欠す	
27	石槍	16・7	Ⅰ	黒曜石	41.2	21.7	6.9	5.5	変形	未製品、つぶれ	
28	石槍	16・8	Ⅰ	黒曜石	41.5	28.6	8.5	9.1		基部片	
29	石槍	16・8	Ⅰ	黒曜石	44.4	30.6	9.0	12.4	木葉形	先端欠損	
30	石槍	16・8	Ⅰ	黒曜石	58.8	27.7	7.9	9.5	有柄平基		11
31	石槍	17・8	Ⅰ	黒曜石	30.5	28.7	11.3	8.7		基部片	
32	石槍	17・9	Ⅰ	黒曜石	17.9	18.3	4.5	1.5		基部片	
33	石槍	17・9	Ⅰ	黒曜石	36.1	29.6	10.3	9.4		基部片	
34	石槍	17・9	Ⅰ	黒曜石	36.2	22.9	6.3	4.6	木葉形	未製品、つぶれ	
35	石槍	17・9	Ⅰ	黒曜石	29.2	22.6	6.2	3.6		基部片	
36	石槍	18・9	Ⅰ	黒曜石	10.5	10.4	4.0	0.5		基部片	
37	石槍	19・7-98	Ⅱ	黒曜石	66.2	24.0	9.7	16.4	変形	未製品、つぶれ	
38	石槍	19・8	Ⅰ	黒曜石	25.9	20.6	5.4	2.2	有柄凸基	基部片	
39	石槍	19・9	Ⅰ	黒曜石	43.7	29.0	7.9	8.9	木葉形	未製品、つぶれ	
40	石槍	19・9	Ⅰ	黒曜石	48.0	24.8	8.0	7.1	変形	未製品、はがれ、一端線キズ	
41	石槍	19・9	Ⅰ	黒曜石	43.3	27.9	10.6	12.9		先端部片、P-3集土のNo11と併合	
42	石槍	19-10	Ⅰ	黒曜石	40.1	24.4	7.3	7.0		未製品、はがれ	
43	石槍	20・8	Ⅰ	黒曜石	53.9	26.1	6.9	8.4	有柄凸基	未製品、基部に黒石面を欠す	12
44	石槍	20・8	Ⅰ	黒曜石	50.2	33.1	14.2	12.4		未製品、つぶれ	
45	石槍	20・8	Ⅰ	頁岩	30.3	30.0	7.1	4.5		基部片	
46	石槍	20・8	Ⅰ	黒曜石	44.2	20.1	8.6	5.2		未製品、つぶれ	
47	石槍	20・8	Ⅰ	黒曜石	36.6	25.4	6.6	6.3		未製品、つぶれ	
48	石槍	20・8	Ⅰ	黒曜石	46.4	22.7	6.8	6.4	有柄凸基		13
49	石槍	20・8-40	Ⅱ	黒曜石	56.6	27.7	10.9	14.1		未製品、つぶれ	
50	石槍	20・9	Ⅰ	黒曜石	53.6	24.0	7.1	6.1	有柄凸基		14
51	石槍	21・8	Ⅰ	黒曜石	30.4	20.4	5.9	3.1		先端部片	
52	石槍	21・8	Ⅰ	黒曜石	39.7	29.8	8.9	8.4	有柄凸基	先端部欠損、一面に凸状部を欠す	15
53	石槍	21・8	Ⅰ	頁岩	34.8	19.5	5.8	3.9	変形	先端部欠損	
54	石槍	21・8	Ⅰ	頁岩	30.5	17.8	8.1	5.6		基部片	
55	石槍	21・8-06	Ⅱ	黒曜石	46.8	33.1	11.7	15.0		未製品、折れ	

表13 モンガクA 遺跡出土制片石器一覽 (2)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図番
56	石槍	21・8-36	II	黒曜石	13.9	25.7	5.2	1.5		基部片	
57	石槍	21・9	I	黒曜石	42.5	28.0	7.2	7.2	変形	未製品、つまみ、一端側にキズ	16
58	石槍	22・9	I	黒曜石	30.1	29.8	9.8	6.2		未製品、折れた基部	
59	石槍	22・9	I	黒曜石	43.9	24.2	8.9	7.0	木葉形	基部の内、一面に古状跡を遺す	17
60	石槍	22・9	I	黒曜石	41.2	29.4	9.2	6.2		未製品、つまみ	
61	石槍	22・9-31	II	黒曜石	19.9	16.0	6.3	1.9		基部片	
62	石槍	表採	I	黒曜石	27.7	20.1	12.5	6.4		基部片	
63	石槍	表採	I	黒曜石	28.2	15.8	4.5	1.8		未製品、折れた基部	
64	石槍	表採	I	黒曜石	38.9	25.7	8.5	7.4		未製品、折れ	
65	石槍	表採	I	黒曜石	41.7	26.1	8.9	8.3	木葉形	未製品、はがれ	18
66	石槍	表採	I	黒曜石	29.6	14.1	8.1	4.2		先端・基部欠損	
67	石槍	表採	I	黒曜石	15.5	13.8	5.5	0.9		基部片	
68	石錐	表採	I	黒曜石	46.2	20.4	5.0	3.7	基部縮小	両側縁基部までつまみ	19
69	削・撥器	15・9	I	頁岩	71.6	19.6	9.5	13.6	つまみ付き	両側縁背面加工	20
70	削・撥器	15・9	I	黒曜石	27.7	27.4	5.1	4.6		ラウンドスライパー	21
71	削・撥器	15・10	I	黒曜石	36.7	26.1	7.5	5.3	切り出し状	両側縁背面加工、基部欠損	
72	削・撥器	15・10	I	黒曜石	41.4	27.1	8.6	10.7		両側縁背面加工、先端・基部欠損	
73	削・撥器	16・8	I	頁岩	45.7	21.9	9.0	8.0	木葉形	両側縁背面加工、先端背面加工	22
74	削・撥器	16・8-26	II	頁岩	53.5	30.5	9.6	19.0		両側縁背面加工	23
75	削・撥器	17・8	I	黒曜石	57.0	25.8	8.5	14.1	つまみ付き	一端縁背面加工、先端欠損	24
76	削・撥器	17・8-51	II	頁岩	33.0	31.1	9.5	10.7		ラウンドスライパー	25
77	削・撥器	17・8-73	II	頁岩	57.6	21.2	7.6	9.7	つまみ付き	両側縁背面加工、刃部湾曲	26
78	削・撥器	18・9	I	黒曜石	30.9	32.1	11.8	12.6		先端片、一端縁背面加工	
79	削・撥器	19・9	I	黒曜石	49.1	43.1	11.7	24.9		サイドスライパー	27
80	削・撥器	19・9	I	黒曜石	38.6	23.4	13.9	11.4		エンドスライパー、基部・一端縁欠損	28
81	削・撥器	20・8	I	黒曜石	31.8	20.5	12.8	9.3		サイド・エンドスライパー、石塊使用	29
82	削・撥器	20・8	I	黒曜石	45.8	25.2	13.3	12.7		一端縁背面加工	
83	削・撥器	20・8	I	黒曜石	54.4	29.5	15.2	21.0		両側縁背面に削り加工	
84	削・撥器	20・8-54	II	黒曜石	40.5	24.2	7.6	10.1		先端・基部・一端縁背面加工	30
85	削・撥器	20・8-65	II	黒曜石	35.6	18.2	6.3	3.6	切り出し状	両側縁背面加工	31
86	削・撥器	20・9	I	黒曜石	42.2	26.6	7.6	7.3	切り出し状	両側縁背面加工、刃部湾曲	32
87	削・撥器	20・9	I	黒曜石	38.8	26.4	7.1	7.8		ラウンドスライパー、刃部湾曲	
88	削・撥器	21・8	I	黒曜石	35.6	25.3	9.1	9.7		ラウンドスライパー片か	
89	削・撥器	21・8-56	II	黒曜石	42.0	20.6	10.2	10.0		先端・基部・一端縁背面加工か	33
90	削・撥器	22・8	I	黒曜石	28.0	30.8	10.9	8.4		先端片、両側縁背面加工	
91	削・撥器	22・8	I	黒曜石	34.1	29.2	10.2	12.5		ラウンドスライパー	34
92	削・撥器	22・8-01	II	黒曜石	52.0	41.3	13.7	24.7		両側縁背面加工	
93	削・撥器	22・9	I	黒曜石	37.8	28.6	11.6	15.7		ラウンドスライパー	35
94	削・撥器	22・9-13	II	黒曜石	30.8	31.4	11.6	9.6		両側縁背面に削り加工、磨けている	36
95	削・撥器	表採	I	頁岩	41.2	11.7	4.4	2.5		基部片	
96	楔形石器	18・9	I	黒曜石	26.8	21.9	8.2	4.8		磨けつまみ	37
97	楔形石器	20・8-71	II	黒曜石	29.6	37.5	7.3	4.8		一端つまみ	
98	楔形石器	21・8	I	黒曜石	37.9	26.1	11.5	11.7		二端つまみか	38
99	楔形石器	表採	I	黒曜石	38.3	21.1	25.5	11.5		両端つまみ	39
100	R・F	15・8-38	II	黒曜石	41.0	26.6	9.1	10.5		一端縁背面加工	
101	R・F	16・8	I	頁岩	46.2	26.7	7.3	6.7		一端縁背面加工	
102	R・F	16・8	I	黒曜石	51.7	26.7	8.2	10.7		一端縁背面加工	
103	R・F	16・9	I	黒曜石	44.2	28.1	10.8	11.5		一端縁背面加工、礎片使用	
104	R・F	17・8	I	頁岩	53.9	44.4	8.3	19.2		先端背面加工	
105	R・F	17・9	I	黒曜石	23.7	16.9	3.7	1.2		一端縁背面加工	
106	R・F	17・9	I	黒曜石	38.4	21.4	5.6	4.2		両側縁背面加工	
107	R・F	17・9	I	黒曜石	26.7	18.5	6.7	4.2		一端縁背面加工	
108	R・F	18・8	I	黒曜石	21.9	9.3	3.5	0.8		両側縁背面加工	
109	R・F	18・8-88	III	黒曜石	43.0	26.6	6.4	7.0		一端縁背面加工、磨けている	
110	R・F	18・9	I	黒曜石	26.2	21.6	6.5	4.7		先端から一端縁背面加工	

表14 モンガクA 遺跡出土制片石器一覧 (3)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	軸	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	頁
111	R・F	18-10-31	II	黒曜石	49.6	29.4	7.1	7.0	一側磨削加工		
112	R・F	19-9	I	黒曜石	37.0	22.7	8.5	6.2	一側磨削加工		
113	R・F	19-9	I	黒曜石	43.7	17.1	5.8	4.5	両側磨削加工		
114	R・F	19-9-85	II	黒曜石	53.4	29.4	6.6	9.0	一側磨削加工		
115	R・F	20-8	I	黒曜石	57.2	46.2	13.0	27.6	一側磨削加工		
116	R・F	20-8-85	II	黒曜石	25.3	24.0	9.6	4.7	両側磨削加工		
117	R・F	20-8-85	II	黒曜石	24.8	31.0	3.8	2.5	先端部片、一側磨削加工		
118	R・F	20-8-86	II	黒曜石	42.0	32.9	9.1	15.0	一側磨削加工、破片片使用		
119	R・F	20-9	I	黒曜石	30.5	27.2	9.2	7.6	一側磨削加工		
120	R・F	21-8	I	黒曜石	42.0	33.8	9.7	14.9	両側磨削加工		
121	R・F	21-8	I	黒曜石	24.1	32.2	7.8	6.0	先端部片、両側磨削加工		
122	R・F	21-8-49	II	黒曜石	38.5	22.5	3.9	1.9	先端部片、先端から一側磨削加工		
123	R・F	21-8-68	II	黒曜石	79.4	38.3	17.0	38.9	一側磨削加工、一側磨削加工		
124	R・F	21-8-83	II	黒曜石	33.0	22.0	4.9	3.5	先端・基部先端、両側磨削加工		
125	R・F	21-9	I	黒曜石	23.9	29.0	4.6	2.4	先端部片、先端から一側磨削加工		40
126	R・F	21-9-15	II	黒曜石	39.6	26.3	6.2	6.8	両側磨削加工		41
127	R・F	21-9-74	III	黒曜石	48.5	72.2	10.6	29.0	先端部片、一側磨削加工		42
128	R・F	22-9	I	黒曜石	34.1	18.3	7.8	4.6	一側磨削加工		
129	R・F	22-9-33	II	黒曜石	31.8	33.4	7.8	8.5	一側磨削加工、破片片使用		
130	U・F	16-9	I	黒曜石	22.9	26.7	7.5	4.2	一側磨削加工		
131	U・F	16-9-19	II	黒曜石	27.6	16.0	4.0	1.4	一側磨削加工		
132	U・F	20-8	I	黒曜石	23.1	21.4	6.9	2.5	一側磨削加工		
133	U・F	20-8	I	黒曜石	40.7	29.5	5.1	5.3	一側磨削加工		
134	U・F	20-8-76	II	黒曜石	21.4	13.8	3.4	1.0	一側磨削加工		
135	U・F	21-8	I	黒曜石	32.4	10.9	3.4	1.2	一側磨削加工		
136	U・F	21-8-71	II	黒曜石	54.9	29.9	15.6	15.4	両側磨削加工		
137	U・F	22-8	I	黒曜石	24.2	17.0	4.5	1.4	両側磨削加工		43
138	U・F	22-9	I	黒曜石	30.9	18.7	4.6	2.9	先端部加工		
139	U・F	22-9	I	黒曜石	51.1	26.2	6.5	9.5	一側磨削加工		
140	U・F	22-9	I	黒曜石	34.0	23.2	3.4	2.4	一側磨削加工		
141	U・F	22-9	I	黒曜石	30.7	16.9	4.0	1.8	両側磨削加工		
142	U・F	表採	I	黒曜石	42.5	22.2	7.6	6.0	両側磨削加工、破片片使用		
143	U・F	表採	I	黒曜石	42.8	26.2	3.9	4.8	両側磨削加工		
144	石核	15-8	I	黒曜石	30.6	22.7	13.5	8.8	三面に黒石面を欠す		
145	石核	15-9	I	黒曜石	38.3	52.2	19.3	34.7	三面に黒石面を欠す		
146	石核	16-8	I	黒曜石	46.1	31.4	15.2	16.6			
147	石核	16-9	I	黒曜石	33.4	39.4	15.5	18.0	四面に黒石面を欠す		
148	石核	17-9	I	黒曜石	41.6	21.7	9.6	11.0	一面に黒石面を欠す		
149	石核	17-9	I	黒曜石	22.5	21.0	10.9	6.1			
150	石核	17-9	I	黒曜石	20.1	31.9	15.0	13.1	三面に黒石面を欠す		44
151	石核	18-8	I	黒曜石	37.7	34.1	13.0	11.3	二面に黒石面を欠す		
152	石核	19-8	I	黒曜石	67.4	44.9	27.3	67.3	五面に黒石面を欠す		45
153	石核	19-9	I	黒曜石	39.1	44.1	31.7	46.0	五面に黒石面を欠す		46
154	石核	19-9	I	黒曜石	38.7	42.8	15.5	22.1	二面に黒石面を欠す		
155	石核	19-9	I	黒曜石	50.2	66.7	28.6	75.0	五面に黒石面を欠す		
156	石核	20-8	I	黒曜石	42.7	25.1	13.5	17.1	三面に黒石面を欠す		
157	石核	20-8-70	II	黒曜石	41.5	38.9	13.4	17.0	四面に黒石面を欠す		
158	石核	20-8-84	II	黒曜石	27.5	29.3	15.6	10.4	一面に黒石面を欠す		
159	石核	20-8-86	II	黒曜石	41.8	36.7	24.6	43.9	二面に黒石面を欠す		47
160	石核	21-8	I	黒曜石	35.3	29.6	12.9	15.8	四面に黒石面を欠す		
161	石核	21-8	I	黒曜石	43.1	31.4	13.1	17.4			
162	石核	21-8	I	黒曜石	33.6	44.5	22.6	24.6	五面に黒石面を欠す		
163	石核	21-8	I	黒曜石	31.4	30.3	12.6	13.3	三面に黒石面を欠す		
164	石核	21-8-63	II	黒曜石	19.4	44.8	20.0	28.5	四面に黒石面を欠す		
165	石核	22-8	I	黒曜石	35.6	25.0	19.0	16.5	二面に黒石面を欠す		

表15 モンガクA 遺跡入出土制片石器一覧 (4)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	取	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図番
166	石核	22・8-00	II	黒曜石	35.1	45.8	23.4	37.2		二面に黒石面を剥す	48
167	石核	22・9-61	II	黒曜石	34.4	24.7	12.9	9.0			
168	石核	表採	I	黒曜石	48.0	51.0	14.6	37.5		三面に黒石面を剥す	49
169	石核	表採	I	黒曜石	37.9	27.2	23.1	26.7		二面に黒石面を剥す	50

表16 モンガクA 遺跡出土礫石器一覧

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	取	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考	図番
1	石斧	14・7	I	泥岩	86.1	36.2	14.2	68.4	刃部欠損	
2	石斧	16・10	I	片岩	40.7	16.2	5.6	3.9	中央部片	
3	石斧	17・8	I	片岩	76.1	51.1	23.5	105.4	打痕、基部片	
4	石斧	19・9	I	片岩	107.0	50.2	28.7	240	刃部欠損	51
5	石斧	20・7-79	II	片岩	27.8	14.0	2.9	2.0	中央部片	
6	石斧	20・8-39	II	片岩	32.8	12.6	3.2	1.1	中央部片	
7	石斧	20・8-41	II	泥岩	79.8	48.8	20.1	134.2	すり傷り痕あり、基部欠損	52
8	石斧	20・8-55	II	泥岩	79.7	30.5	6.8	27.1	刃部平分、基部欠損	
9	石斧	20・8-64	II	泥岩	60.5	37.2	10.0	36.0	基部欠損	53
10	石斧	20・9	I	粘板岩	32.9	20.0	4.3	3.4	背部片	
11	石斧	22・8	I	泥岩	75.2	41.1	11.7	48.3		
12	石斧	22・9	I	片岩	19.2	24.5	5.7	3.6	刃部片	
13	たたき石	16・8	I	凝灰岩	132.6	52.0	27.0	248	一端に磨打痕	
14	たたき石	16・8	I	安山岩	81.7	42.5	62.7	333	両端トチ心石状	54
15	たたき石	16・9	I	安山岩	115.3	70.9	40.6	421	一端にわずかに凹痕	
16	たたき石	17・7	I	凝灰岩	134.1	66.9	29.0	312	一端に凹痕	
17	たたき石	17・10	I	安山岩	120.9	70.6	32.7	485	両端トチ心石状	55
18	たたき石	18・9	I	安山岩	109.3	68.6	35.6	400	両端トチ心石状	
19	たたき石	19・8-41	III	安山岩	109.6	44.9	47.5	209	三面に二箇所ずつの凹痕	56
20	たたき石	20・8-43	II	安山岩	185.0	61.3	38.9	440	二面に凹痕あり、一端に磨打痕、一端欠損	57
21	たたき石	20・9	I	砂岩	47.7	45.5	20.4	52.2	基部片、二面に凹痕	
22	たたき石	21・8-02	II	安山岩	145.7	45.8	39.7	371	一端に磨打痕か	
23	たたき石	21・9	I	安山岩	145.1	73.1	38.3	660	両端に磨打痕	
24	たたき石	21・9-15	II	安山岩	120.1	70.0	32.2	390	一端に磨打痕	
25	たたき石	21・9-16	II	安山岩	122.5	67.9	36.8	352	両面に凹痕	
26	たたき石	表採	I	安山岩	192.0	39.8	75.1	612	磨削中央部に磨打痕、使用痕跡不明	58
27	すり石	15・8	I	安山岩	133.9	83.1	28.2	440	使用痕跡不明	59
28	すり石	16・9	I	安山岩	65.6	79.4	15.1	110.2	使用痕跡不明、両端欠損	
29	すり石	17・7	I	凝灰岩	42.4	46.5	8.2	15.0	使用痕跡不明	
30	石錠	15・10	I	安山岩	108.2	58.6	108.8	800	両端欠損、使用面片残り	60
31	石錠	表採	I	安山岩	67.7	75.1	103.6	610	半分欠損、使用面片残り	61
32	石錠	17・8	I	安山岩	100.1	82.6	27.2	293	未磨削、一端打ち欠き	
33	石錠	表採	I	玄武岩	121.0	77.0	25.3	371	未磨削か、三方打ち欠きか	
34	台石	17・9	I	安山岩	320	285	111.5	16600	一面磨き	62
35	焼けた礫	22・9-12	II	凝灰岩	96.2	79.8	103.0	67.0	破片	

5. まとめ

モンガクA遺跡を含めた今回の調査は、昭和61年以来行われている広域農道に伴うもので発掘区はモンガク丘陵を形成する舌状台地の一部を細長く横断するように設定されている。丘陵上の遺跡全体からみるとほんの一部について発掘したにすぎないわけである。そのため遺跡の性格などについて考えることは非常に困難であり、遺構・遺物の特徴について若干の考察を加えることによりまとめにかえたい。

遺構について

発掘区の中央部付近、19・8グリッドで縄文中期末の北筒式期の住居跡が一軒検出されている。この住居跡は斜面に構築されていたため全体の1/2ほどしか捉えることが出来なかったが、プランはほぼ円形を呈すると推測される。中央部には焼土粒を含むピットがあるが、明らかに炉跡と考えられるものは確認できなかった。このことから住居跡の内部ではあまり長時間にわたって火が焚かれることはなかったと思われる。また、床面からは、土器のほか多数の剥片が出土しており、作業のための場であった可能性が考えられる。

住居跡の覆土からいくつかのフローテーションサンプルをとり、その分析をPROJECT SEEDSにお願いした。しかし、フローテーション後のサンプルから現代のものと思われる穀殻が検出され、これはサンプリングの時点で混入したと推測された。住居跡は耕作土の直下から検出され、付近の地山のロームにもプラウの跡が観察されている。今後このように耕作の影響が遺構に直接およびされている可能性のある遺跡でのサンプリングには、一層の注意が必要であると思われる。

遺構としては住居跡のほか土壌が5基検出されている。このうちPit4、Pit5は斜面の上部22・8グリッドで隣接して検出されている。規模も上面形も良く似たこのピットは自然堆積を示していた。自然堆積を示すピットとしては貯蔵穴、いわゆるTピットなどが考えられる。このうち、Tピットについては規模、深さなどから可能性は極めて低いと推測される。また、ピット内から白色の骨の可能性のある自然遺物が検出されているが、土層の状況から見て墓とは考えられずやはり、なんらかの貯蔵穴であると思われる。

住居跡のそばで検出されたPit2から北海道式石冠が出土している。このタイプの北海道式石冠は通常、円筒上層式に伴う石器とされているが、今回の発掘区からはこの時期の土器は出土していない。

ただ、Pit2は他のピットよりやや確認面が低く、また覆土も火山灰を多く含んでおり、ほかの遺構とは異なっていることから、やや古い時期に構築された可能性が高いと考えられる。

遺物について

住居跡から2個体の土器が復元されている。いずれも、縄文時代中期末の北筒式に含まれる土器である(図12-1、2)。このうち1は口縁があまり肥厚せず、綾織文が多用され、胴部が膨らむ器形である。いわゆる、小島の沢Ⅰ式(中村素ほか 1975、宇田川洋 1977)と良く似た特徴を有している。

また、2は肥厚した口縁部から刺突が加えられた逆U字型の貼付帯が付けられており、やはり綾織文が多用されている。こうした貼付帯は、道央部で北筒式に先行すると考えられる萩ヶ岡4式にみられる特徴である(高橋正勝 1982)。

道央部における北筒式の古いグループと考えられる小島の沢Ⅰ式に近い特徴をもつ土器と、先行する萩ヶ岡4式の特徴をのこす土器がセットで出土したことは、二つの型式の過渡的な様相を示す資料として興味深い。

包含層からは内面に条痕文をもつ土器が出土している(図15-12~16)。地文の縄文、胎土、焼成、口縁部の文様などから萩ヶ岡4式に含まれる土器であろうと判断したが、該期の土器群で内面に条痕

文が施文されていた例は管見の限りではみられないようである。

ただ、ほぼ同時期と考えられる道東部のモコト式土器の内面に、しばしば草本類による擦痕や縄文が施文されており、関連が考えられる（後藤秀彦 1979、藤本強 1980、佐藤訓敏 1983）。

しかし、モコト式については現在の段階ではその型式内容が十分につかめているとは言い難いため、今後の資料の増加を待ちたい。

引用・参考文献

- 上野 秀一 1978 「石狩海岸砂丘地帯の遺跡群について」『北海道考古学14』
宇田川 洋 1977 『北海道の考古学』1 北海道出版企画センター
大沼 忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期の編年について」『考古学雑誌66-4』
後藤 秀彦 1979 「モコト式土器の新資料—浦幌町平和遺跡出土縄文中期の土器—」
『浦幌町郷土博物館報告13』
佐藤 訓敏 1983 「猿別C遺跡の土器に関する若干の考察」『猿別C遺跡の考古学的調査』
中川郡幕別町教育委員会
高橋 正勝 1982 「3. 萩ヶ岡式土器の設定」『萩ヶ岡遺跡』江別市文化財調査報告書XV
江別市教育委員会
中村 素 1975 「小島の沢遺跡発掘調査報告書」江別市文化財調査報告書Ⅲ 江別市教育委員会
藤本 強 1980 「モコト貝塚表面採集の土器」『ライトコロ川口遺跡』東京大学文学部

Ⅲ モンガクB遺跡

Ⅲ モンガクB遺跡

1 遺跡の概要

本遺跡は、モンガクA・F遺跡の南東側、モンガクの沢と中の川(冷水川)の間に沿って延びる舌状台地先端部付近に位置する。今回の調査区はこの舌状台地を横断するように設定されている。調査区内の標高は32~37mで、モンガクA遺跡よりも10mほど、同F遺跡よりも20mほど高い。

本地点は、開拓以来一貫して畑地として利用されており、近年はもっぱらブドウ畑であった。このため包含層の大半は、モンガクA遺跡同様に整地や耕作によって攪乱されており、一部にはブドウ棚のアンカーが埋め込まれたまま残されていた。従って、調査は遺構の確認と遺物の収集が主眼となった。

確認し得た遺構は、Tピット4基、石組炉1基、土壇8基である。遺跡の営まれた時期は、出土遺物からみると、旧石器時代、縄文時代中・後期、続縄文時代後北期である。旧石器時代及び縄文時代中期の遺跡の主体部は、今回の調査地点から南東側に少し上がった部分、続縄文時代及び縄文時代後期については、舌状台地先端部に近いモンガクC遺跡側にあると思われる。

2 層序

- I層 表土(耕作土)
- II層 黒色土(遺物包含層)
- III層 暗褐色土(漸移層)
- IV層 黄褐色ローム(遺物包含層)
- V層 灰白色ローム

前述したとおり、本地点は大半が耕作による攪乱を受けており、本来の包含層である黒色土層(II層)及び漸移層(III層)は、31・32・42区などの傾斜がきつい部分に、流れ込みで厚く堆積したものが残されているに過ぎない。

なお、V層については一部の深掘りトレンチや遺構の壁面で確認している。

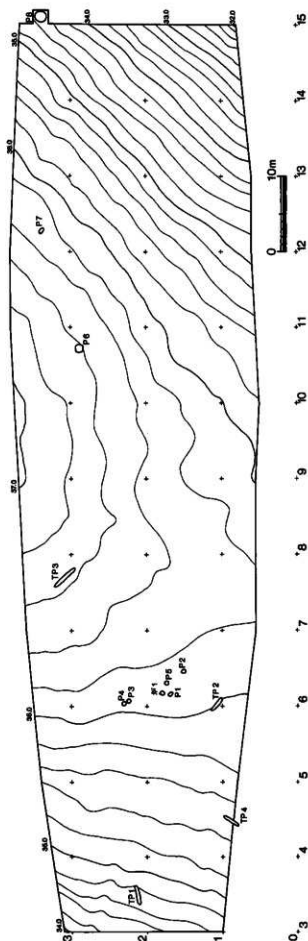


図25 発掘区の地形及び遺構位置

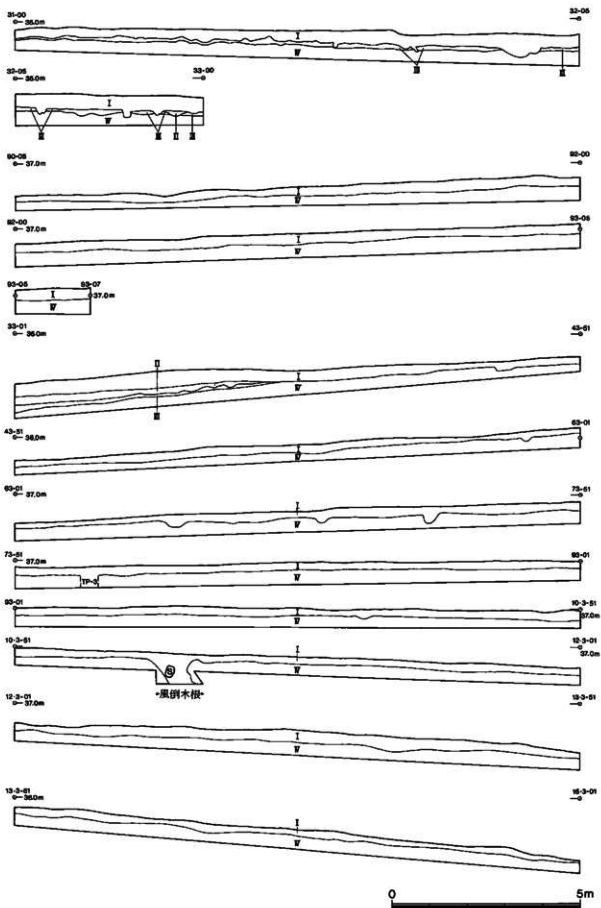


図26 土層断面

3 遺構

確認した遺構は、Tピット4基(TP1~4)、石組炉1基、土壇8基(P1~8)である。なお、工事立会区でP-8が確認されたため、その部分を発掘調査範囲に含めた。以下に遺構毎の見解を記す。

TP1 長さ(確認面での最大値、以下同じ)247cm、幅52cm、深さ92cm。

32-41・51区で確認された。長軸方向はコンターに直交する。墳底面の半分以上が、地形の傾斜に沿って傾いている。覆土の堆積をみると、墳底直上によくみられる黒色粘質土がない。これは掘開されてから程なく埋没が始まったことを示しているのであろうか。なお、覆土1層中から縄文時代中期(Ⅲ群)の土器片1点(図29-1)が出土している。

土層注記 1 黒褐色土(Ⅱ層)、2 ローム小ブロックを含む暗褐色土(Ⅱ>Ⅲ+Ⅳ層)、3 若干の暗褐色土を含む黄褐色ローム(Ⅳ>Ⅱ・Ⅲ層)、4 暗褐色土(Ⅱ+Ⅲ層)

TP2 長さ208cm、幅31cm、深さ79cm。

51-90、61-00区で確認された。長軸方向はコンターに平行する。墳底面は、両端が下がり、中央部分が高く掘り残されている。また、両端部はオーバーハングしている。覆土の堆積をみると、墳底直上に黒色粘質土の薄い層がみられる。なお、赤褐色焼土および焼土混じりの層が覆土の半ばを占めているが、意識的に投げ込まれたものか、流入したものかは判然としない。遺物は覆土1層中から黒曜石の剝片4点(14g)が得られている。

土層注記 1 若干のローム小ブロックを含む黒色土(Ⅱ層)、2 ロームブロック・焼土を含む暗褐色土、茶褐色を呈す部分もある(Ⅱ>Ⅲ+Ⅳ層)、3 ロームを含む暗褐色土(Ⅲ>Ⅳ層)、4 ロームブロック(Ⅳ層)、5 赤褐色焼土、6 暗黄褐色土(Ⅳ>Ⅲ層)、7 黒色粘質土(Ⅱ層、厚さ0.5cm程度の薄い層)

TP3 長さ349cm、幅35cm、深さ73cm。

73-61・70区で確認された。長軸方向はコンターに平行する。墳底面はかなりの凹凸がみられる。また、両端部はオーバーハングしているが、これは明らかに崩落によるものである。覆土の堆積をみると、TP1同様に墳底直上の黒色粘質土が認められない。遺物は、覆土1層中から基部を欠いた石鏃1点(図29-7)が出土している。

土層注記 1 若干のローム粒を含む黒褐色土(Ⅱ+Ⅳ層)、2 黒褐色土を若干含む黄褐色ローム(Ⅳ+Ⅱ層)、3 暗褐色土(Ⅱ・Ⅲ>Ⅳ層)、4 ローム細粒を若干含む黒褐色土、色調は1より明るい(Ⅱ+Ⅳ層)、5 黄褐色ローム(Ⅳ層)

TP4 長さ244cm、幅45cm、深さ92cm。

40-48・59区で確認された。長軸方向はコンターに平行する。墳底面はほぼ平坦である。一端部はオーバーハングしているが、これは崩落によるものである。覆土の堆積をみると、墳底直上には炭化物を含む暗黄褐色土がある。遺物は出土していない。

土層注記 1 黒褐色土(Ⅱ層)、2 暗褐色土(Ⅱ・Ⅲ>Ⅳ層)、3 若干の炭化物を含む暗黄褐色土(Ⅳ>Ⅱ・Ⅲ層)、4 暗黄褐色土(Ⅱ・Ⅲ=Ⅳ層)

石組炉1 長さ(石組の外側)44cm、幅(同)35cm、深さ(確認面からの掘り方最大値)15cm。

コの字状に礎が置かれているが、本来は方形に配してあったものと思われる。横に浅いピットが付属している。内に面した礎の表面はかなり焼けているが、炉内には焼土はみられず、付属ピット中に確認されている。炉内を清掃した際に掻き出して、ピット内に廃棄したものであろうか。遺物は、覆土1層中より柳葉形の石鏃1点(図29-8)と剝片・砕片54点(16g)が出土しているが、いずれも炉の廃棄後に流れ込んだものである。なお、炉石の計測値は表9に示した。

土層注記 1 赤褐色焼土、1' 焼土粒を含む暗褐色土(Ⅲ層)、2 黒褐色土(Ⅱ層)、3 ロームを若干含む暗褐色土(Ⅲ層・埋土)、4 暗黄褐色土(Ⅳ>Ⅲ層)

P-1 長さ(確認面での最大値、以下同じ)62cm、幅44cm、深さ13cm。

確認面では楕円形を呈する。覆土の堆積をみる限り、自然に埋没したものと思われる。遺物は、覆土1層中から縄文時代中期(Ⅲ群b類)の土器片2点と、剝片・砕片14点(13g)が出土している。土器片は2点が接合し、更に33区のⅠ層から出土した小片も接合した(図29-2)。また、同一個体と思われる破片が61区から3点(図29-3~5)出土している。

土層注記 1 黒褐色土(Ⅱ層)、2 ロームを含む暗褐色土(Ⅱ・Ⅲ=Ⅵ層)、3 暗黄褐色土(Ⅳ>Ⅲ層)

P-2 長さ76cm、幅66cm、深さ13cm。

確認面では不整形円形を呈する。立上りは明確な角度をもたないが、壊底面は長楕円形を呈する。覆土の堆積は、P-1同様流れ込みによるものと思われる。遺物も、P-1同様に剝片・砕片11点(10g)が覆土1層中から出土しているだけである。

土層注記 1 黒褐色土(Ⅱ層)、2 暗黄褐色土(Ⅳ>Ⅲ層)

P-3 長さ64cm、幅61cm、深さ7cm。

確認面ではほぼ円形を呈する。確認し得たのは深さ7cmほどに過ぎないが、覆土1・2ともに黒曜石の剝片・砕片が多量(443点・83g)に含まれている。また、縄文時代中期(Ⅲ群)の土器片1点(図28-6)が出土した。

土層注記 1 ロームブロックを含む黒褐色土(Ⅱ+Ⅳ層)、2 暗黄褐色土(Ⅲ=Ⅳ層)

P-4 長さ63cm、幅59cm、深さ8cm。

確認面ではほぼ円形を呈する。確認し得たのは深さ8cmほどであるが、P-3同様に覆土中から黒曜石の剝片・砕片14点(4g)が出土している。また、木葉形を呈する石槍の未製品1点(図29-9)が出土した。

土層注記 1 ロームブロックを含む黒褐色土(Ⅱ+Ⅳ層)、2 暗黄褐色土(Ⅲ=Ⅳ層)

P-5 長さ75cm、幅66cm、深さ16cm。

確認面は楕円形を呈する。P-3・4同様に黒曜石の剝片・砕片529点(162g)が出土している。P-3~5は、意図的に剝片・砕片を中に入れているものと思われる。なお、剝片類は各ピットの周辺からも多量に出土しているが、これらの大部分は、ピット上半部が耕作等によって破壊された際に散乱したものである。

土層注記 1 炭化物を多量に含む黒褐色土、ローム小ブロックを若干含む(Ⅱ+Ⅳ層)、2 暗黄褐色土(Ⅲ>Ⅳ層)

P-6 長さ108cm、幅98cm、深さ70cm。

確認面は方形に近い平面形を有する。壊底部は二段になっており、覆土の状況も段の部分に異なっている。すなわち、深い部分は炭化物を含む暗褐色土中に黒褐色土が斑状にみられるもので、自然堆積ではなく、人為的に埋め戻された可能性が強い。浅い部分はほぼ一様に黒褐色土で、炭化物はみられない。壁面の状況などから、二つのピットの切り合いとは考えがたく、浅い部分が先にあり、深い部分が後から掘り直されたものと思われる。出土遺物は、壁際に礫2点(表18)がみられただけである。

土層注記 1 ローム粒を若干含む黒褐色土(Ⅱ+Ⅳ層)、2 暗黄褐色土(Ⅲ>Ⅳ層)

P-7 長さ78cm、幅44cm、深さ46cm。

伴出遺物がないため時期を特定できないが、長さ50cmを越す大型の礫2点(表18)を立て並べたピットであり、配石遺構の一種と考えられる。

土層注記 1 黒褐色土(Ⅱ層)、2 暗黄褐色土(Ⅲ=Ⅳ層)

P-8 長さ146cm、幅140cm、深さ95cm。

所謂フラスコ状ピットで、墳底中央に浅い小ピットをもつ。帰属時期は不明である。

土層注記 1 ローム粒を含む黒褐色土(Ⅱ+Ⅳ層)、2 暗褐色土(Ⅲ>Ⅱ・Ⅳ層)、3 黄褐色土(Ⅳ>Ⅱ・Ⅲ層)、4 ローム粒を含む暗褐色土(Ⅱ・Ⅲ+Ⅳ層)、5 暗黄褐色ローム(Ⅳ>Ⅲ・Ⅴ層)、6 暗褐色粘質土(Ⅲ層)、7 炭化物を含む暗褐色土(Ⅱ・Ⅲ>Ⅳ層)、8 炭化物を含む黒褐色土(Ⅱ層)、9 炭化物・ローム粒を含む黒褐色土(Ⅱ層)、10 灰褐色ローム(Ⅳ・Ⅴ層)、11 暗黄褐色粘質土(Ⅱ・Ⅲ>Ⅳ・Ⅴ層)

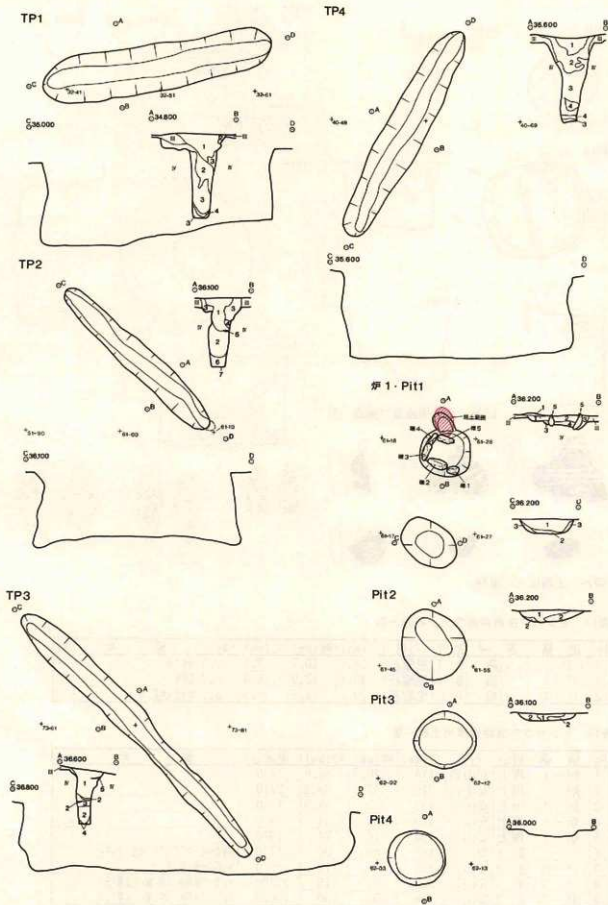


図27 土坑平面及び断面 (1)

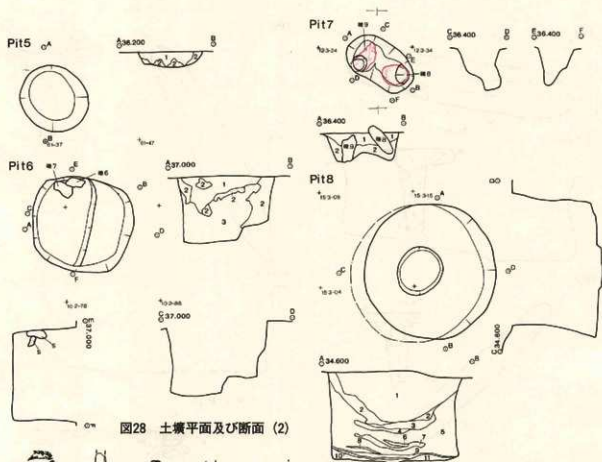


図28 土坑平面及び断面 (2)



図29 土坑出土の遺物

表17 モンガクB 遺跡遺構出土石器一覧

No	遺構	器種	層位	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	図番
1	T P-3	石鏃	社1	黒曜石	26.1	10.7	2.4	0.5	基部欠損	7
2	炉-1	石鏃	社1	黒曜石	39.1	13.9	6.4	2.7	基部形	8
3	P-4	石槍	埋土	黒曜石	29.1	18.5	6.8	3.1	木製部欠損品、つば付	9

表18 モンガクB 遺跡遺構出土礫一覧

No	遺構	層位	石質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	図番
1	炉-1	埋土	安山岩	178	120.7	65.6	1730		
2	炉-1	埋土	安山岩	216	143	65.2	2310		
3	炉-1	埋土	安山岩	195	137	52.5	1660		
4	炉-1	埋土	安山岩	189	132	51	1460		
5	炉-1	埋土	安山岩	198	110	74	1970		
6	P-6	社3	安山岩	195	160	90	4700	実層の中間やや下の位置で、壁面に横して出土	
7	P-6	社3	安山岩	195	125	110	3900	No6の内部に横して出土	
8	P-7	社2	安山岩	555	205	145	21300	角のない長楕円状、北面に横いた状態で出土	
9	P-7	社2	安山岩	510	205	150	19000	角張った長楕円状、北面に横いた状態で出土	

4 包含層出土の遺物

土器

モンガクB遺跡からは625点の土器が出土した。今回調査されたモンガク丘陵上の他の二遺跡と同様、耕作によって摩耗し小破片となっている。時期は縄文時代中期・後期、続縄文時代の土器が出土している。他の二遺跡で見られた縄文時代早期の土器は出土していない。以下、分類別に記述する。

Ⅲ群土器（図30-1～14、図31-15～27）

縄文時代中期の土器である。a～cの三群に細分したうち、柏木川式（ノダツブⅡ式を含む）、北筒式にあたるb類とc類が出土している。

b類（図30-1～14、図31-15～17）

1は器面にL R縄文が施文され竹管状工具による刺突が加えられている。2は口唇が丸みを帯び、口縁直下に刺突文が廻っている。器面は摩耗し赤褐色を呈している。3は器面が赤褐色を呈し口縁直下に刺突が加えられた帯状の貼付帯が廻り、その下は無文になっている。内面は黒色を呈し指頭によると思われる調整痕がみられる。4は器面にL R縄文が施文され横位の平行沈線が廻っている。口縁は波状を呈すると推測され、口縁直下には貼付文が設けられている。内面にはやや凹凸が残る横位の調整痕がみられる。5は器面の磨耗が著しい。R L縄文が施文され横位及び斜め左からの沈線文が施文されている。6は縦位の貼付帯が設けられているが、一部剥がれている。貼付帯の左側には竹管状工具による刺突が加えられ、内面調整は丁寧である。7は口縁部に設けられた細い貼付帯とその直下に縄線文が施文されている。8は器面に羽状縄文が施文されて、一条の縄線文が施文された横位の貼付帯が設けられている。内面には縦位の調整痕がみられる。9はR L縄文が施文され、二条の縄線文が施された帯状の横位の貼付帯が廻っている。10は口縁の破片で、平縁で器面にL R縄文が施文されており、内面には指頭による凹みがおずかに残っている。11はL R縄文が施文された胴部の破片で、内面は良く磨かれている。また、器面に段をもつ。12は口縁部が肥厚し二列の突引文が施文されている。13は口唇部が破損しているが、肥厚帯に半截竹管状工具による突引文が施文されている。14はR L + L R羽状縄文が施文されており器面はやや摩耗している。また、縄文の変り目がへこみ段になっている。

c類（図31-18～27）

18はR L + L R羽状縄文が施文されており、表面は炭化物が付着している。19・20・22はいずれもL R縄文が施文され、内面調整は丁寧である。19は表面が一部剥落している。21はR L縄文が施文され内外面とも摩耗している。23はR L複節斜行縄文が施文されている。内面には指頭による調整痕が見られる。24～27は底部である。24は底面が少し外側に張り出し、指頭による圧痕が0.7～0.8cm間隔で加えられている。25は底面がおずかに張り出している。26は底面を欠く。27は底面近くは無文である。

Ⅳ群土器（図31-28～41）

縄文時代後期の土器である。モンガクB遺跡出土のⅣ群土器には比較的古い段階のb類、中頃のc類・f類、末頃のg類など数は少ないがほぼ満遍なく出土している。

b類（図31-28～33）

28は器面にR L縄文が施文され、その上から鋸歯状の沈線文が描かれており、内面は黒色を呈し斜め方向の調整痕が見られる。30は細めの原体によるR L縄文がやや乱雑に施文され、内面は黒色を呈し、縦位に調整痕がみられた。32は器面にL R縄文が施され横位の太い沈線が施文されている。内面はよく磨かれている。33は平縁で反し口縁の直下に沈線が一条施されている。器面にはR L縄文が

施文されている。

c 類 (図31-34)

34は波状をなす口縁の破片で口縁直下に二本の平行沈線が施文されている。器面にはR L縄文が施文され、口唇は丸みを帯びている。

f 類 (図31-35~40)

35は胴部の破片で、よく磨かれた器面に平行沈線をひき、その間に刻みを充填している。36は平縁で器面は磨滅が著しく文様は判然としない。37は器面が摩耗しており、縄文が判然としない。破片の上部には二本の横走る沈線と斜め左からの沈線が施文されている。38も口縁部でL R縄文が施文され、口唇は丸みをおびる。39は胴部の破片でL R縄文が施文されており内面は良く磨かれている。40は無文の口縁部で表面の半分以上が剥落している。口唇も剥落している部分が多いが平縁である。表面調整はあまり丁寧ではなく、かなり凹凸がみられる。

g 類 (図31-41)

41は胴部の破片で節の細かいL R縄文が施文されている。内面は良く磨かれている。

VI群土器 (図31-42~50)

続縄文時代の土器である。なかでも後半期のいわゆる後北C₂式土器のみが出土している。42は口唇が細くとがり、波状をなす口縁に沿って二本の細い貼付帯が廻っている。貼付帯の直下には三角形の刺突列が施されている。胴部にも弧状に細い貼付帯が設けられ、横位の縞縄文が施されている。内面はよく磨かれている。44は表面がほとんど剥がれており、口唇直下に刻みをもつ細い貼付帯が施されている。45は裏面が剥落しているが器厚は非常に薄いと思われる。表面には横位の縞縄文が施文されている。47はややふくらみをもつ胴部の破片で、上部は剥がれていてよくわからないが下半には横位の縞縄文が施文されている。48~50は同一個体である。無文でいずれもやや外反し、内外面ともよく磨かれている。

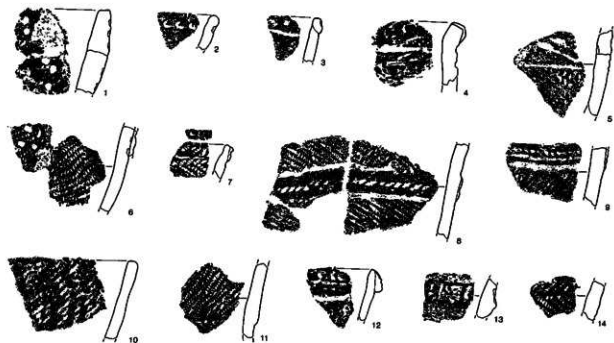


図30 包含層出土の土器 (1)

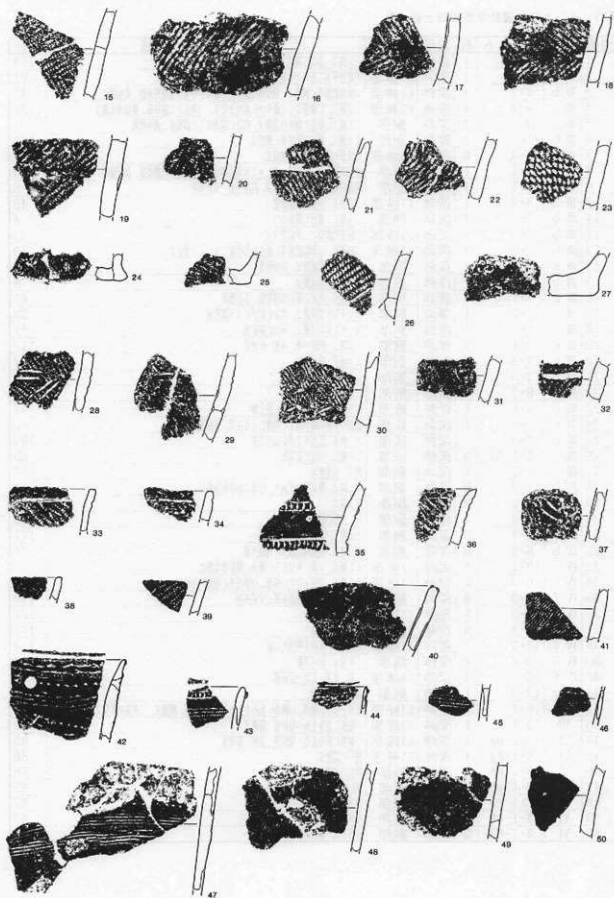
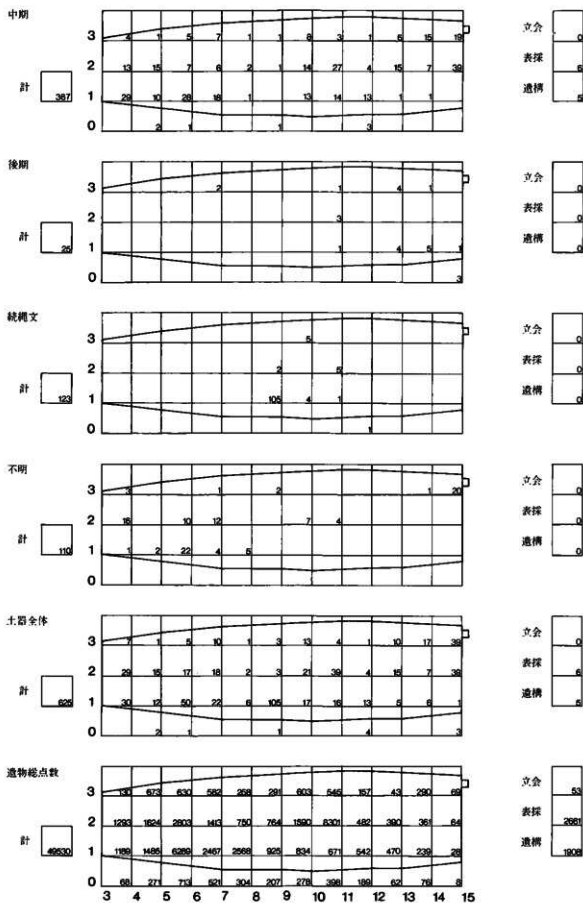


図31 包含層出土の土器 (2)

表19 モンガク日遺跡拓影掲載土器一頁

図番	分類	グリッド	数	器形	部位	文	様	遺跡番号
1	Ⅲ b	14-2	I	深鉢	口縁部	L.R.横文、器面に修理工具による変文、表面一部剥落		168
2	Ⅲ b	9-2	I	深鉢	口縁部	平削竹管状工具による横位の削突文、表面磨耗		101
3	Ⅲ b	5-2	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚等に削突文、横位の波線文、口縁はやや丸みを帯び、表面磨耗		47
4	Ⅲ b	10-2	I	深鉢	口縁部	L.R.横文、口縁部はやや丸みを帯び、口縁部下に横位の波線文、横位の波線文		123
5	Ⅲ b	3-1	I	深鉢	胴部	R.L.横文、横位と斜めの波線文、内面に横位による割線文、表面磨耗		1
6	Ⅲ b	11-1	I	深鉢	胴部	L.R.横文、横位の横位等、横文		141
7	Ⅲ b	6-3	Ⅱ	深鉢	口縁部	口縁部に斜め横位等、横線文		76
8	Ⅲ b	5-1	I	深鉢	胴部	横位の横位等、横線文、R.L+L.R.羽状横文、内面に横位の割線文、表面磨耗		40
9	Ⅲ b	3-1	I	深鉢	胴部	横位の横位等に二列の横線文、内面平滑、表面磨耗		6
10	Ⅲ b	5-2	I	深鉢	口縁部	L.R.横文、平滑、表面磨耗		46
11	Ⅲ b	3-1	I	深鉢	胴部	L.R.横文、器面に横位もつ		4
12	Ⅲ b	3-1	I	深鉢	口縁部	口縁部肥厚等に二列の突刃文		80
13	Ⅲ b	3-2	I	深鉢	口縁部	口縁肥厚、口縁部肥厚等に横位の竹管状工具による突刃文		19
14	Ⅲ b	7-1	I	深鉢	胴部	R.L+L.R.羽状横文、内面平滑		180
15	Ⅲ b	3-1	I	深鉢	胴部	R.L+L.R.羽状横文		8
16	Ⅲ b	5-1	I	深鉢	胴部	L.R.横文、内面に横位の割線文、表面磨耗		41
17	Ⅲ c	5-2	I	深鉢	胴部	R.L+L.R.羽状横文、内面に横位による割線文		50
18	Ⅲ c	5-1	I	深鉢	胴部	R.L+L.R.羽状横文、表面に横位		41
19	Ⅲ c	10-1	I	深鉢	胴部	L.R.横文、内面平滑、表面一部剥落		113
20	Ⅲ c	14-3	Ⅱ	深鉢	胴部	L.R.横文、内面平滑		172
21	Ⅲ c	3-3	I	深鉢	胴部	L.R.横文、内外面磨耗		23
22	Ⅲ c	9-2	I	深鉢	胴部	L.R.横文、やや外反		98
23	Ⅲ c	5-1	I	深鉢	底部	R.L.垂直筋行横文、内面に横位		37
24	Ⅲ c	9-1	I	深鉢	底部	底部はやや外に張り出す、器面による圧痕、表面磨耗		96
25	Ⅲ c	4-0	I	深鉢	底部	L.R.横文、底部はやや外に張り出す		140
26	Ⅲ c	6-1-37	Ⅱ	深鉢	底部	L.R.横文、内面に横位		65
27	Ⅲ c	11-1	I	深鉢	胴部	横文、表面磨耗		137
28	Ⅳ b	14-3	Ⅱ	深鉢	胴部	L.R.横文、縦線状の波線文、内面に横位の割線文		171
29	Ⅳ b	14-3	Ⅱ	深鉢	胴部	R.L.横文		171
30	Ⅳ b	14-0	I	深鉢	胴部	R.L.筋筋の筋行横文		166
31	Ⅳ b	14-3	Ⅱ	深鉢	胴部	R.L.横文、内面に横位の割線文		171
32	Ⅳ b	6-3	Ⅱ	深鉢	胴部	L.R.横文、横位の波線文、内面平滑		74
33	Ⅳ b	10-1	I	深鉢	口縁部	L.R.横文、平滑、外反する口縁部、横位の波線文		171
34	Ⅳ c	6-3	Ⅱ	深鉢	口縁部	L.R.横文、波状を帯び口縁部、口縁部下に横位の波線文		75
35	Ⅳ f	14-3	Ⅱ	深鉢	胴部	外反する胴部、筋筋等を持って斜め		170
36	Ⅳ f	14-3	Ⅱ	深鉢	口縁部	表面磨耗		171
37	Ⅳ f	14-3	Ⅱ	深鉢	胴部	36と同一物		171
38	Ⅳ f	12-3	I	深鉢	口縁部	L.R.横文、丸みを帯びた口唇		154
39	Ⅳ f	9-2	I	深鉢	胴部	L.R.横文、内面平滑		103
40	Ⅳ f	10-3	I	深鉢	口縁部	平滑、横文、表面一部剥落		131
41	Ⅳ g	12-3	I	深鉢	胴部	斜めL.R.横文		152
42	Ⅵ	10-1	I	深鉢	口縁部	波状を帯び口縁部、口縁部に丸みを帯び二列の横位等、横線文、三角形の削突文		115
43	Ⅵ	9-1	I	深鉢	口縁部	口縁部に丸みを帯びた横位等、横線文		92
44	Ⅵ	8-1-88	I	深鉢	口縁部	口縁部に丸みを帯びた横位等、表面一部剥落		83
45	Ⅵ	8-1-88	I	深鉢	口縁部	横位の横線文		86
46	Ⅵ	8-1-88	Ⅱ	深鉢	胴部	横位の横線文、表面磨耗		86
47	Ⅵ	8-1-88	Ⅱ	深鉢	胴部	横位の横線文、表面一部剥落		85
48	Ⅵ	8-1-88	Ⅱ	深鉢	胴部	横文、内外面平滑		87
49	Ⅵ	8-1-88	Ⅱ	深鉢	胴部	48と同一物		87
50	Ⅵ	8-1-88	Ⅱ	深鉢	胴部	48と同一物		87

表20 土器時期別分布一覽



石器等

石器等の器種・グリッド別の点数は次頁の表に示したとおりで、遺構外からの出土は46997点にのぼる。このうち石器は366点で、その分布をみると、概ね標高36mのコンターに沿って多く出土している。但し、遺物のほとんどが耕作によって動かされた土の中からの出土であり、丘陵の尾根筋にあたるX7～9ラインにあったものが、土地の均平化によって両側に移動している可能性を考慮する必要がある。

石鏃は39点(未製品13点を含む)の出土で、このうち破損品が35点と大半を占めている。石材は全て黒曜石である。形態は有柄凸基7点、同平基1点、柳葉形11点、不明20点である。図32-4-6・8～10・14は、いずれも未製品の例である。これらをみると、その制作手順は、「恐路土場遺跡」の報告書でも触れたように、先ず基部から側縁にかけて剝離調整を施し、次に先端部を作出し、最後に残った側縁を整えているようである。柳葉形については、いずれも五角形に近い形をしており、最大幅をもつ部分を境にして、先端側の方が短いのが特徴である。

尖頭器は112点の出土で、このうち未製品が73点を占め、基部片あるいは先端部片・中央部片が31点ある。石材は全て黒曜石である。形態は有柄凸基6点、柳葉形3点、木葉形1点、五角形4点、不明98点である。図22-17はきれいな五角形を呈するものである。重量が2.9gと軽く、石鏃に分類すべきものかも知れないが、石鏃には同形態を呈するものがない。18・23は、基本的に五角形の範疇に含まれるものと思われるが、基部が尖っている。19は、かなり摩耗した部分(図中、ドットで表示)と、新しい調整剝離部分とがみられる。より古い時期の、磨耗した尖頭器を再加工中に折れたものと思われる。

なお、21・24などをみると、尖頭器も石鏃同様の手順で作成されているものようである。

削・挿器は24点の出土で、全て黒曜石製である。つまみ付きの例は、Na175のつまみ部片1点があるだけで、切り出し状のものはない。ラウンドスクレイパーは、図32-33～35、図33-36・38の5点、エンドスクレイパー(図33-37)が1点ある。

挿入石器は図33-39の1点のみの出土である。

楔形石器は4点の出土で、全て黒曜石製である。断面形は、図33-40が凸レンズ状を呈しているほかは、3点とも文字通りの楔形をしている。41は、加撃面である図の原石面を残す。

R・Fは79点あり、石質は全て黒曜石である。図33-46・55は、つまみ付きの削・挿器未製破損品かとも思われる。

U・Fは28点で、R・F同様全て黒曜石である。図33-58・60・61・64は細石刃の可能性ある。

石核は41点の出土である。素材は、頁岩とメノウが各1点あるほかは黒曜石である。

図34-69以下は、旧石器時代に属する資料である。69はファーストスボールと思われるもので、70～72はスボールと思われる。73・74は細石刃、75は石刃、76～78は細石核である。

石斧は打製のもので1点(図34-79)、磨製のもので3点(図34-80～82)あり、ほかに破片が7点出土している。石材は泥岩4点、片岩6点、流紋岩1点である。

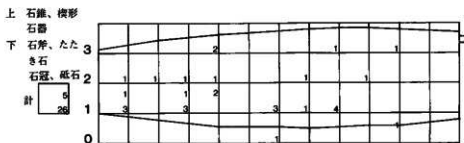
たつき石は13点が出土している。石材は安山岩が7点で、凝灰岩が4点、熔結凝灰岩・メノウ質珪岩が各1点ある。図34-83・85、図35-86はいわゆるトチむき石状の使用痕をもつものである。いずれも偏平礫を素材としており、重量は126～138gと軽めである。ほかには、端部に使用痕をもつものが2例、面部に使用痕をもつものが8例ある。重量は175～655gで、平均は363.6gである。

図35-92は、自然にいた穴に、若干手を加えて整形していると思われるもので、垂飾として利用されたものであろうか。

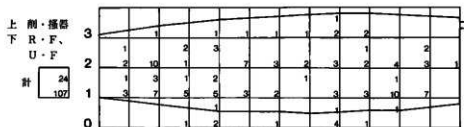
表21 石器等分布一覽



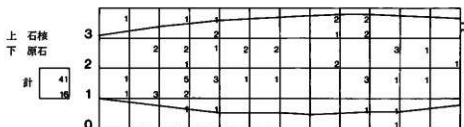
立会	1
表採	0
遺構	1



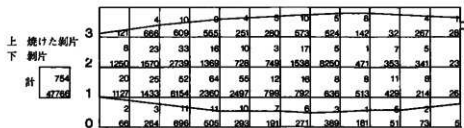
立会	0
表採	0
遺構	0



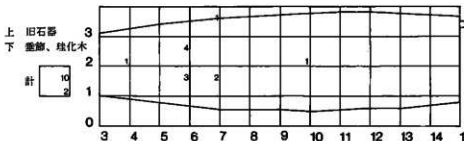
立会	1
表採	1
遺構	0



立会	1
表採	0
遺構	0



立会	1
表採	48
遺構	2628



立会	0
表採	0
遺構	0

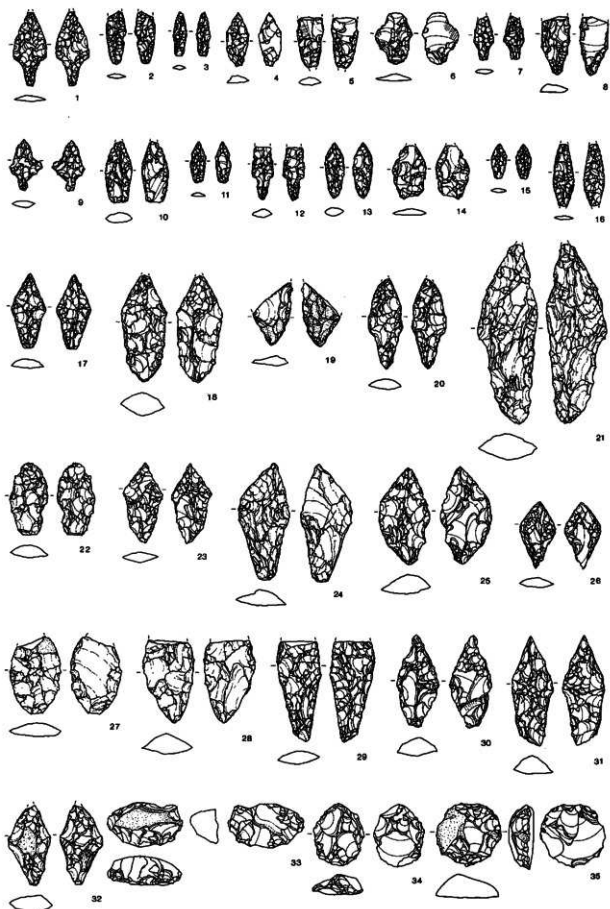


図32 包含層出土の石器 (1)

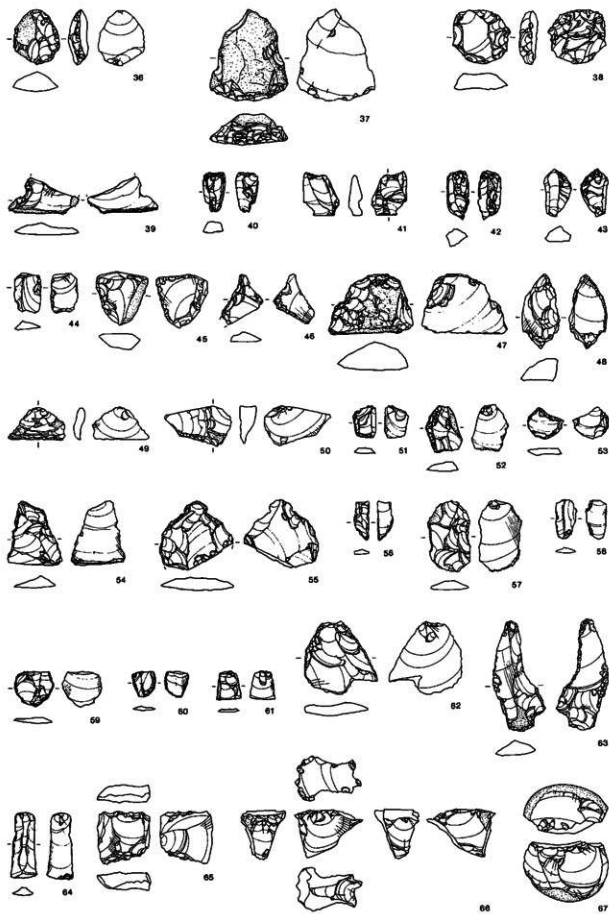


図33 包含層出土の石器 (2)



図34 包含層出土の石器 (3)

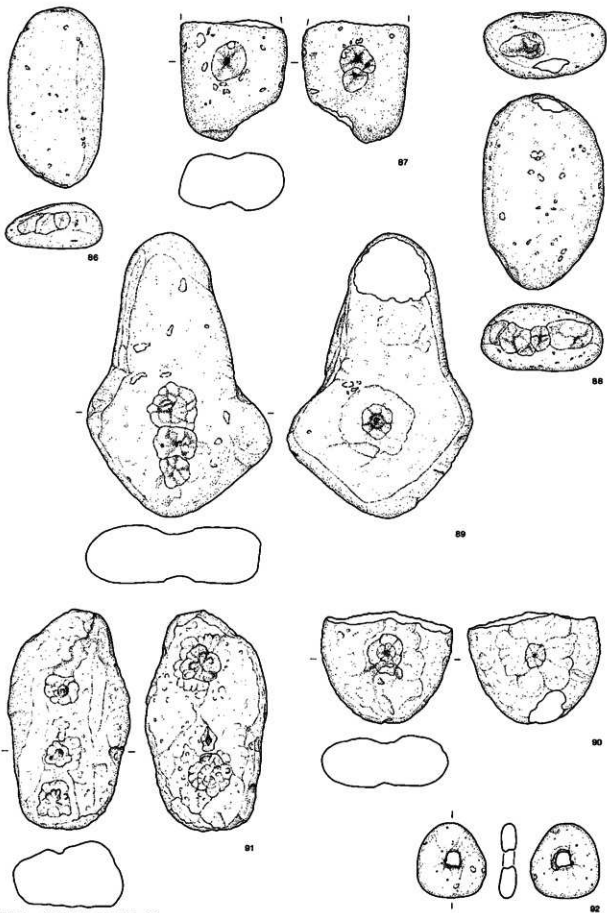


図35 包含出土の石器 (4)

表22 モンガクB 遺跡出土制片石器一覧 (1)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	順	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図番
1	石鏃	3・2	I	黒曜石	27.7	14.8	2.9	0.9		基部片、折れ	
2	石鏃	4・1	I	黒曜石	26.4	13.1	3.4	1.2	基部片		
3	石鏃	4・2	I	黒曜石	39.2	17.4	3.4	1.7	有柄凸基	先端わずかに欠損	1
4	石鏃	5・0	I	黒曜石	21.8	12.2	3.4	0.7		未製品、はがみ	
5	石鏃	5・1	I	黒曜石	24.8	13.9	4.9	2.2	有柄凸基	未製品、基部折れ	
6	石鏃	5・3	I	黒曜石	14.2	10.9	3.6	0.3	有柄凸基	基部内側、基部・側縁欠損	
7	石鏃	5・3	I	黒曜石	11.4	14.1	2.9	0.4	有柄凸基	基部片	
8	石鏃	6・1	I	黒曜石	28.9	10.5	2.6	0.4	基部片	先端欠損、磨けている、一側縁キズ	2
9	石鏃	6・1	I	黒曜石	22.5	9.7	4.2	0.9	基部片	先端・基部欠損	
10	石鏃	6・2	I	黒曜石	19.3	9.1	3.4	0.4		先端部片	
11	石鏃	7・0	I	黒曜石	11.4	13.8	2.5	0.3		未製品、基部片	
12	石鏃	7・1	I	黒曜石	19.2	11.4	3.8	0.9		先端・基部欠損	
13	石鏃	7・2	I	黒曜石	23.0	7.1	2.4	0.3	基部片		3
14	石鏃	8・0	I	黒曜石	28.1	11.5	4.1	1.0	基部片	未製品、はがみ、磨けている	4
15	石鏃	8・0	II	黒曜石	17.0	12.8	3.5	0.7		先端・基部欠損	
16	石鏃	8・1	I	黒曜石	26.6	14.5	5.1	1.8		未製品、基部片	5
17	石鏃	8・1	I	黒曜石	25.8	14.6	4.8	1.5		未製品、基部片	
18	石鏃	8・2	I	黒曜石	16.9	9.9	2.2	0.4		先端部片	
19	石鏃	8・2	I	黒曜石	27.1	19.4	4.4	1.7		未製品、つぶれ	6
20	石鏃	9・1	I	黒曜石	21.8	12.4	3.7	2.0	有柄凸基	先端欠損	
21	石鏃	9・2	I	黒曜石	23.6	10.5	2.8	0.6	有柄凸基	先端欠損	7
22	石鏃	9・2	I	黒曜石	9.6	9.8	2.2	0.2		基部片	
23	石鏃	10・1	I	黒曜石	30.1	15.0	4.1	2.0	基部片	先端欠損、大側縁つぶれ	8
24	石鏃	10・2	I	黒曜石	26.9	17.8	4.1	1.2		未製品、製作中	9
25	石鏃	10・2	I	黒曜石	29.5	15.3	4.6	1.7	有柄凸基	未製品、先端折れ	
26	石鏃	10・3	I	黒曜石	17.0	10.6	2.7	0.4		先端部片	
27	石鏃	11・0	I	黒曜石	13.3	8.8	1.8	0.2		先端部片	
28	石鏃	11・1	I	黒曜石	32.2	9.4	5.6	3.0	基部片	未製品、先端折れ	10
29	石鏃	11・2	I	黒曜石	18.2	16.9	3.5	0.9		基部片	
30	石鏃	12・0	I	黒曜石	21.4	7.6	2.2	0.3	基部片		11
31	石鏃	12・1	I	黒曜石	19.4	8.5	3.0	0.5		未製品、つぶれ	
32	石鏃	12・1	I	黒曜石	18.1	12.6	4.8	0.9		基部片	
33	石鏃	12・2	I	黒曜石	27.7	11.5	4.4	1.2	有柄凸基	先端欠損	12
34	石鏃	12・2	I	黒曜石	28.8	10.4	5.4	1.3	基部片		13
35	石鏃	13・2	I	黒曜石	27.9	17.8	3.6	1.8		未製品、つぶれ	14
36	石鏃	13・3	I	黒曜石	17.9	7.9	2.4	0.2	基部片		15
37	石鏃	13・3	I	黒曜石	18.0	12.7	2.8	0.5		先端部片	
38	石鏃	14・3	I	黒曜石	32.6	10.8	2.9	1.0	基部片	先端・基部わずかに欠損	16
39	石鏃	工事立会	I	黒曜石	17.6	12.2	5.0	0.9		先端部片	
40	石槍	3・1	I	黒曜石	32.0	23.3	10.0	5.4		基部片	
41	石槍	3・1	I	黒曜石	38.7	18.4	5.0	2.9	五角形		17
42	石槍	3・3	I	黒曜石	56.2	25.2	12.2	15.7	五角形		18
43	石槍	4・0	I	黒曜石	22.5	25.0	5.2	2.5	有柄凸基	未製品、先端折れ	
44	石槍	4・0	I	黒曜石	39.9	22.2	7.6	5.3		未製品、つぶれ	
45	石槍	4・1	I	黒曜石	44.3	20.2	9.3	7.8		未製品、つぶれ	
46	石槍	4・2	I	黒曜石	41.2	24.0	10.8	8.0		未製品、つぶれ	
47	石槍	4・2	I	黒曜石	31.3	30.3	8.6	9.3		未製品、折れ	
48	石槍	4・3	I	黒曜石	28.6	18.8	5.2	2.8		伊勢原寺を尖頭部を再加工中の折れ	19
49	石槍	5・0	I	黒曜石	47.7	18.5	5.6	4.2	有柄凸基	先端わずかに欠損	20
50	石槍	5・0	I	黒曜石	26.1	22.5	7.6	3.9		基部片	
51	石槍	5・1	I	黒曜石	23.3	31.1	8.9	5.3		基部片	
52	石槍	5・1	I	黒曜石	34.2	18.5	8.2	4.5		未製品、折れ	
53	石槍	5・1	I	黒曜石	35.7	18.7	11.0	7.6		基部片	
54	石槍	5・1	I	黒曜石	94.5	31.1	14.0	32.8	有柄凸基	未製品、つぶれ	21
55	石槍	5・1	I	黒曜石	38.0	20.0	16.7	4.7	有柄凸基	未製品、つぶれ、磨けている	22

表23 モンガクB遺跡出土制片石器一覧(2)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	股	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	頁
56	石槍	5-1	I	黒曜石	40.0	19.8	8.9	5.7	未製品、つぶれ		
57	石槍	5-1	I	黒曜石	31.5	21.4	12.4	5.0	未製品		
58	石槍	5-1	I	黒曜石	29.3	25.8	8.7	5.9	未製品		
59	石槍	5-1	I	黒曜石	38.9	24.9	9.8	7.6	未製品、つぶれ		
60	石槍	5-1	I	黒曜石	37.1	26.6	6.4	4.5	未製品、折れ		
61	石槍	5-1	I	黒曜石	31.4	23.5	10.2	6.2	未製品		
62	石槍	5-1-66	II	黒曜石	36.0	26.4	11.2	10.7	未製品、折れ		
63	石槍	5-2	I	黒曜石	40.5	19.4	8.9	6.3	未製品、折れ		
64	石槍	5-2	I	黒曜石	42.2	18.1	8.9	6.5	未製品、折れ		
65	石槍	5-2	I	黒曜石	36.8	19.3	8.1	3.7	未製品、つぶれ		
66	石槍	5-3	I	黒曜石	36.3	18.5	11.6	7.6	未製品、つぶれ		
67	石槍	5-3	I	黒曜石	54.2	24.0	13.2	16.2	未製品、折れ		
68	石槍	5-3	I	黒曜石	31.2	22.1	11.5	8.3	中央部片		
69	石槍	6-0	I	黒曜石	43.4	28.7	9.4	7.8	未製品、折れ		
70	石槍	6-1	I	黒曜石	42.4	22.0	5.9	4.0	五角部片		23
71	石槍	6-1	I	黒曜石	26.6	41.3	19.3	13.2	未製品、折れ		
72	石槍	6-1	I	黒曜石	28.0	22.5	11.3	4.9	未製品、折れ		
73	石槍	6-1	I	黒曜石	37.5	24.7	5.8	4.4	未製品		
74	石槍	6-1	I	黒曜石	22.3	15.9	5.4	1.3	未製品		
75	石槍	6-2	I	黒曜石	19.8	14.6	6.2	1.8	未製品		
76	石槍	6-2	I	黒曜石	71.0	28.4	13.5	25.0	未製品、つぶれ		
77	石槍	6-2	I	黒曜石	41.3	22.2	9.4	6.8	未製品、折れ		
78	石槍	6-2	I	黒曜石	35.3	36.9	13.3	13.5	未製品、折れ		
79	石槍	6-2	I	黒曜石	43.3	17.7	8.1	5.6	未製品、つぶれ		
80	石槍	7-1	I	黒曜石	30.5	28.6	7.8	7.5	未製品		
81	石槍	7-1	I	黒曜石	57.9	21.9	16.2	16.7	未製品、つぶれ		
82	石槍	7-1	I	黒曜石	38.2	30.3	8.3	10.6	未製品		
83	石槍	7-1	I	黒曜石	20.0	19.2	6.9	2.0	先端部片		
84	石槍	7-1	I	黒曜石	37.4	39.8	10.0	9.9	有柄部片		
85	石槍	7-3	I	黒曜石	42.4	19.4	8.5	7.0	有柄部		
86	石槍	8-0	I	黒曜石	21.4	22.2	8.3	3.9	未製品、折れ		
87	石槍	8-0	I	黒曜石	28.3	26.0	7.0	6.0	未製品、折れ		
88	石槍	8-0	I	黒曜石	40.5	19.8	7.9	5.5	未製品、つぶれ		
89	石槍	8-0	I	黒曜石	31.7	24.7	10.5	6.5	未製品、折れ		
90	石槍	8-1	I	黒曜石	22.9	24.0	7.7	3.8	未製品、折れ		
91	石槍	8-2	I	黒曜石	38.3	28.7	8.5	8.3	有柄部片		
92	石槍	8-2	I	黒曜石	17.2	24.0	8.0	2.7	未製品		
93	石槍	8-3	I	黒曜石	36.9	20.0	4.7	3.7	先端部片		
94	石槍	8-3	I	黒曜石	61.7	27.4	10.2	12.4	五角部		
95	石槍	9-0	I	黒曜石	31.3	30.3	10.8	10.6	未製品、白付あり		24
96	石槍	9-1	I	黒曜石	50.4	27.9	10.9	11.3	木製部		25
97	石槍	9-1	I	黒曜石	37.0	20.1	5.5	4.4	五角部		
98	石槍	9-1	I	黒曜石	20.5	17.1	7.2	2.1	未製品		
99	石槍	9-1	I	黒曜石	37.3	32.2	10.8	15.6	未製品		
100	石槍	9-1	I	黒曜石	25.7	21.9	6.7	3.4	未製品		
101	石槍	9-1	I	黒曜石	32.3	31.6	7.1	7.8	未製品		
102	石槍	9-2	I	黒曜石	35.0	18.8	5.0	2.8	有柄部		
103	石槍	9-2	I	黒曜石	12.3	14.1	4.9	0.7	未製品	基部に黒石面を覆す	26
104	石槍	9-2	I	黒曜石	33.3	25.2	10.2	7.8	未製品		
105	石槍	9-2	I	黒曜石	30.5	33.1	12.7	12.8	未製品、折れ		
106	石槍	9-2	I	黒曜石	16.4	17.3	5.1	1.6	未製品		
107	石槍	9-2	I	黒曜石	31.5	20.4	6.7	4.0	未製品、折れ		
108	石槍	9-2	I	黒曜石	33.8	13.0	6.8	3.7	未製品、つぶれ		
109	石槍	9-2	I	黒曜石	37.3	27.0	7.8	8.6	木製部片		27
110	石槍	9-3	I	黒曜石	44.8	20.5	7.7	6.3	未製品、つぶれ、折れ		

表24 モンガクB遺跡出土制片石器一覽 (3)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	版	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図録
111	石槍	9・3	I	黒曜石	47.7	30.0	9.3	10.9		未製品、辻みれ	
112	石槍	9・3	I	黒曜石	32.0	28.3	11.8	9.9		未製品、折れ	
113	石槍	9・3	I	黒曜石	31.9	25.4	10.0	5.8		未製品、折れ	
114	石槍	9・3	I	黒曜石	43.6	27.2	11.4	12.3	修理跡あり	先端欠損、磨けいている	28
115	石槍	9・3	I	黒曜石	17.9	25.3	6.1	2.1		基部片	
116	石槍	10・0	I	黒曜石	30.9	21.0	4.2	3.0		未製品、つまみ	
117	石槍	10・1	I	黒曜石	15.2	18.8	4.3	1.2		基部片	
118	石槍	10・1	I	黒曜石	35.2	20.8	7.6	4.0		未製品、つまみ	
119	石槍	10・1	I	黒曜石	41.4	23.6	10.6	9.7		未製品、つまみ	
120	石槍	10・3	I	黒曜石	53.0	22.7	7.5	9.4	修理跡あり	先端欠損、基部わずかに欠損	29
121	石槍	10・3	I	黒曜石	42.6	33.0	12.8	15.1		基部片	
122	石槍	10・3	I	黒曜石	21.9	23.1	5.9	2.3		未製品、折れ	
123	石槍	10・3	I	黒曜石	31.8	25.7	9.2	7.4		未製品、折れ	
124	石槍	11・1	I	黒曜石	38.6	26.1	10.3	9.5		基部片	
125	石槍	11・2	I	黒曜石	48.0	29.0	11.3	15.9		未製品、折れ	
126	石槍	12・0	I	黒曜石	12.3	15.0	3.8	0.7		中央部片	
127	石槍	12・1	I	黒曜石	46.5	27.1	14.1	16.6		未製品、折れ、つまみ	
128	石槍	12・1	I	黒曜石	36.5	22.2	7.4	5.9		未製品、折れ	
129	石槍	12・1	I	黒曜石	48.5	22.9	9.7	8.8		未製品、つまみ	
130	石槍	12・1	I	黒曜石	58.1	21.6	13.6	11.4	刃外れあり	未製品、つまみ	31
131	石槍	12・1	I	黒曜石	48.6	24.2	9.8	10.6		未製品、折れ、つまみ	
132	石槍	12・1	I	黒曜石	44.5	25.3	9.2	11.4		未製品、つまみ	
133	石槍	12・1	I	黒曜石	45.6	23.8	7.8	7.4		未製品、つまみ、磨けいている	
134	石槍	12・1	I	黒曜石	38.1	21.4	6.1	5.5		未製品、折れ、辻みれ	
135	石槍	12・1	I	黒曜石	24.6	35.9	9.5	9.0		基部片	
136	石槍	12・1	I	黒曜石	42.7	22.8	8.3	6.8		未製品、つまみ	32
137	石槍	12・1	I	黒曜石	31.4	29.4	7.6	6.0		未製品、折れ	
138	石槍	12・2	I	黒曜石	54.0	20.5	11.8	13.5		未製品、辻みれ	
139	石槍	12・2	I	黒曜石	35.5	37.8	9.1	10.5		未製品、折れ、磨けいている	
140	石槍	12・2	I	黒曜石	38.0	28.5	6.9	6.9		未製品、つまみ、辻みれ、折れ	
141	石槍	12・2	I	黒曜石	28.0	42.1	7.4	7.7		未製品、つまみ	
142	石槍	12・2	I	黒曜石	55.2	19.2	9.8	8.3		未製品、つまみ	
143	石槍	12・2	I	黒曜石	52.9	38.2	10.8	23.0		未製品、つまみ、折れ	
144	石槍	13・0	I	黒曜石	33.6	21.8	6.3	5.8		未製品、つまみ、折れ	
145	石槍	13・1	I	黒曜石	25.8	16.7	5.7	3.0		未製品、折れ	
146	石槍	13・1	I	黒曜石	36.1	35.8	11.6	16.9		中央部片	
147	石槍	13・1	I	黒曜石	37.7	19.3	9.7	6.6		未製品、つまみ	
148	石槍	13・2	I	黒曜石	56.2	28.5	11.8	16.1		未製品、つまみ	
149	石槍	14・1	I	黒曜石	37.1	25.0	6.1	6.2		未製品、つまみ	
150	石槍	工事立会	I	黒曜石	25.8	29.0	6.2	3.9		基部片	
151	石槍	表探	I	黒曜石	32.9	31.0	11.2	10.9		未製品、折れ	
152	削・撥器	3・1	I	黒曜石	26.7	19.5	6.8	4.2		側縁部片、背面加工	
153	削・撥器	3・2	I	黒曜石	74.8	24.6	10.9	19.4		未製品か、一端縁面に磨い加工	
154	削・撥器	4・1	I	黒曜石	38.6	22.7	7.9	7.6		先端・両側縁面に磨い加工とつまみ	
155	削・撥器	4・1	I	黒曜石	21.9	35.8	9.5	6.7		二辺両面に磨い加工	
156	削・撥器	4・1	I	黒曜石	28.7	27.6	8.6	8.4		板状部石使用、二辺片面加工	
157	削・撥器	5・1	I	黒曜石	29.0	22.1	6.8	5.3		先端部片、両側縁面加工	
158	削・撥器	5・2	I	黒曜石	24.7	17.8	6.3	3.2		先端部片、両側縁面加工	
159	削・撥器	5・2	I	黒曜石	37.1	27.2	10.3	9.4	本業跡あり	未製品か、両側縁面に磨い加工	
160	削・撥器	6・0	I	黒曜石	36.6	16.9	12.4	7.0		側縁部片、両面に磨い加工	
161	削・撥器	6・1	I	黒曜石	23.4	39.5	14.7	14.3		ラウンドスクレイパー	33
162	削・撥器	6・1	I	黒曜石	32.8	27.0	9.8	7.8		ラウンドスクレイパー	34
163	削・撥器	6・2	I	黒曜石	32.3	19.1	5.6	4.1		両側縁面・先端部両面加工、基部欠損	
164	削・撥器	6・2	I	黒曜石	29.8	18.3	8.1	4.2		部片、磨い片面加工	
165	削・撥器	6・2	I	黒曜石	14.9	21.7	7.6	2.2		基部片、両側縁面加工、先端部片あり	

表25 モンガクB遺跡出土制片石器一覽 (4)

(単位:mmとg)

No	器種	グリッド	敷	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図番
166	削・掻器	9・1	I	黒曜石	34.9	24.3	5.9	3.8		先端部片、両側面加工	
167	削・掻器	10・0	I	黒曜石	33.3	33.8	12.4	14.0		ラウンドスライパー	35
168	削・掻器	10・3	I	黒曜石	34.2	27.8	7.1	6.2		一端面加工	
169	削・掻器	11・2	I	黒曜石	39.6	27.0	7.5	8.5		両側面加工、先端・基部欠損	
170	削・掻器	12・0	I	黒曜石	28.0	24.6	9.4	6.1		ラウンドスライパー、先端欠損	36
171	削・掻器	12・1	I	黒曜石	47.9	40.9	14.3	26.0		ラウンドスライパー	37
172	削・掻器	13・2	I	黒曜石	21.6	21.9	6.2	2.6		先端部片、一端面加工	
173	削・掻器	13・2	I	黒曜石	52.2	27.0	9.8	13.3		一端面加工	
174	削・掻器	工事立会	I	黒曜石	28.5	28.9	8.1	8.2		ラウンドスライパー	38
175	削・掻器	表採	I	黒曜石	21.7	22.4	4.6	2.2	つまみ部片	先端部、一端面加工、一端面加工	
176	抉入石器	5・1	I	黒曜石	47.8	18.8	6.0	2.9		取り口部、先端部加工、基部欠損	39
177	楔形石器	3・1	I	黒曜石	20.2	11.7	5.9	1.4		二ツぶみ	40
178	楔形石器	6・1	I	黒曜石	23.1	16.7	7.3	2.8		一ツぶみ	41
179	楔形石器	6・1	I	黒曜石	24.6	8.4	8.2	2.6		一ツぶみ	42
180	楔形石器	12・0	I	黒曜石	25.1	13.4	8.3	2.4		二ツぶみ	43
181	R・F	3・1	I	黒曜石	26.5	41.9	7.4	7.4		木製器芯部埋込み	
182	R・F	3・1	I	黒曜石	30.5	11.0	2.9	0.9		一端面加工	
183	R・F	3・1	I	黒曜石	40.3	36.9	7.9	7.4		先端部加工	
184	R・F	3・2	I	黒曜石	20.9	19.7	4.3	2.2		一端面加工	
185	R・F	3・2	I	黒曜石	21.8	28.7	3.0	1.7		先端部、一端面加工	
186	R・F	4・1	I	黒曜石	18.9	33.8	8.3	5.5		基部加工、両長側に欠けている	
187	R・F	4・1	I	黒曜石	36.6	24.0	5.1	3.3		一端面加工	
188	R・F	4・1	I	黒曜石	19.6	23.0	6.8	3.0		両側面加工、先端欠損	
189	R・F	4・1	I	黒曜石	24.4	25.4	6.1	4.5		基部片、両側面加工	
190	R・F	4・1	I	黒曜石	31.9	37.5	4.4	3.6		一端面加工	
191	R・F	4・2	I	黒曜石	34.9	19.1	9.9	4.7		先端部加工、一端面加工	
192	R・F	4・2	I	黒曜石	36.3	21.8	5.4	4.7		先端部片、先端部、一端面加工	
193	R・F	4・2	I	黒曜石	34.5	30.1	10.7	10.6		一端面加工、先端欠損	
194	R・F	4・2	I	黒曜石	30.4	21.3	6.0	3.8		先端部、一端面加工	
195	R・F	4・2	I	黒曜石	35.3	20.9	5.7	2.0		一端面加工	
196	R・F	4・2	I	黒曜石	26.3	19.0	6.2	2.9		一端面加工	
197	R・F	4・2	I	黒曜石	19.6	14.5	4.3	1.3		先端部、一端面加工	44
198	R・F	4・2	I	黒曜石	38.5	27.2	9.1	7.1		一端面加工	
199	R・F	4・2	I	黒曜石	46.5	23.5	9.7	10.0		一端面加工	
200	R・F	4・3	I	黒曜石	28.4	28.7	8.5	6.2		先端部未定形部のみ、基部加工	45
201	R・F	5・1	I	黒曜石	27.5	19.0	3.9	1.4		つまみ付基部、基部埋込み	46
202	R・F	5・1	I	黒曜石	29.5	16.5	4.4	1.8		先端部片、一端面加工	
203	R・F	5・2	I	黒曜石	30.9	50.9	13.5	22.6		先端部加工	
204	R・F	6・0	I	黒曜石	13.7	22.3	3.4	0.8		石製埋込み	
205	R・F	6・1	I	黒曜石	45.8	31.0	18.1	22.3		基部・両側面加工	47
206	R・F	6・1	I	黒曜石	48.4	26.6	9.2	11.7		一端面加工、一端部加工	
207	R・F	6・1	I	黒曜石	39.6	22.2	10.5	8.1		一端面加工	48
208	R・F	6・1	I	黒曜石	35.0	34.8	12.6	16.0		先端部片、両側面加工	
209	R・F	6・3	I	黒曜石	18.6	34.3	8.7	5.0		先端部、基部埋込み	
210	R・F	7・1	I	黒曜石	37.4	26.8	9.5	7.8		側面片、背面加工	
211	R・F	7・1	I	黒曜石	16.0	15.4	3.7	0.7		一端面加工、基部加工	
212	R・F	7・1	I	黒曜石	23.8	24.5	6.5	2.5		一端面加工、基部加工	
213	R・F	7・2	I	黒曜石	17.0	30.3	4.7	1.8		先端部加工	49
214	R・F	7・2	I	黒曜石	10.8	12.2	2.9	0.8		先端部片、背面加工	
215	R・F	7・2	I	黒曜石	21.5	12.2	3.7	0.9		一端面加工	
216	R・F	7・2	I	黒曜石	36.9	22.4	6.7	4.3		一端面加工、一端欠損	
217	R・F	7・3	I	黒曜石	21.5	12.0	10.0	1.6		先端部片、一端面加工	
218	R・F	8・1	I	黒曜石	20.5	35.3	9.0	4.4		先端部加工	50
219	R・F	8・1	I	黒曜石	41.3	18.4	9.7	6.6		側面片、背面加工	
220	R・F	8・2	I	黒曜石	51.3	21.5	7.0	6.3		一端面加工、一端欠損	

表26 モンガク日遺跡出土制片石器一覧 (5)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	版	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図録
221	R・F	8・2	I	黒曜石	29.8	25.1	10.9	8.1	尖頭未製品の基部片		
222	R・F	9・2	I	黒曜石	27.4	12.4	3.7	0.9	一側面加工		
223	R・F	9・2	I	黒曜石	22.2	12.9	3.5	0.8	基部片、両側加工		
224	R・F	9・3	I	黒曜石	31.0	15.1	3.3	1.1	一側面加工、削けている		
225	R・F	10・0	I	黒曜石	11.6	12.1	3.5	0.7	先端一側面加工		51
226	R・F	10・0	I	黒曜石	55.2	24.8	14.1	14.9	尖頭未製片、一側面加工		
227	R・F	10・0	I	黒曜石	31.4	17.4	3.9	2.4	一側面加工		
228	R・F	10・0	I	黒曜石	31.2	17.8	6.5	3.8	一側面加工		
229	R・F	10・1	I	黒曜石	52.7	27.6	10.7	11.3	一側面加工		
230	R・F	10・1	I	黒曜石	21.6	13.7	2.9	0.8	一側面加工		
231	R・F	10・2	I	黒曜石	32.3	17.1	5.5	2.9	一側面加工		
232	R・F	10・2	II	黒曜石	19.4	26.2	4.0	1.6	基部片、一側面加工		
233	R・F	10・3	I	黒曜石	25.4	19.3	4.3	1.9	一側面加工		
234	R・F	10・3	I	黒曜石	51.7	25.1	7.3	8.8	両側面加工		
235	R・F	11・1	I	黒曜石	46.6	19.6	12.1	7.8	先端面加工		
236	R・F	11・2	I	黒曜石	23.9	16.1	5.1	2.1	先端一側面加工		52
237	R・F	11・2	I	黒曜石	45.3	35.7	9.2	14.2	先端一側面加工		
238	R・F	11・3	I	黒曜石	16.6	19.1	4.2	1.0	先端・両側面加工		53
239	R・F	11・3	I	黒曜石	69.3	28.4	8.6	15.6	両側面加工		
240	R・F	12・1	I	黒曜石	16.2	13.2	3.1	0.7	基部片、一側面加工		
241	R・F	12・1	I	黒曜石	18.9	22.4	4.5	1.5	基部片、両側加工		
242	R・F	12・1	I	黒曜石	19.7	40.8	9.7	7.1	先端面に削い加工		
243	R・F	12・1	I	黒曜石	48.7	22.1	9.7	11.5	一側面加工		
244	R・F	12・1	I	黒曜石	27.2	25.9	3.7	1.7	一側面加工		
245	R・F	12・1	I	黒曜石	32.7	28.6	7.3	5.8	基部・両側面加工、先端ふみ		54
246	R・F	12・2	I	黒曜石	27.9	14.8	6.1	1.9	一側面加工		
247	R・F	12・2	I	黒曜石	29.9	18.3	14.5	2.0	先端面加工		
248	R・F	12・2	I	黒曜石	34.9	15.4	3.4	1.4	一側面加工		
249	R・F	12・2	I	黒曜石	39.2	28.5	4.7	5.9	一側面加工、削れ		
250	R・F	13・1	I	黒曜石	22.4	34.0	7.1	3.6	一側面加工		
251	R・F	13・1	I	黒曜石	30.6	39.1	6.9	9.0	つまみ付未製品、両側面加工		55
252	R・F	13・1	I	黒曜石	36.8	31.8	4.4	5.2	両側面加工		
253	R・F	13・1	I	黒曜石	34.6	24.1	7.3	4.4	基部片使用、一側面加工		
254	R・F	13・1	I	黒曜石	24.9	24.2	5.6	3.9	基部片使用、一側面加工、先端欠損		
255	R・F	13・2	I	黒曜石	23.5	30.9	11.9	7.4	一側面加工、先端欠損		
256	R・F	13・2	I	黒曜石	26.3	13.0	2.2	0.7	両側面加工		
257	R・F	13・2	I	黒曜石	26.1	13.1	5.0	1.4	一側面加工		
258	R・F	表採	I	黒曜石	28.7	48.5	17.8	23.0	全面に削い加工、石塊		
259	R・F	表採	I	黒曜石	24.3	38.6	7.1	7.0	先端・基部面加工		
260	U・F	4・1	I	黒曜石	34.6	21.2	6.1	3.6	一側面にぼけ状		
261	U・F	4・1	I	黒曜石	22.2	14.9	3.8	1.3	一側面にぼけ状		
262	U・F	4・2	I	黒曜石	21.0	16.3	2.4	0.7	一側面にぼけ状		
263	U・F	5・0	I	黒曜石	44.8	16.6	4.9	3.4	一側面にぼけ状		
264	U・F	5・1	I	黒曜石	30.4	13.3	2.5	1.0	一側面にぼけ状		
265	U・F	5・1	I	黒曜石	20.3	8.0	2.6	0.4	先端部片、両側面にぼけ状		56
266	U・F	5・1	I	黒曜石	25.6	14.3	3.9	1.2	一側面にぼけ状		
267	U・F	6・0	I	黒曜石	24.9	13.1	3.4	0.5	一側面にぼけ状		
268	U・F	6・1	I	黒曜石	37.4	22.4	6.8	4.2	両側面にぼけ状		57
269	U・F	7・2	I	黒曜石	24.4	13.7	2.8	0.8	一側面にぼけ状		
270	U・F	7・2	I	黒曜石	19.7	21.5	5.9	2.1	先端一側面にぼけ状		
271	U・F	7・2	I	黒曜石	20.5	11.0	2.6	0.5	黒石片、一側、両側面にぼけ状		58
272	U・F	8・0	I	黒曜石	18.4	20.3	3.4	1.3	両側面にぼけ状、基部欠損		59
273	U・F	8・2	I	黒曜石	13.3	11.9	2.6	0.4	黒石片、一側、両側面にぼけ状		60
274	U・F	8・3	I	黒曜石	14.6	12.8	1.7	0.3	黒石片、二側、一側面にぼけ状		61
275	U・F	10・1	I	黒曜石	31.7	18.9	4.2	1.6	一側面にぼけ状		

表27 モンガクB遺跡出土制片石器一覧(6)

No	器種	グリッド	取	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図番
276	U・F	10・2	II	黒曜石	36.9	41.5	6.7	7.5	先端・側縁刃こぼれ状、一側つまみ		62
277	U・F	11・0	I	黒曜石	17.2	22.0	2.3	0.8	一側縁刃こぼれ状		
278	U・F	11・1	I	黒曜石	31.9	21.0	6.2	3.9	一側縁刃こぼれ状		
279	U・F	11・1	I	黒曜石	57.6	21.6	10.0	8.6	一側縁刃こぼれ状		63
280	U・F	12・1	I	黒曜石	17.2	12.0	3.1	0.6	一側縁刃こぼれ状		
281	U・F	12・1	I	黒曜石	21.9	25.5	8.9	3.3	先端刃こぼれ状		
282	U・F	12・1	I	黒曜石	26.7	21.1	5.6	2.2	先端から一側縁刃こぼれ状		
283	U・F	12・1	I	黒曜石	29.8	27.2	6.2	3.6	一側縁刃こぼれ状		
284	U・F	13・1	I	黒曜石	32.3	27.0	8.3	6.2	一側縁刃こぼれ状、一側つまみ		
285	U・F	13・1	I	黒曜石	30.5	18.6	4.6	2.0	両側縁刃こぼれ状		
286	U・F	14・2	I	黒曜石	33.4	34.4	10.5	8.9	一側縁刃こぼれ状		
287	U・F	表採	I	黒曜石	34.6	13.6	5.0	3.0	断面方か、二側、両側縁刃こぼれ状		64
288	石核	3・1	I	黒曜石	33.0	29.8	17.2	16.2			
289	石核	3・3	I	黒曜石	34.1	29.0	12.2	12.1	一面に黒石面を剥す		
290	石核	4・2	I	黒曜石	27.0	25.6	8.0	7.6			65
291	石核	4・2	I	黒曜石	26.9	34.1	23.4	13.6			66
292	石核	5・0	I	黒曜石	25.1	30.3	10.5	8.8			
293	石核	5・1	I	黒曜石	29.2	12.2	30.6	12.1	一面に黒石面を剥す		
294	石核	5・1	I	黒曜石	34.9	29.2	13.5	13.9	二面に黒石面を剥す		
295	石核	5・1	I	黒曜石	37.8	24.9	9.2	9.2	二面に黒石面を剥す		
296	石核	5・1	I	黒曜石	19.6	28.8	10.9	7.1	二面に黒石面を剥す		
297	石核	5・1	I	黒曜石	30.2	22.6	12.2	9.9	四面に黒石面を剥す		
298	石核	5・2	I	黒曜石	46.5	20.5	18.5	19.7	一面に黒石面を剥す		
299	石核	5・2	I	黒曜石	22.9	39.2	30.4	22.1			
300	石核	5・3	I	黒曜石	22.8	27.7	10.0	6.9	一面に黒石面を剥す		
301	石核	6・0	I	黒曜石	44.4	30.7	25.7	42.2	四面に黒石面を剥す		67
302	石核	6・1	I	黒曜石	36.9	21.3	15.3	13.1	四面に黒石面を剥す		68
303	石核	6・1	I	黒曜石	23.1	12.4	9.8	2.9			
304	石核	6・1	I	黒曜石	27.6	22.4	14.3	8.1	一面に黒石面を剥す		
305	石核	6・2	I	黒曜石	28.0	36.9	13.2	13.4			
306	石核	6・3	II	黒曜石	21.7	33.5	11.3	10.4	一面に黒石面を剥す		
307	石核	7・1	I	黒曜石	28.6	29.2	26.9	23.3	二面に黒石面を剥す		
308	石核	7・2	I	黒曜石	23.1	28.5	15.9	8.5	一面に黒石面を剥す		
309	石核	7・2	I	黒曜石	37.9	32.8	12.4	16.3	一面に黒石面を剥す		
310	石核	8・1	I	黒曜石	21.5	29.6	18.0	12.1			
311	石核	8・2	I	黒曜石	21.4	27.8	14.6	6.8	一面に黒石面を剥す		
312	石核	8・2	I	黒曜石	38.1	32.5	18.7	18.9	二面に黒石面を剥す		
313	石核	10・3	I	黒曜石	29.8	14.9	11.4	6.5	一面に黒石面を剥す		
314	石核	10・3	I	黒曜石	29.3	28.6	8.9	9.2	四面に黒石面を剥す		
315	石核	11・0	I	頁岩	37.3	16.0	17.4	8.0			
316	石核	11・1	I	黒曜石	30.5	56.4	6.8	29.1	三面に黒石面を剥す		
317	石核	11・1	I	黒曜石	36.8	22.3	12.1	9.4	一面に黒石面を剥す		
318	石核	11・1	I	黒曜石	23.4	24.6	8.1	5.0			
319	石核	11・3	I	メノウ	23.1	28.0	15.9	12.7			
320	石核	11・3	I	黒曜石	26.9	25.8	8.2	6.4	一面に黒石面を剥す		
321	石核	12・0	I	黒曜石	33.6	36.3	10.1	11.3			
322	石核	12・1	I	黒曜石	18.1	26.4	21.7	9.8	三面に黒石面を剥す		
323	石核	12・2	I	黒曜石	22.9	32.2	14.7	10.8	一面に黒石面を剥す		
324	石核	12・2	I	黒曜石	64.8	42.1	12.5	29.2	三面に黒石面を剥す		
325	石核	12・2	I	黒曜石	35.6	63.6	22.4	37.0	二面に黒石面を剥す		
326	石核	13・1	I	黒曜石	40.1	18.7	10.6	5.8			
327	石核	13・2	I	黒曜石	54.2	28.7	26.1	35.2	一面に黒石面を剥す		
328	石核	工事立会	I	黒曜石	32.0	26.0	31.0	21.1	一面に黒石面を剥す		
329	スポール	5・1	I	黒曜石	27.3	8.0	4.9	0.8	フーストスポール、基部欠損		69
330	スポール	5・2	I	黒曜石	45.6	12.3	6.7	3.4	つまみあり		70

表28 モンガクB遺跡出土制石器一覧 (7)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	産石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図
331	スポール	5・2	I 黒曜石	36.4	13.0	9.6	4.3			71
332	スポール	6・1	I 黒曜石	44.6	8.3	3.9	1.3			72
333	細石刃	5・1	I 黒曜石	24.9	7.3	2.2	0.4	一重		73
334	細石刃	5・2	I 黒曜石	15.2	6.7	2.6	0.2	二重 先端欠損		74
335	石刃	6・3	I 黒曜石	39.2	17.9	4.8	4.6	二重 先端欠損		75
336	細石核	5・1	I 黒曜石	16.3	17.1	19.2	14.5			76
337	細石核	5・2-93	II 黒曜石	46.7	16.2	16.9	12.0			77
338	細石核	6・1	I 黒曜石	48.1	8.4	8.2	2.6			78

表29 モンガクB遺跡出土礫石器一覧

(単位mmとg)

No	器種	グリッド	産石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図
1	石斧	3・1	I 凝灰岩	31.9	22.3	5.0	4.8	刃部片		
2	石斧	3・1	I 泥岩	36.7	24.4	6.6	5.5	中央部片		
3	石斧	5・1	I 泥岩	74.2	39.0	15.8	53.8	打痕		79
4	石斧	6・2	I 泥岩	39.8	28.8	8.8	13.1	基部片		
5	石斧	6・3	I 片岩	54.1	41.9	10.0	40.6	刃部片		80
6	石斧	8・0	I 片岩	47.2	34.9	6.5	12.2	基部片		
7	石斧	8・1	I 片岩	65.5	44.5	8.1	47.8	基部片		
8	石斧	8・1	I 片岩	33.8	11.9	3.2	1.9	基部片		
9	石斧	10・1	I 片岩	57.6	42.9	13.7	55.9	基部片		81
10	石斧	11・2	I 泥岩	68.6	37.3	12.7	44.2	刃部片		82
11	石斧	表採	I 片岩	23.7	19.1	9.3	5.0	基部部片		
12	たたき石	3・2	I 安山岩	83.4	54.4	20.9	126.7	一重に付いた石状		83
13	たたき石	4・2	II 凝灰岩	125.7	55.6	39.1	220.8	二重に付着		84
14	たたき石	5・1	I 凝灰岩	97.4	56.6	20.9	128.2	一重に付いた石状		85
15	たたき石	5・1	I 安山岩	71.3	69.6	34.7	181.6	基部片、一面に付着		
16	たたき石	5・2	I ノリ岩	59.4	61.6	41.5	175.5	一重に付着		
17	たたき石	6・3	I 安山岩	94.4	49.9	22.9	138.1	一重に付いた石状		86
18	たたき石	8・1-88	II 凝灰岩	62.2	56.5	30.6	145.7	基部片、二面に付着		87
19	たたき石	9・1	I 凝灰岩	59.0	54.6	19.9	61.2	基部片、一面に付着		
20	たたき石	10・1	I 安山岩	102.6	63.6	34.5	320	両面に付着		88
21	たたき石	10・1	I 安山岩	160.0	61.2	36.2	655	二面に付いた石、一重に付着		
22	たたき石	10・1	I 安山岩	148.2	97.8	32.2	490	二面に付着		89
23	たたき石	10・3	I 凝灰岩	59.0	68.3	26.3	125.8	基部片、二面に付着		90
24	たたき石	12・3	I 安山岩	106.2	64.0	39.3	320	二面に付着		91
25	石冠片か	9・2	I 安山岩	30.1	34.0	17.2	15.0	基部片		
26	砥石片か	3・1	I 砂岩	81.7	37.8	19.9	63.8	断面不明		
27	垂飾か	3・2	I 安山岩	39.6	36.4	8.8	16.3	自然に貫いた穴を鑿削している		92
28	珪化木	9・2	I	74.2	30.4	11.6	32.1			

5 まとめ

本遺跡からは、旧石器時代、縄文時代中・後期、統縄文時代後期の遺物が出土している。時期別に見ると、縄文時代中期の資料は調査区のほぼ全域から出土しており、量的にも最も多い。これに対し後期の土器片は南西側、後北期の土器片は中央部、旧石器時代の資料は北東側と、それぞれ片寄った出土傾向を示している。

遺構は、Tピット4基、石組炉1基、土壇8基がある。このうちTピット、石組炉、P1～5は、出土遺物などから縄文時代中期のものと考えられる。Tピットのうち、長軸が等高線と直交する方向にあるものはTP1のみで、他の3基の長軸はいずれも等高線と平行する。この4基のTピットを一つの配列としてみた場合、舌状台地の東側半分を取り巻くような配置が想定される。この場合Tピットは、台地の上方に向かって更に多数が配置されているであろうし、発掘区の東側にみられる小さな沢を越えて広がっていることも予想される。また、石組炉及びP1～5を取り込むような形になっている点に着目すると、Tピットの配列が或る種の生活域を示しているとも考えられる。

石組炉は、炉石の内面がかなり焼けているにも関わらず炉内には焼土がなく、炉石の外側に設けられたピット内にみられた。ある程度使用する毎に炉内からピットに掻き出したものであろうか。なお、TP2の覆土にみられる焼土も、本石組炉内から廃棄されたものと思われ、TP2の構築と石組炉の使用時期とは、ほぼ同時期であると考えられる。

P1～5は、いずれも石組炉の近くに掘り込まれている。このうちP1・2は不整な平面形を呈し、覆土は流れ込みによる自然堆積の様相を呈している。これに対し、P3～5は、いずれも円形に近い平面形を有し、規模もほぼ似通っている。遺物は黒曜石の剥・砕片が殆どで、他には土器片と石槌未製品各1点が出土しているに過ぎない。ことに顕著なのはP3と5で、前者は443点(83g)、後者は529点(162g)の剥・砕片がピット内につまっていた。おそらくP3～5は、不要な剥・砕片類を廃棄するために掘られたものであろう。

P6は、出土遺物が礫2点のみのために時期の特定ができない。遺構の項で述べたように、一度掘って埋めたものを、更に深く掘り直して再度埋めている。その際、最初の位置とズレがあったために結果として壇底部が二段になってしまっている。こうした例としては再葬された墓壇などが考えられるが、現時点では断定しがたい。

P7は、大型の礫を二つ立て並べた土壇である。礫には、いずれも人為的な加工はみられない。大きさは極めて似通っているが、一つは角のない長楕円礫(礫8)で、もう一つはかなり角張ったもの(礫9)である。どちらも本遺跡の近辺でみられるものではなく、大きさのよく似た、しかも見た目の異なるものが選ばれて持ち込まれたものであろう。なお、礫8は北側に、礫9は南側に傾いているが、掘り方を見ると、礫を据えた当初からそれぞれの方向に傾けていたようである。土器片などの遺物がないため、俄かに時期を特定することはできないが、縄文時代後期にみられる、ストーン・サークルなどの配石遺構に関連するものと思われる。余市平野周辺の丘陵地帯は、配石遺構の多い地域として知られている(図35)。しかし、これらには時期の不明なものや、内容の不確かなものも多く、縄文時代後期の配石遺構と思われるものは、忍路環状列石(Na2)、地鎮山巨石記念物(3)、西崎山ストーンサークル(4)、柴町3(28)、登町4(27)、八幡山(30)、登町6(31)、警察墓山(37)の八遺跡にある。これらの遺構に共通するのは、見晴らしの良い丘陵上に設けられている点である。「忍路5遺跡」の報告で述べたように、配石遺構を設ける際の要件として、当時の集落を見下ろす方向に眺望が開けている点が挙げられよう。本遺構の場合も、モンガクC遺跡側に集落があるとすれば、まさに配石遺構の立地条件に合致する。ところで前記八遺跡の内容をみると、立石遺構とされている警察墓山遺跡を除くと、

立石と敷石、あるいは環状列石である。こうした配石遺構については、古くより様々な用途が取りざたされていたが、現在では、中央に細長い礫を立て、その周囲に楕円礫を敷き並べた形態のものが墓塚であり、環状列石は墓域を示すものと認識されている。しかし、本遺構の場合は掘り方と礫の入り方からみて、それ自体は到底墓塚とは思われない。また、礫が土壌内に完全に埋められている点からして、単独で設けられたシンボルとは考え難い。今回の調査区域外に主たる広がりをもつ配石遺構群の一部と考えるのが妥当であろうか。

P8は、発掘区の南西端、工事立会区との境目で確認した。出土遺物はなく、帰属時期は明確ではないが、縄文時代中期の所謂フラスコ状ピットと思われる。この種の土壌が植物質食料の貯蔵穴であるならば、それらの残片などが残されている可能性が高いと思われるので、掘底部の土を採取し、フローテーション法によって微細遺物の検出につとめた。しかし、案に相違して植物遺体は全く検出されなかった。このことをもって貯蔵穴の可能性が否定される訳ではないが、この種の土壌の性格については、今後更に検討が必要であろう。

旧石器時代の資料は、細石刃とその石核、スポールのわずか10点に過ぎないが、余市平野の縁辺部では初めて確認されたものである。なお、登郷土誌には仁木町と赤井川村との境に所在する冷水峠付近で細石刃の資料が採集されているとの記載があり、立地と環境(第I章、第4節)の項でも述べたように、黒曜石の原産地である赤井川カレラ地域から、冷水峠を越えモンガク丘陵に至るルートが、古くから開けていたことを示すものといえよう。

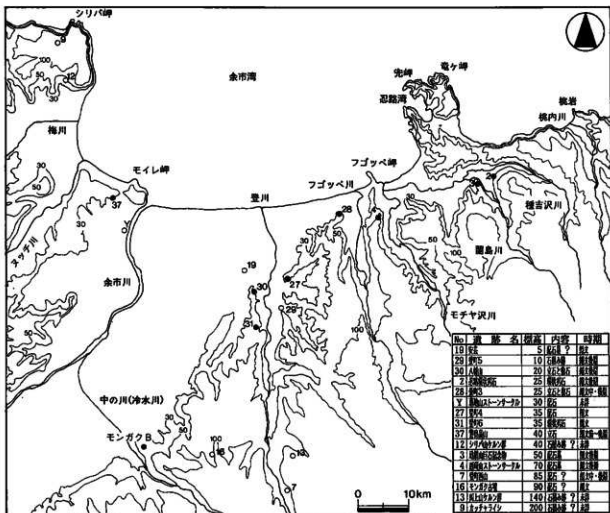


図36 配石遺構のある遺跡

凡例 ●配石遺構のある遺跡
○文献等に配石遺構の記載が見られるが不確かな遺跡

引用・参考文献

- 阿部 義平 編 1968『仁木町史』
- 阿部 正巳 1919「忍路の環状列石」『北海道人類学会雑誌 1号』
- 木村 尚俊 1984「周堤墓」『北海道の研究(考古篇 1)』
- 久保 武夫 1970「余市町附近のストーンサークルの分布」『北海道の文化18』
- 久保 武夫、佐藤 利雄 1986「登町の先史時代」『登郷土誌』登郷土誌作成委員会 編
- 駒井 和愛 1953「余市附近のストーンサークル、環状列石墓、その他」『余市』地方史研究所 編
- (財)北海道埋蔵文化財センター 1982『美沢川流域の遺跡群発掘調査の概要』
- 田才 雅彦 1989「忍路土場遺跡の石器等」『忍路土場遺跡・忍路5遺跡(第3分冊)』北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第53集
- 1989「忍路5遺跡」『忍路土場遺跡・忍路5遺跡(第5分冊)』北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第53集
- 矢吹 俊男 1988「配石遺構」『北海道考古学 第24輯』

Ⅳ モンガクF遺跡

IV モンガクF遺跡

1 遺跡の概要

本遺跡は、小沢を挟んでモンガクA遺跡の北側、舌状丘陵先端部付近の緩い傾斜地に位置している。今回の調査区内の標高は14~15mで、モンガクA遺跡の最も低い部分に相当する。眺望はモンガクA遺跡ほどではないが、ほぼ余市平野の北半分を見渡すことができる。調査区周辺は、リンゴ、ブドウなどの果樹園として利用されており、果樹を支えるアンカーを埋めこむための溝などが掘られているため、包含層が著しく攪乱を受けていた。また、調査区南側の部分は、町道の拡幅工事によって基層まで破壊されていた。このため、調査はモンガクB遺跡同様に、遺構の確認と遺物の収集に主眼を置くこととなった。

今回の調査区からは遺構は検出されなかった。遺物は全部で3555点出土している。このうち土器片が235点、石器等が3318点である。出土した土器片が縄文時代早期(I群)限られていることから、遺跡の営まれた時期は同期に限定されるものと考えられる。なお、特徴的な石器として重量320~740gの大型石錘があげられる。

2 層序

- I層 表土(耕作土)
- II層 黒色土(遺物包含層)
- III層 暗褐色土(漸移層)
- IV層 黄褐色土

前述したように、調査区内は攪乱が著しいため、遺物包含層である黒色土(II層)は、29区の一部にのみ残されている状態であった。

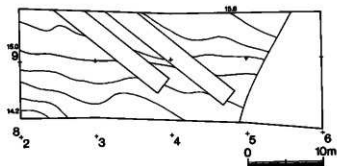


図37 発掘区の地形

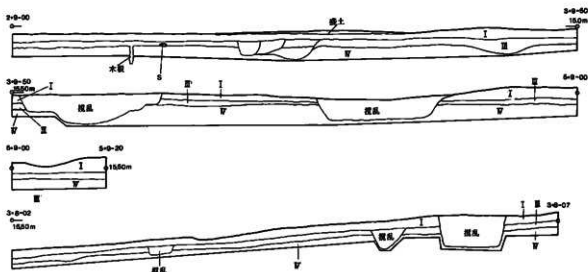


図38 土層断面

3 包含層出土の遺物

土器 (図39)

今回の調査区からは235点の土器片が出土しているが、既に述べたとおり、長年におたる耕作や果樹のアンカーなどによる攪乱で、いずれも小破片に摩耗しており、復元しえたものはなかった。時期は全て縄文時代早期 (I群)である。縄線文、短縄文、組紐圧痕文、縄端圧痕文、結条体圧痕文などが施文されるもの、縄文のみのもの、無文の三類に分けられる。

1～17、30、31は、縄線文、短縄文、組紐圧痕文、縄端圧痕文、結条体圧痕文などが施文されるものである。1は、口縁部に横位の縄線文が施文されている。2～8は、組紐圧痕文が横位に施文された土器である。2は器面が摩耗しており、組紐が深く押し込まれている。5は器面が赤褐色で、組紐圧痕の断面が角形を呈する。7・8は摩耗が甚しい。9～13は、同一個体ではないかと思われるもので、9はR.L縄文、縄端圧痕文、横位の組紐圧痕の順に施文されており、内面調整は丁寧である。12は横位の組紐圧痕文の下に、結条体圧痕文が縦位に施文されている。13は、磨耗が甚しいが、12と同様に組紐圧痕文と結条体圧痕文が施文されている。14は、摩耗が甚しいが、縄端圧痕文の直下に組紐が押し込まれている。15は口縁部の破片である。口唇は、やや丸みを帯びた平縁で縄文が施文されている。口縁部には縄線文が斜め左上がりに施文されている。16も口縁部の破片である。口唇は丸みを帯びている。器面には、縄線文が縦位に施文されている。30、31は、底部で短縄文が施文されている。

18～28は、縄文のみが施文された土器である。18は口唇が肥厚し、刻みを加えられている。器面にはR.L縄文が施文されるが、口縁直下は縄文が磨消されている。18は、燃りの方向の違う原体を用いた羽状縄文が施文されている。22～27は、斜行縄文が施文された土器である。28は、縦位の貼付帯が設けられている。29は無文のもので、器面が赤褐色を呈す。

石器等 (図40～43)

石器等の器種・グリッド別の点数は表37に示したとおりで、総数3318点、うち石器が247点である。出土した土器からも明らかのように、本遺跡が営まれた時期は縄文時代早期に限られており、石器類も全て該期の資料と考えられる。

石鏃は51点の出土で、このうち未製品は5点である。石材は全て黒曜石で、形態は不明の29点を除くと、有柄凸基が2点、木葉形が1点あるものの、柳葉形が19点と大半を占めている。柳葉形を呈すものの大きさは、長さ25mm～35mm、幅10mm前後であり、長さに比して幅はほぼ一定しているようである。従って、長さが短かめものは木葉形に近い形態を示す。

尖頭器は36点が出土している。このうち形態の判るものは木葉形の例1点のみで、未製品が4点、破損品・破片が31点ある。石材は頁岩が7点で、ほかは黒曜石である。図38-10は未製品の例で、B遺跡の項で指摘したように、石鏃同様の手順で作成されている。

石鏃は3点の出土である。11は頁岩製で、腹面は先端から基部にかけて丁寧な調整がみられるが、背面は側縁にまばらな剥離がみられるだけである。

削・播器は45点の出土で、石材は13点が黒曜石、31点が頁岩、1点がチャートである。今回の調査を通じて、剥片石器の素材となっているものは圧倒的に黒曜石であり、頁岩製のものが黒曜石製のものを数量的に上回っている例はこれだけである。形態的には、つまみ付きの例が14点、木葉形が7点ある。つまみ付きのものは、いずれも縦長で、先端が切り出し状になっている。

挿入石器は5点を得ている。27は、肉厚の側縁部に二カ所の抉りをもつもので、使用に際しては斜めに持つ恰好になる。

楔形石器は6点の出土で、全て黒曜石製である。いずれも横長で、断面形が凸レンズ状を呈している。

R・Fは53点あり、石質は頁岩が12点、黒曜石が41点である。

U・Fは24点で、石質は頁岩が7点、黒曜石が17点である。

石核は11点の出土である。素材は、頁岩が1点あるほかは黒曜石である。

石刃は破片2点が出土している。いずれも頁岩製で、No235は一稜、No236は二稜である。

石斧は、片岩と凝灰質砂岩製各1点がある。いずれも刃部・基部共に欠いている。図39-32の一例縁にはすり切り痕が残されている。

石錘は7点を得ている。素材は、偏平な安山岩の円礫が5点で、これらはいずれも長軸方向に打ち欠き部を持つ。図42-38は、偏平な安山岩の楕円礫を素材としたもので、短軸方向に打ち欠き部をもっている。図43-39は、角張った凝灰岩の偏平礫を素材としており、長軸方向に打ち欠き部を持つ。

板状礫は破片が1点出土している。石質は安山岩で、厚さは25mmである。

台石は、安山岩の偏平円礫を素材とした小型のもの1点がある。

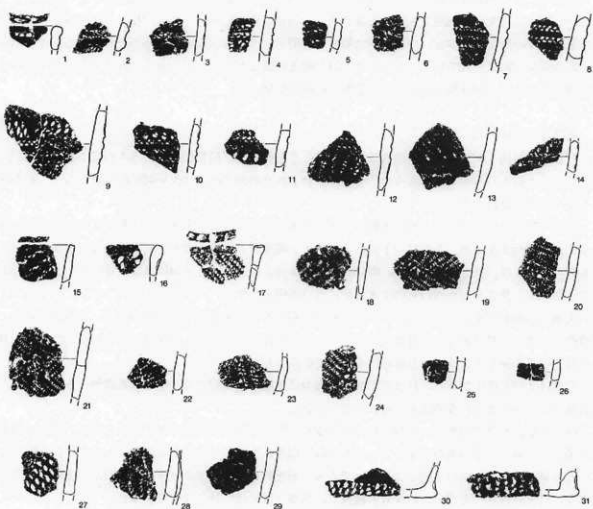


図39 包含層出土の土器

表30 モンガクF 遺跡拓影掲載土器一覽

図番	分類	グリッド	胎	器形	部位	文	様	遺物番号
1	I	2・9	I	深鉢	口縁部	口縁に横位の縦線文、口唇に横の帯状		15
2	I	2・9	II	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、表面磨光		26
3	I	2・8	II	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、表面磨光、内面に炭化物		11
4	I	2・9	II	深鉢	胴部	横位および縦位の縦線圧痕		26
5	I	2・9-90	III	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、表面磨光、縁部やや厚い		30
6	I	4・9	I	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、R.L.線文、内面に凹凸		63
7	I	3・8	II	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、内外面磨光		47
8	I	2・9-91	III	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、内外面磨光		31
9	I	3・9	I	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、横位の縦線圧痕、R.L.線文、内面に炭化物		51
10	I	2・9	III	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、縁部圧痕、表面磨光、内面に指痕による縦線痕		26
11	I	3・9	I	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、縁部圧痕、表面磨光		53
12	I	2・9	II	深鉢	胴部	横位および縦位の縦線圧痕、表面磨光		26
13	I	2・8	I	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、R.L.線文、表面磨光、内面に炭化物		1
14	I	2・8	II	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、縁部圧痕、内面に指痕による縦線痕		11
15	I	2・9	II	深鉢	口縁部	平縁、口唇に横文、光下りの帯状圧痕		26
16	I	2・9	II	深鉢	口縁部	縁部圧痕、表面磨光		27
17	I	3・8	II	深鉢	口縁部	口唇やや肥厚、R.L.線文、表面磨光		47
18	I	2・8	I	深鉢	胴部	口唇やや肥厚、R.L.線文、表面磨光、内面に炭化物		2
19	I	2・9-91	III	深鉢	胴部	羽状横文(R.L.+L.R.横回転)、内面に指痕による縦線痕		36
20	I	2・8	II	深鉢	胴部	R.L.線文、内面にごく細かい縦線		12
21	I	2・9-91	III	深鉢	胴部	羽状横文(R.L.+L.R.横回転)、内面に指痕による縦線痕		31
22	I	3・8	II	深鉢	胴部	R.L.線文、内外面磨光		47
23	I	3・8	II	深鉢	胴部	L.R.線文、表面磨光、内面に横位の縦線痕		47
24	I	2・8	II	深鉢	胴部	R.L.線文		8
25	I	3・8	II	深鉢	胴部	表面磨光		47
26	I	3・9	II	深鉢	胴部	L.R.線文、内面に炭化物、指痕による縦線痕		60
27	I	4・8	I	深鉢	胴部	縦線文、表面磨光		61
28	I	3・8	I	深鉢	胴部	横位の帯状帯、表面磨光、内面に炭化物		46
29	I	3・9	I	深鉢	胴部	横文、内面に指痕による縦線痕		54
30	I	2・9-51	III	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕		29
31	I	2・9	II	深鉢	胴部	横位の縦線圧痕、内外面磨光		27

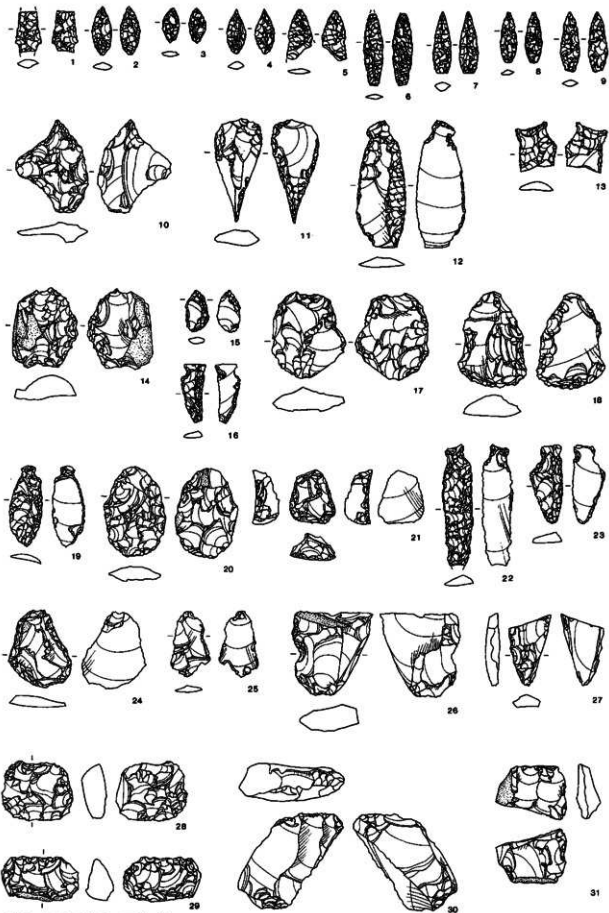


図40 包含層出土の石器 (1)

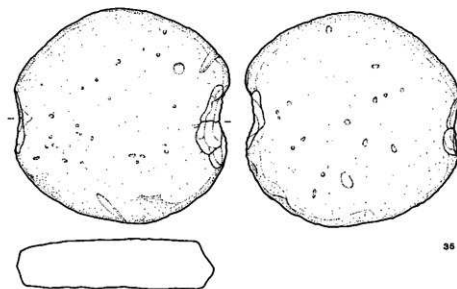
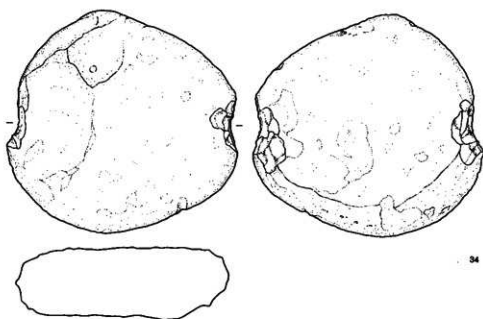
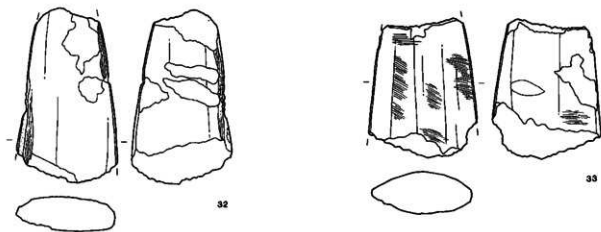
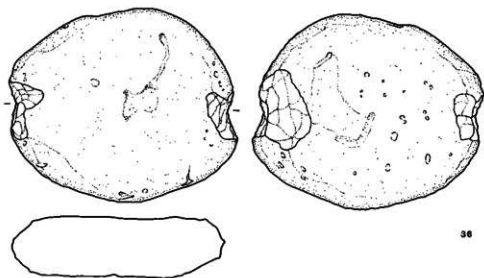
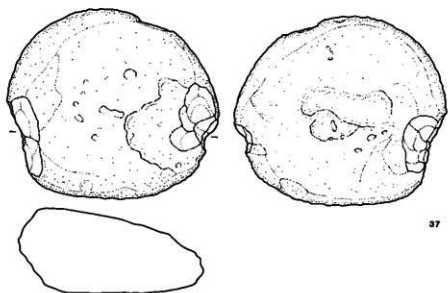


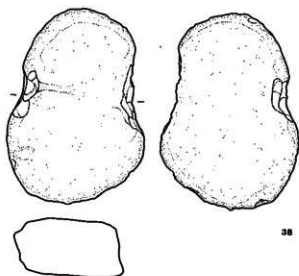
図41 包含層出土の石器 (2)



36

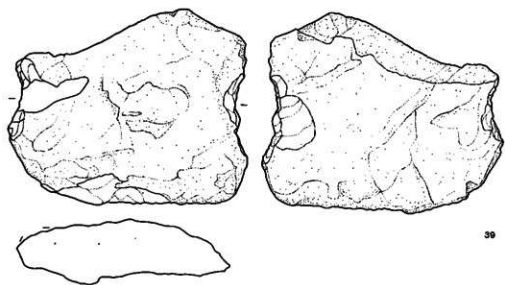


37

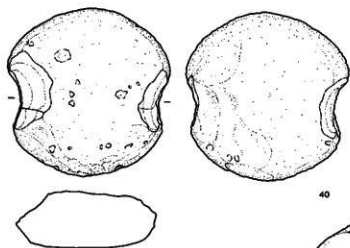


38

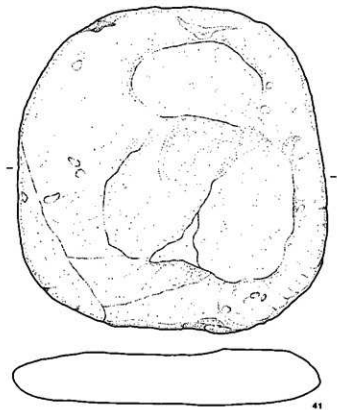
図42 包含層出土の石器 (3)



38



39



40

図43 包含層出土の石器 (4)

表31 モンガクF 遺跡出土土制片石器一覧 (1)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	跡	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	頁
1	石鏃	2・8	I	黒曜石	11.5	9.7	1.4	0.1	基部片		
2	石鏃	2・8	I	黒曜石	14.0	15.2	2.5	0.4	基部片		
3	石鏃	2・8	I	黒曜石	19.9	9.6	2.6	0.5	柳葉形	先端・基部欠損、磨けている	
4	石鏃	2・8	I	黒曜石	10.5	11.3	2.3	0.3		先端部片	
5	石鏃	2・8	I	黒曜石	19.4	11.9	11.6	0.4		先端部片、磨けている	
6	石鏃	2・8	I	黒曜石	17.5	14.2	2.7	0.5		先端部片	
7	石鏃	2・8	I	黒曜石	38.8	12.6	3.2	1.4	有柄凸縁か	未製品、基部折み	
8	石鏃	2・9	II	黒曜石	16.7	10.9	2.6	0.4		先端・基部欠損	
9	石鏃	2・9	I	黒曜石	21.2	13.4	4.6	1.4	有柄凸縁	先端・基部欠損	1
10	石鏃	2・9	I	黒曜石	25.2	10.5	3.0	0.8	柳葉形		2
11	石鏃	2・9	I	黒曜石	15.7	15.1	2.8	0.6		先端部片	
12	石鏃	2・9	I	黒曜石	16.6	12.4	4.8	0.8		基部片	
13	石鏃	2・9	I	黒曜石	33.6	16.4	3.8	2.1	柳葉形か	基部欠損	
14	石鏃	2・9	I	黒曜石	14.1	10.8	2.3	0.3		先端・基部欠損	
15	石鏃	2・9	II	黒曜石	23.0	12.1	3.4	0.9		未製品、磨けた削片を使用	
16	石鏃	2・9	I	黒曜石	31.0	13.7	3.2	1.0		未製品、つぶれ	
17	石鏃	2・9	I	黒曜石	18.2	9.1	2.8	0.3	柳葉形	先端わずかに欠損	3
18	石鏃	3・8	II	黒曜石	27.0	13.0	3.1	0.9	柳葉形	先端・基部欠損	
19	石鏃	3・8	I	黒曜石	14.3	8.7	3.5	0.3		基部片	
20	石鏃	3・8	II	黒曜石	10.5	7.7	1.4	0.1		先端部片	
21	石鏃	3・8	I	黒曜石	16.1	13.8	3.9	0.6		基部片、磨けている	
22	石鏃	3・8	I	黒曜石	17.4	8.7	1.5	0.1		基部片、磨けている	
23	石鏃	3・8	II	黒曜石	23.5	10.2	3.9	0.7	柳葉形		4
24	石鏃	3・8	II	黒曜石	23.9	12.7	2.6	0.8		先端部片	5
25	石鏃	3・8	I	黒曜石	16.7	20.4	3.1	1.0		基部片	
26	石鏃	3・8	I	黒曜石	24.9	10.5	2.7	0.7	柳葉形	先端・基部欠損	
27	石鏃	3・8	II	黒曜石	38.2	10.7	2.6	1.0	柳葉形	先端わずかに欠損	6
28	石鏃	3・8	I	黒曜石	32.8	9.8	4.6	1.1	柳葉形		7
29	石鏃	3・8	I	黒曜石	9.8	12.2	3.2	0.4		先端・基部欠損	
30	石鏃	3・9	II	黒曜石	22.9	10.0	4.1	0.9	柳葉形	先端・基部欠損	
31	石鏃	3・9	II	黒曜石	15.6	8.0	1.8	0.2	柳葉形	先端・基部欠損	
32	石鏃	3・9	I	黒曜石	26.5	8.9	2.9	0.5	柳葉形		8
33	石鏃	3・9	I	黒曜石	24.8	10.3	3.9	0.8		先端部片	
34	石鏃	3・9	I	黒曜石	16.5	11.3	3.0	0.3		先端部片	
35	石鏃	3・9	I	黒曜石	23.6	14.3	3.3	0.9		基部片	
36	石鏃	3・9	II	黒曜石	15.6	10.0	2.4	0.3	柳葉形か	先端・基部欠損	
37	石鏃	3・9	II	黒曜石	12.6	9.5	2.2	0.2		先端部片	
38	石鏃	3・9	II	黒曜石	11.7	9.1	2.4	0.2		先端部片	
39	石鏃	3・9	I	黒曜石	27.3	16.2	5.5	2.2	柳葉形	先端欠損	
40	石鏃	3・9	I	黒曜石	23.4	11.6	2.1	0.5	柳葉形か	先端・基部欠損	
41	石鏃	3・9	I	黒曜石	11.8	11.0	2.1	0.2		先端・基部欠損、磨けている	
42	石鏃	4・8	I	黒曜石	21.9	14.9	2.9	0.9	柳葉形か	基部片	
43	石鏃	4・8	I	黒曜石	22.1	12.9	4.1	1.0		未製品、先端折み	
44	石鏃	4・8	I	黒曜石	15.4	11.3	2.6	0.4		基部片	
45	石鏃	5・9	I	黒曜石	33.1	12.1	4.9	1.9		未製品、むじみ、つぶれ	
46	石鏃	表採	I	黒曜石	17.5	23.6	3.5	1.1		基部片	
47	石鏃	表採	I	黒曜石	34.2	14.0	4.8	2.2	木葉形	反っている、基部つぶみ	
48	石鏃	表採	I	黒曜石	11.4	14.3	2.2	0.2		先端部片	
49	石鏃	表採	I	黒曜石	20.9	8.3	2.4	0.4	柳葉形	先端わずかに欠損	
50	石鏃	表採	I	黒曜石	23.1	10.8	3.3	0.7	柳葉形か	先端・基部欠損	
51	石鏃	表採	I	黒曜石	31.6	10.0	3.0	0.7	柳葉形		9
52	石槍	2・8	I	黒曜石	18.5	23.8	3.9	2.3		基部片	
53	石槍	2・8	I	黒曜石	28.8	31.4	6.4	6.1		基部片	
54	石槍	2・8	I	黒曜石	53.1	29.8	10.0	13.5	木葉形か	未製品	
55	石槍	2・8	I	頁岩	32.9	17.4	4.7	2.4		先端部片	

表32 モンガクF遺跡出土制石片器一覽 (2)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	版	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	目録
56	石槍	2・8	I	黒曜石	10.6	9.4	2.7	0.1	先端部片		
57	石槍	2・8	I	黒曜石	13.0	27.7	5.9	3.8	中央部片、焼けている		
58	石槍	2・8	I	黒曜石	42.4	45.9	11.1	21.2	先端部、折れ		
59	石槍	2・8	I	黒曜石	32.6	23.1	6.6	3.8	基部片		
60	石槍	2・8	II	頁岩	19.6	18.7	6.1	2.4	基部片		
61	石槍	2・9	I	黒曜石	23.8	16.7	6.1	2.6	基部片		
62	石槍	2・9	I	黒曜石	24.4	17.3	6.5	2.5	基部片、焼けている		
63	石槍	3・8	II	黒曜石	48.4	36.2	10.4	12.4	未製成、白灰部あり		10
64	石槍	3・8	I	黒曜石	21.7	15.3	4.7	1.5	基部片		
65	石槍	3・8	I	黒曜石	25.2	30.0	6.4	5.4	基部片		
66	石槍	3・8	I	頁岩	19.0	23.9	7.2	4.4	中央部片		
67	石槍	3・8	I	黒曜石	38.1	21.5	6.1	3.7	基部片、焼けている		
68	石槍	3・8	I	黒曜石	11.9	17.1	3.8	1.0	中央部片		
69	石槍	3・8	II	黒曜石	25.5	28.8	9.0	7.2	基部片		
70	石槍	3・8	I	黒曜石	36.0	16.2	6.0	3.5	未製成、つまみ		
71	石槍	3・8	I	黒曜石	24.8	22.1	4.1	2.4	基部片		
72	石槍	3・8	I	黒曜石	17.7	33.6	6.2	3.7	基部片		
73	石槍	3・9	I	黒曜石	31.6	16.6	6.0	2.6	基部片		
74	石槍	3・9	I	黒曜石	17.7	18.6	5.8	1.8	基部片		
75	石槍	3・9	I	黒曜石	20.8	17.8	4.6	2.3	中央部片		
76	石槍	3・9	I	頁岩	44.8	35.7	6.8	10.4	先端、基部欠損		
77	石槍	3・9	I	頁岩	20.0	19.6	7.6	3.5	中央部片		
78	石槍	4・8	I	頁岩	38.9	16.8	5.8	3.9	先端、基部欠損		
79	石槍	4・8	I	黒曜石	42.5	19.2	8.2	7.9	基部片		
80	石槍	4・9	I	頁岩	32.1	30.8	9.8	9.3	基部片		
81	石槍	4・9	I	黒曜石	30.6	20.0	4.8	3.4	先端部片		
82	石槍	工事立会	I	黒曜石	39.6	33.8	8.9	9.0	基部片		
83	石槍	表採	I	黒曜石	35.9	31.6	6.6	7.5	中央部片		
84	石槍	表採	I	黒曜石	31.4	35.0	7.4	7.9	基部片		
85	石槍	表採	I	黒曜石	37.3	30.8	9.9	12.3	基部片		
86	石槍	表採	I	黒曜石	22.1	19.0	5.0	2.1	基部片		
87	石槍	表採	I	黒曜石	47.6	25.3	8.8	13.3	先端、基部欠損		
88	石錐	3・8	I	黒曜石	26.8	12.0	6.8	1.6	刃部片		
89	石錐	3・8-70	III	頁岩	56.0	24.5	7.7	8.0	基部幅広		11
90	石錐	表採	I	黒曜石	34.0	16.3	5.8	3.5	基部幅広、刃部欠損		
91	削・掻器	2・8	I	頁岩	66.6	25.7	5.8	10.1	つまみ付き	両側縁背面加工、先端欠損	12
92	削・掻器	2・8	I	頁岩	46.7	23.8	5.0	6.1		一端縁背面加工、一端縁背面加工、基部欠損	
93	削・掻器	2・8	I	黒曜石	18.7	20.8	2.9	1.3		先端部片、一端縁背面加工、一端縁背面加工	
94	削・掻器	2・8	I	頁岩	26.5	25.6	3.7	2.0		先端部片、両側縁背面加工	
95	削・掻器	2・8	I	頁岩	22.8	20.1	5.3	2.8	つまみ部片		13
96	削・掻器	2・8	I	黒曜石	24.7	17.0	7.4	2.3		先端部片、両側縁背面加工	
97	削・掻器	2・8	I	頁岩	39.4	20.3	5.7	5.0	木葉形	刃部折曲	
98	削・掻器	2・8	I	頁岩	15.5	15.2	4.7	1.0	つまみ部片		
99	削・掻器	2・8	I	頁岩	30.6	18.6	7.7	4.1	木葉形	未製成	
100	削・掻器	2・8	II	頁岩	24.9	13.1	5.3	2.1		両側縁背面加工、先端、基部欠損	
101	削・掻器	2・8	II	頁岩	20.4	12.9	4.5	1.6		一端縁背面加工、一端縁背面加工、中央部片	
102	削・掻器	2・8	II	頁岩	13.0	18.4	4.2	1.1	つまみ部片		
103	削・掻器	2・8	II	黒曜石	38.8	31.6	8.6	10.1		三辺縁背面加工、一端縁つまみ、硬身か	
104	削・掻器	2・8	II	黒曜石	41.5	34.0	12.4	17.7		板状砥石使用、一端縁背面加工	14
105	削・掻器	2・9	I	頁岩	39.2	19.1	5.6	4.1		先端部片、両側縁背面加工、基部欠損	
106	削・掻器	2・9	I	頁岩	18.6	16.5	4.0	1.3		基部片、両側縁背面加工	
107	削・掻器	2・9	II	黒曜石	21.7	12.0	4.0	1.1	木葉形	両側縁背面加工、先端背面加工、焼けている	15
108	削・掻器	2・9	II	頁岩	46.9	27.2	9.5	12.7		一端縁背面加工、一端縁欠損	
109	削・掻器	2・9-91	III	頁岩	21.9	14.9	4.9	2.2	つまみ付き	一端縁背面加工、一端縁背面加工、先端欠損	
110	削・掻器	3・8	I	頁岩	17.2	19.3	4.4	2.0		一端縁背面加工、一端縁背面加工、中央部片	

表33 モンガクF 遺跡出土土製片石器一覧 (3)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	層位	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	頁数
111	削・石器	3・8	I	頁岩	31.1	11.9	3.8	1.5	つまみ付き	一側面加工、一側面背面加工、先端欠損	
112	削・石器	3・8	I	頁岩	25.4	15.6	3.9	2.1	つまみ部片	両側面背面加工	
113	削・石器	3・8	I	黒曜石	45.7	37.4	12.3	21.7		全面に削い加工	17
114	削・石器	3・8	I	頁岩	50.5	36.1	12.3	21.3		先端、一側面加工、一側面背面加工	18
115	削・石器	3・8	II	頁岩	42.7	17.4	4.3	3.6	つまみ付き	一側面加工、一側面背面加工	19
116	削・石器	3・8	II	黒曜石	18.9	22.1	5.8	2.7		先端部片、先端、両側面背面加工	
117	削・石器	3・8	II	黒曜石	58.2	31.4	9.3	16.4	木葉形	未製品、両側面背面加工、一側面欠損	
118	削・石器	3・8	II	黒曜石	47.8	31.8	7.9	11.8	木葉形	未製品、両側面背面加工	20
119	削・石器	3・9	I	頁岩	23.1	11.5	3.2	0.7	つまみ部片		
120	削・石器	3・9	I	頁岩	21.0	21.1	4.2	2.1		先端部片、両側面背面加工	
121	削・石器	3・9	I	頁岩	26.3	27.6	6.1	4.8		先端部片、一側面背面加工、一側面キズ	
122	削・石器	3・9	I	頁岩	26.2	30.8	8.3	7.1		先端部片、一側面背面加工、一側面キズ	
123	削・石器	3・9	I	黒曜石	27.7	23.9	12.2	7.9		サイド・エンドストレイプ、基部欠損	21
124	削・石器	3・9	II	頁岩	63.8	15.9	4.9	6.0	つまみ付き	両側面背面加工、先端欠損	22
125	削・石器	3・9	II	チャート	26.2	26.1	4.6	4.3		先端部片、両側面背面加工	
126	削・石器	3・9	II	黒曜石	23.7	12.8	3.7	1.0	木葉形	未製品か、両側面背面加工、削けている	
127	削・石器	4・8	I	頁岩	48.4	20.0	5.6	5.9	つまみ付き	未製品、つまみ部のみ作部	
128	削・石器	4・8	I	頁岩	28.9	16.9	5.2	2.9	つまみ部片	両側面背面加工	
129	削・石器	4・8	I	頁岩	30.1	14.3	3.6	1.5		先端部片、両側面背面加工	
130	削・石器	4・9	I	頁岩	40.9	16.7	4.8	3.3	つまみ付き	一側面加工、一側面背面加工	23
131	削・石器	4・9	I	頁岩	31.9	37.6	10.3	14.7		基部片、一側面背面加工、一側面欠損	
132	削・石器	表採	I	頁岩	33.9	13.9	4.8	2.4	つまみ付き	一側面加工、一側面背面加工、先端欠損	
133	削・石器	表採	I	頁岩	41.2	16.2	5.0	4.1		両側面背面加工、基部欠損	
134	削・石器	表採	I	黒曜石	40.9	33.0	6.0	8.3		二面背面加工	24
135	削・石器	表採	I	黒曜石	34.9	23.7	9.8	11.4	木葉形	未製品	
136	挟入石器	2・9	I	黒曜石	34.6	19.8	4.2	2.3		挟り1ヶ所	25
137	挟入石器	3・8	I	黒曜石	33.8	22.5	9.8	6.5		挟り1ヶ所	
138	挟入石器	3・8	I	黒曜石	44.5	40.9	11.1	22.9		挟り1ヶ所	26
139	挟入石器	3・8	II	黒曜石	44.2	19.2	9.4	6.6		挟り1ヶ所	
140	挟入石器	3・9	I	頁岩	39.1	24.0	6.7	4.8		挟り2ヶ所	27
141	楔形石器	2・8	II	黒曜石	30.4	36.9	9.8	13.0		二つづみ	28
142	楔形石器	3・9	I	黒曜石	18.6	22.8	6.6	2.9		二つづみ、一辺欠損	
143	楔形石器	3・9	I	黒曜石	24.9	34.7	9.5	7.8		二つづみ	
144	楔形石器	3・9	I	黒曜石	22.5	39.5	15.2	15.4		二つづみ	29
145	楔形石器	4・9	I	黒曜石	20.9	23.3	7.7	3.8		二つづみ、一辺欠損	
146	楔形石器	4・9	I	黒曜石	16.4	31.6	6.1	3.5		二つづみ、一辺欠損	
147	R・F	2・8	I	黒曜石	29.2	26.0	10.0	7.6		二つづみ、二辺欠損、楔形石部少	
148	R・F	2・8	I	黒曜石	53.7	62.9	9.5	23.3		一側面背面加工、先端欠損	
149	R・F	2・8	I	黒曜石	30.5	33.3	8.9	8.4		一側面加工、削い加工、先端欠損、削け	
150	R・F	2・8	I	黒曜石	20.4	44.3	6.0	6.1		基部部片、両面加工	
151	R・F	2・8	I	黒曜石	19.9	37.6	7.2	6.1		基部部片、両面加工	
152	R・F	2・8	I	頁岩	40.7	13.4	5.2	2.4		両側面背面加工、基部欠損	
153	R・F	2・8	I	黒曜石	28.9	20.3	12.5	8.0		一側面加工、削い加工、一側面つまみ	
154	R・F	2・9	I	頁岩	24.6	31.1	10.1	8.0		基部片、両面に削い加工、石部片少	
155	R・F	2・9	I	黒曜石	24.6	19.0	5.6	2.1		一側面背面加工	
156	R・F	2・9	I	黒曜石	27.3	53.4	10.0	12.4		全面に削い加工、石部未製品少	
157	R・F	2・9	I	頁岩	39.7	30.3	8.6	10.8		全面に削い加工、木葉形石部未製品少	
158	R・F	2・9	I	頁岩	33.6	25.6	5.2	3.7		一側面背面加工	
159	R・F	2・9	I	黒曜石	24.1	24.6	5.5	3.0		基部片、両側面背面加工	
160	R・F	2・9	I	黒曜石	27.9	31.8	9.3	8.1		一辺加工、削い加工、二辺欠損、楔形少	
161	R・F	2・9	II	黒曜石	32.3	14.8	8.2	2.9		両面加工部片	
162	R・F	2・9	II	黒曜石	34.5	31.2	17.5	19.9		全面に削い加工、木葉形石部未製品少	
163	R・F	2・9	II	黒曜石	45.8	38.9	9.8	15.2	三角形	二辺加工、削い加工	
164	R・F	2・9	II	頁岩	34.0	24.9	5.9	4.3		一側面背面加工	
165	R・F	2・9	II	頁岩	89.5	37.8	18.9	58.3		先端部片、一側面背面加工	

表34 モンガクF 遺跡出土制片石器一覽 (4)

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	産地	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図表
166	R・F	3・8	I	黒曜石	31.4	35.9	9.5	9.9	先端・背面面加工、磨けしている		
167	R・F	3・8	I	黒曜石	26.8	18.9	6.0	3.0	側縁部片、背面加工		
168	R・F	3・8	I	黒曜石	29.8	21.2	4.5	2.9	一端縁面加工、先端欠損		
169	R・F	3・8	I	黒曜石	25.2	25.3	6.3	3.3	二辺背面加工、一端欠損		
170	R・F	3・8	I	黒曜石	35.3	25.9	10.2	10.2	一端縁面加工、二辺欠損		
171	R・F	3・8	I	頁岩	54.9	56.2	14.3	42.0	一端縁面・一端縁面加工、先端欠損		
172	R・F	3・8	I	黒曜石	39.6	23.6	10.5	8.9	側縁部片、磨け加工		
173	R・F	3・8	I	黒曜石	25.0	19.3	3.1	1.2	一端縁面加工、磨けしている		
174	R・F	3・8	I	黒曜石	22.5	22.3	7.8	3.6	破片、両面に磨け加工		
175	R・F	3・8	I	黒曜石	38.8	22.6	8.5	5.7	一端縁面加工、基部欠損		
176	R・F	3・8	I	頁岩	60.9	37.8	11.8	16.7	両側縁面加工		
177	R・F	3・8	II	頁岩	39.6	27.8	8.5	10.1	基部片、両側縁面に磨け加工		
178	R・F	3・8	II	黒曜石	47.6	23.0	10.4	10.8	側縁部片、両面に磨け加工		
179	R・F	3・8	II	黒曜石	42.9	30.2	13.8	16.8	側縁部片、両面に磨け加工		
180	R・F	3・8	II	黒曜石	19.5	12.0	6.2	1.1	破片、両面加工		
181	R・F	3・9	II	黒曜石	25.7	26.6	9.0	4.4	破片、一辺つぶぬ、幾多石部片か		
182	R・F	3・9	I	頁岩	20.0	28.9	5.1	2.5	二辺背面加工、木葉多石部片か		
183	R・F	3・9	I	黒曜石	39.7	24.9	9.7	10.4	先端部片、背面加工		
184	R・F	3・9	I	黒曜石	32.9	21.3	4.5	3.5	一端縁面加工、先端・基部欠損		
185	R・F	3・9	I	黒曜石	45.0	25.5	6.2	6.1	一端縁面・一端縁面加工		
186	R・F	3・9	I	黒曜石	37.7	23.6	10.4	6.7	先端部片、背面加工		
187	R・F	3・9	I	頁岩	33.6	50.0	9.5	18.0	先端部片、一端縁面加工		
188	R・F	3・9	II	黒曜石	53.0	25.2	6.8	8.7	一端縁面加工、先端欠損		
189	R・F	3・9	II	黒曜石	58.2	37.1	11.8	15.8	一端縁面加工		
190	R・F	3・9	II	黒曜石	38.9	13.0	5.5	2.7	破片、両面加工		
191	R・F	3・9	II	黒曜石	30.6	27.4	7.3	5.7	側縁部片、背面加工		
192	R・F	4・8	I	黒曜石	17.1	25.3	5.8	2.4	破片、磨け加工、石部片か		
193	R・F	4・8	I	黒曜石	35.0	34.6	10.0	10.3	先端・一端縁面加工		
194	R・F	4・8	I	頁岩	22.6	31.5	8.1	7.0	先端に磨け加工、基部欠損		
195	R・F	4・8	I	黒曜石	23.4	27.9	4.0	1.8	一端縁面加工、先端欠損		
196	R・F	表採	I	黒曜石	29.3	30.0	6.3	6.3	一端縁面加工、先端欠損		
197	R・F	表採	I	黒曜石	20.2	23.8	7.3	2.4	基部つぶぬ、先端・一端縁面、磨勢少		
198	R・F	表採	I	黒曜石	23.4	23.2	6.1	2.4	先端部片、背面加工		
199	R・F	表採	I	黒曜石	38.3	33.1	9.8	9.8	破片、破損後に磨けしている		
200	U・F	2・8	I	黒曜石	21.4	15.9	4.0	1.0	両側縁刃こぼれ状		
201	U・F	2・8	I	黒曜石	29.6	15.5	7.2	2.4	一端縁刃こぼれ状		
202	U・F	2・8	I	黒曜石	17.0	24.8	2.9	1.0	先端部片、一端縁刃こぼれ状		
203	U・F	2・8	I	頁岩	32.7	52.9	10.3	18.9	一端縁刃こぼれ状		
204	U・F	2・8	I	頁岩	28.1	24.6	5.9	3.0	一端縁刃こぼれ状		
205	U・F	2・8	II	頁岩	23.8	15.4	2.7	1.0	先端部片、一端縁刃こぼれ状		
206	U・F	2・9	I	黒曜石	21.1	20.9	5.0	1.8	一端縁刃こぼれ状		
207	U・F	2・9	I	黒曜石	25.9	17.4	3.5	1.3	両側縁刃こぼれ状		
208	U・F	2・9	I	頁岩	19.4	16.8	2.0	0.5	基部片、一端縁刃こぼれ状		
209	U・F	2・9	II	頁岩	22.2	14.5	4.4	1.2	先端部片、一端縁刃こぼれ状		
210	U・F	3・8	II	黒曜石	33.1	24.6	3.1	1.8	両側縁刃こぼれ状		
211	U・F	3・8	II	頁岩	27.3	27.9	7.5	6.3	基部片、一端縁刃こぼれ状		
212	U・F	3・8	II	黒曜石	24.6	20.2	7.0	1.8	先端・一端縁刃こぼれ状		
213	U・F	3・8	II	黒曜石	34.8	26.0	6.2	5.6	一端縁刃こぼれ状		
214	U・F	3・9	I	頁岩	44.4	37.6	10.0	14.2	両側縁刃こぼれ状		
215	U・F	3・9	I	黒曜石	25.8	20.5	4.8	1.6	一端縁刃こぼれ状		
216	U・F	3・9	II	黒曜石	14.2	11.3	2.3	0.3	先端部片、両側縁刃こぼれ状		
217	U・F	3・9	II	黒曜石	22.8	19.4	4.8	1.6	一端縁刃こぼれ状、磨けしている		
218	U・F	4・8	I	黒曜石	33.1	33.9	6.9	6.5	一端縁刃こぼれ状、先端・基部欠損		
219	U・F	4・8	I	黒曜石	23.5	18.1	2.9	1.2	一端縁刃こぼれ状		
220	U・F	4・8	I	黒曜石	11.6	11.8	2.8	0.4	先端部片、一端縁刃こぼれ状		

表35 モンガクF 遺跡出土銅片石器一覽 (5)

(単位はmmとg)

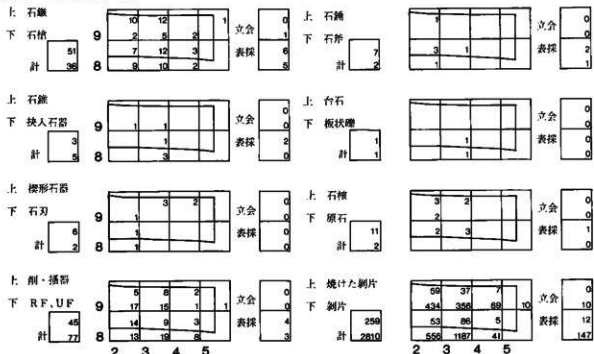
No	器種	グリッド	取	石材	長さ	幅	厚さ	重量	形態	備考	図録
221	U・F	4・8	I	黒曜石	20.8	22.2	4.6	2.1		一翼刃こぼれ状	
222	U・F	4・9	I	黒曜石	25.3	10.2	3.9	1.1		側縁部片、刃こぼれ状	
223	U・F	5・9	I	黒曜石	26.2	21.7	3.4	1.6		一翼刃こぼれ状	
224	石核	2・8	I	黒曜石	32.4	27.1	11.0	13.2		二面に黒石面を剥す	
225	石核	2・8	II	黒曜石	36.9	52.7	14.6	27.7		二面に黒石面を剥す	
226	石核	2・9	I	黒曜石	29.6	19.0	6.8	4.2		一翼つぶぬ、側部石面に転削か	
227	石核	2・9	I	黒曜石	63.2	30.9	17.2	44.7			30
228	石核	2・9	I	頁岩	27.2	33.8	11.9	13.6			
229	石核	3・8	I	黒曜石	31.7	39.2	14.5	19.8		二面に黒石面を剥す	
230	石核	3・8	I	黒曜石	25.6	27.1	10.8	7.1			
231	石核	3・8	I	黒曜石	32.3	29.8	11.5	10.2		二翼つぶぬ、側部石面に転削か	
232	石核	3・9	I	黒曜石	26.0	37.3	10.0	10.7		二面に黒石面を剥す	31
233	石核	3・9	II	黒曜石	33.7	18.6	7.4	5.2		二面に黒石面を剥す	
234	石核	表採	I	黒曜石	41.2	29.9	10.7	15.0		二面に黒石面を剥す	
235	石刃	2・8	II	頁岩	21.5	16.6	4.2	1.3		一翼、先端部片	
236	石刃	2・9	II	頁岩	25.3	19.9	5.8	3.3		二翼、先端部片	

表36 モンガクF 遺跡出土礫石器一覽

(単位はmmとg)

No	器種	グリッド	取	石材	長さ	幅	厚さ	重量	備考	図録
1	石斧	2・8	II	片岩	92.6	51.8	17.4	112.5	刃・基部欠損、すり割り痕あり	32
2	石斧	表採	I	黒曜石	70.3	56.4	24.4	141.0	刃・基部欠損	33
3	石鏢	2・8	I	安山岩	113.7	112.5	39.7	740	長軸方向打ち欠き	34
4	石鏢	2・8	I	安山岩	114.8	106.2	18.8	570	長軸方向打ち欠き	35
5	石鏢	2・8	II	安山岩	125.4	112.8	34.1	550	長軸方向打ち欠き	36
6	石鏢	2・9	I	安山岩	111.0	97.3	43.9	600	長軸方向打ち欠き	37
7	石鏢	3・8	I	安山岩	103.8	61.8	31.9	360	短軸方向打ち欠き	38
8	石鏢	表採	I	凝灰岩	113.9	103.3	31.8	390	長軸方向打ち欠き、一翼欠損	39
9	石鏢	表採	I	安山岩	88.0	86.1	31.0	320	長軸方向打ち欠き	40
10	板状礫片	3・8	I	安山岩	103.5	78.6	25.0	300		
11	台石	3・8	II	安山岩	175.0	163.0	29.7	1190	一翼剥き	41

表37 石器等分布一覽



4 まとめ

モンガクF遺跡は、既に述べたように遺跡の保存状態があまり良好ではなかったため遺構などが検出出来なかった。時期は、出土した土器から縄文時代早期後半の東銅路Ⅲ式の頃と考えられる。石器で最も特徴的なものは、安山岩の偏平な鏝を打ち欠いて作った比較的大型の石錘の存在である。石錘自体は縄文時代早期末葉の石器群の中で、それほど珍しいものとは言えないが、これまで300~700gの重量の石錘ばかりが出土した例はあまりみられないようである。石錘の重量の違いはこれまでもしばしば指摘されているように、用途と密接に関係していると考えられる。

この石錘の重量分布については、すでに二階堂啓也氏による三石町ショッピング遺跡の重量分布の研究がある(二階堂啓也 1988)。ここでは二階堂氏の示したデータをもとに、モンガクF遺跡のほか、縄文時代早期から中期にかけてのいくつかの遺跡を比較してみたい。

縄文時代早期の東銅路Ⅲ式期の遺跡である銅路市桜が岡2遺跡から出土した石錘は、最大155.9g、最小33.8gで、平均76gであり、重量分布をみると50.1~60.0gに37点とひとつのピークをもつほか、70.1~80.0gに31点のピーク、100.1~110.1gに18点のピークがみられている(西幸隆、松田猛、蝦原真奈美ほか 1988)。この桜が岡2遺跡の資料は、東銅路Ⅲ式に伴う石錘の標準的な例とみられるが、本遺跡の石錘の重量(300~700g)とはかなり異なっている。なお、同じ早期でも晩式が出土している帯広市晩遺跡では、1983年度の調査で、第4地点のスポット3・5から13点の石錘が出土し、その平均重量は250gとやや本遺跡に近い値がでている(佐藤訓敏、北沢実 1985)。

縄文時代前期の綱文・中野系土器には、石錘が大量に伴出することが知られているが、静内町ショッピング遺跡では、出土した894個の石錘のうち完形品581個の平均重量は227.5gで、最大は1333.8g、最小は9.6gであった。二階堂氏はこの581個の石錘を、70g以下の小型、80~220g、230~390gの中大型、400g以上の大型の三型四種に分類している(二階堂 前出)。

縄文時代中期前葉の円筒上層式に伴う石錘としては、礼文島上泊3遺跡で338個出土しており、最大重量4360.0g、最小11.2gで、重量分布から10.0~59.9g(6%)、60.0~259.9g(79%)、260.0~809.9g(13%)の三郡に分けられた(森岡健治 1984)。

さて、二階堂氏が示したショッピング遺跡の重量度数分によるグループ分けを、上に示した銅路市桜が岡2遺跡、礼文島上泊3遺跡のデータにあてはめてみると、縄文時代早期の桜が岡2遺跡は多くが小型と中型で構成されている。また、中期の上泊3遺跡は中型が大部分を占め、大型が次いでいる。立地からみると、桜が岡2遺跡は小河川に面しており、上泊3遺跡は海に面している。内陸の小河川と海での漁という違いが、石錘の重量に現われているのだろうか。この点からみると、モンガクF遺跡の石錘が、中型から大型のグループあたるのは極めて興味深い。

二階堂氏は、石錘の重量について80~390gの中型のものは内湾型、400g以上の大型のものは外洋型の漁網錘ではないかと指摘している。モンガクF遺跡の場合、その全てを調査した訳ではないので即断はできないが、縄文時代早期には、古余市湾を形成していたとみられる余市平野を一望できるといふ立地からは、小河川の網漁より、内湾型あるいは外洋型の漁法が想定されるであろう。

引用・参考文献

- 工藤肇・佐藤一夫 1988『ショップ遺跡』三石町教育委員会・苫小牧埋蔵文化財調査センター
- 佐藤訓敏・北沢実 1985『帯広・晩遺跡』帯広教育委員会
- 二階堂啓也 1988『石鍾について』『ショップ遺跡』三石町教育委員会・苫小牧市埋蔵文化財調査センター
- 西幸隆・松田猛・蝦原真奈美ほか 1988『釧路市桜が岡2遺跡』釧路市埋蔵文化財調査センター
- 森岡健治 1984『上泊3遺跡の石鍾について』『礼文島観泊段丘の遺跡群』北海道埋蔵文化財センター

写真図版

モンガクA 遺跡



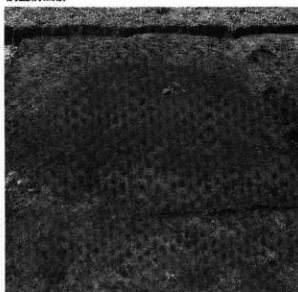
遺跡遠景



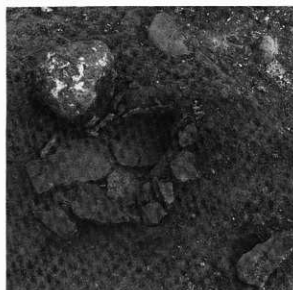
調査前風景



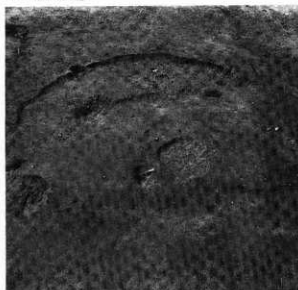
調査風景 1



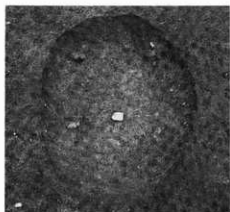
H-1 検出状況



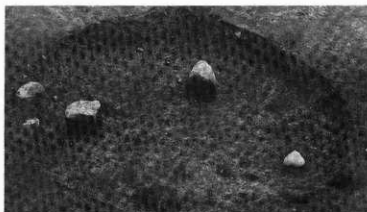
H-1 遺物出土状況



H-1 完掘



P-1



P-2



P-3



P-4



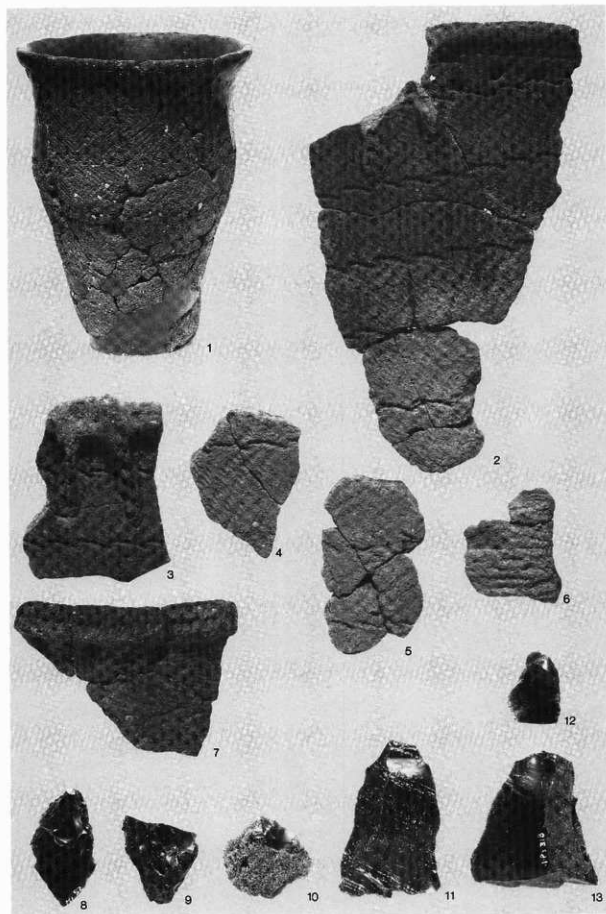
P-5



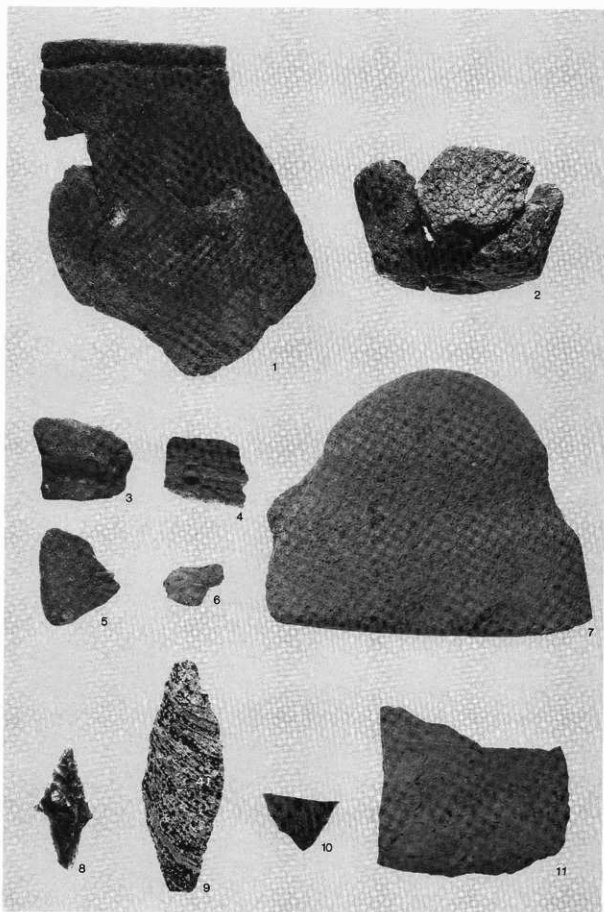
調査風景 2



完掘状況

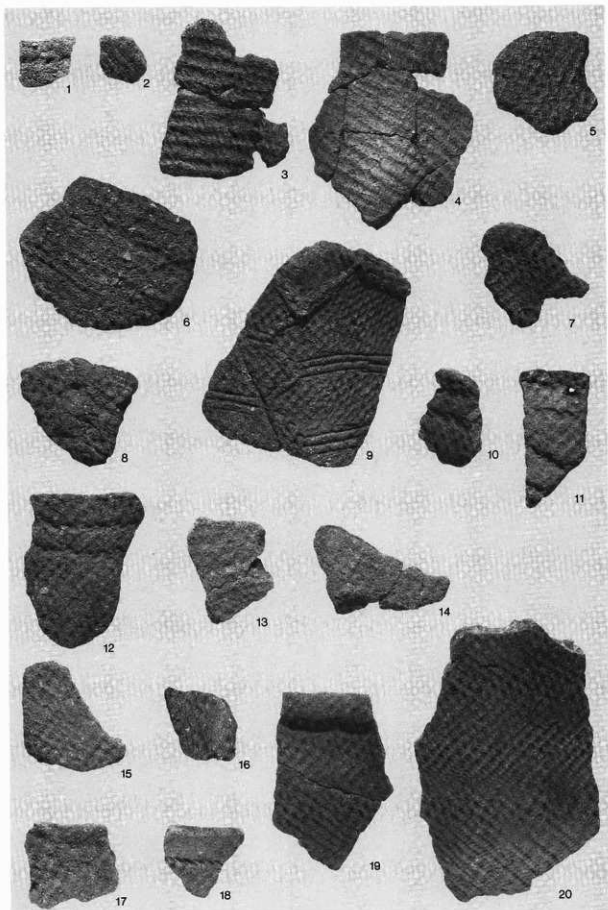


H-1 出土遺物

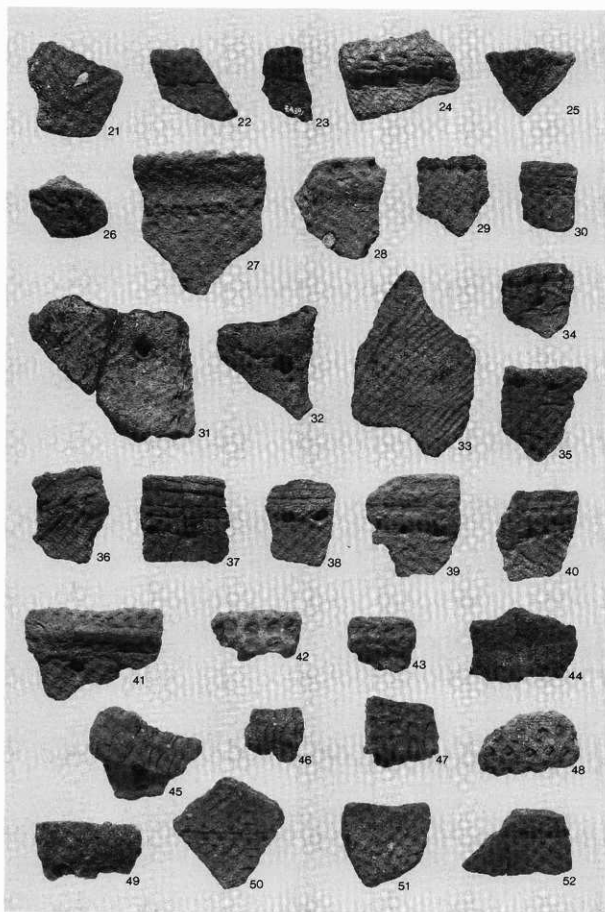


土壙出土遺物

モンガクA遺跡

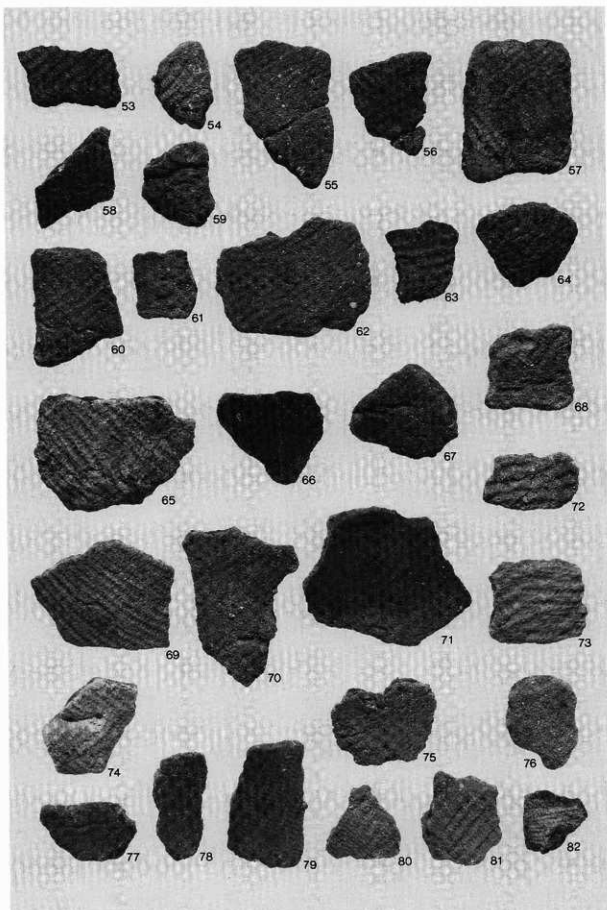


出土土器 (1) 注 16は裏面

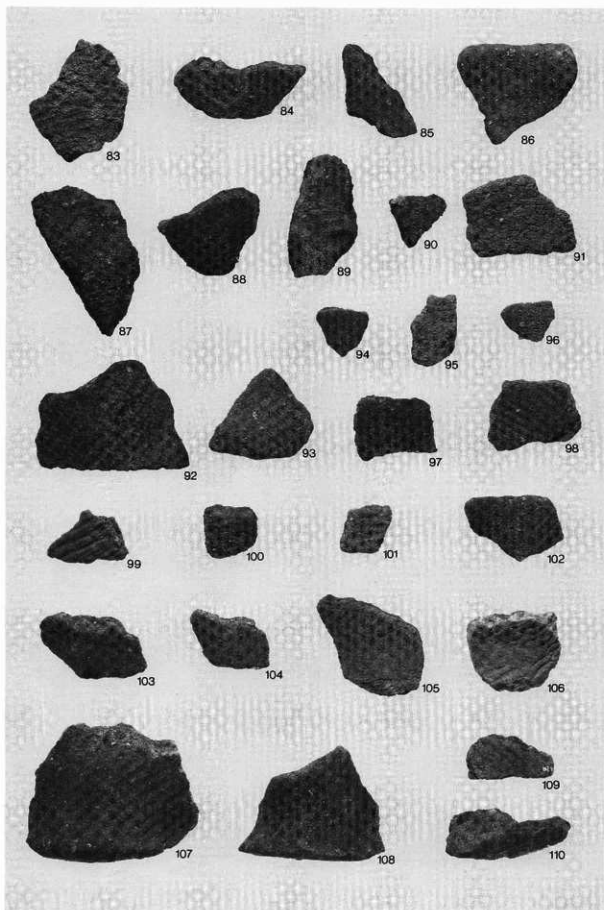


出土土器 (2)

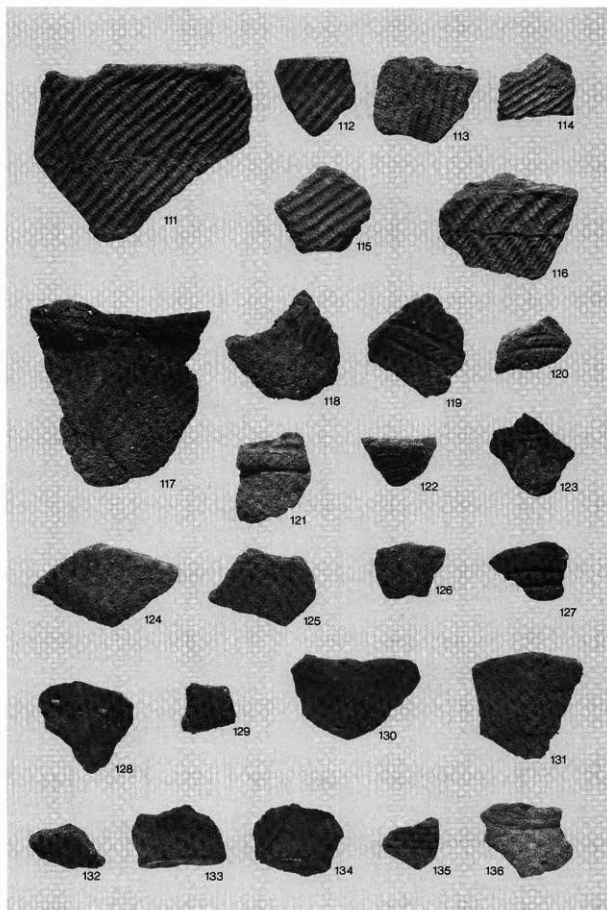
モンガクA 遺跡



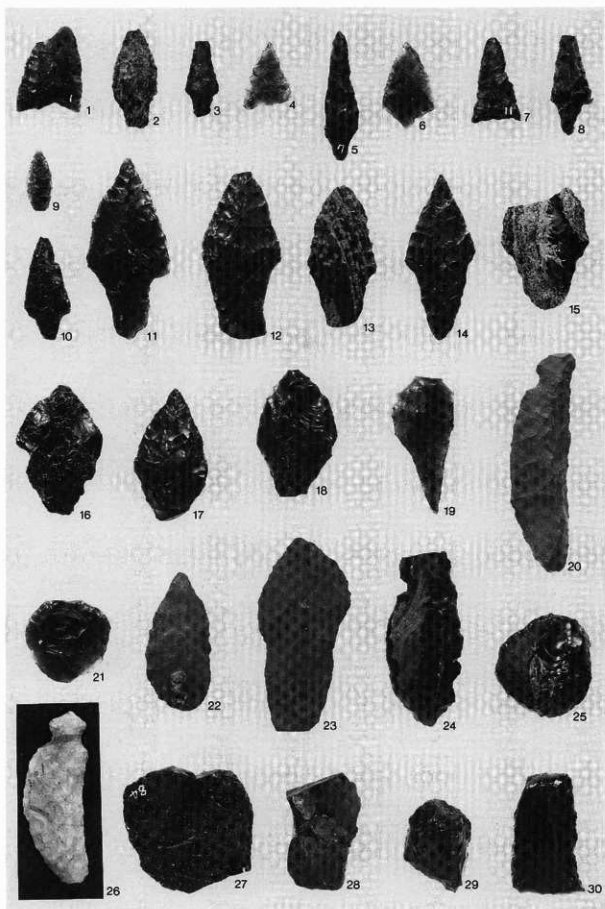
出土土器 (3)



出土土器 (4)

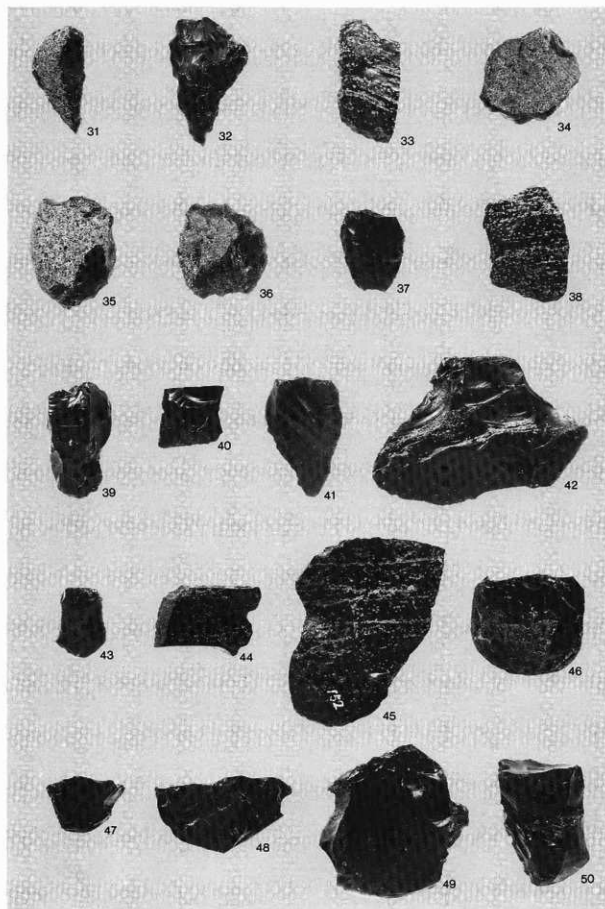


出土土器 (5)

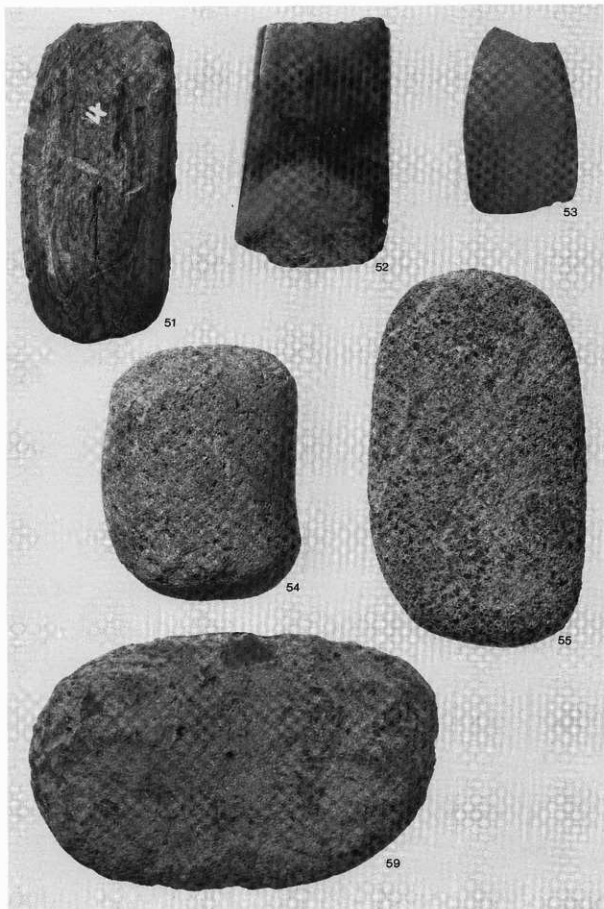


出土石器 (1)

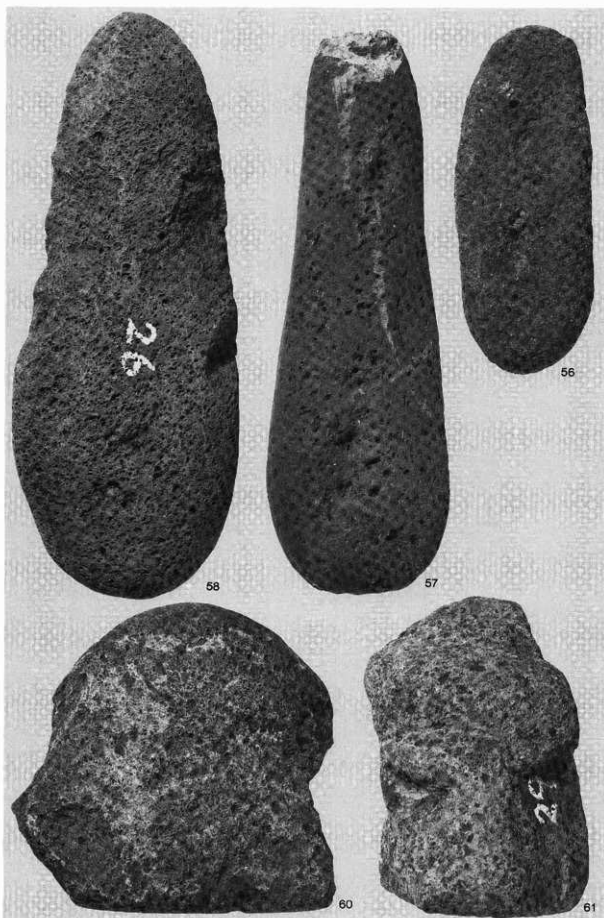
モンガクA遺跡



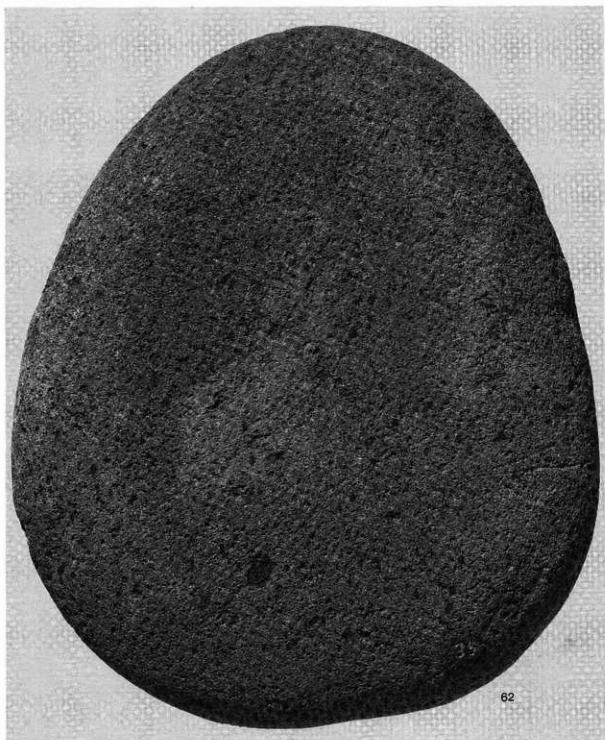
出土石器 (2)



出土石器 (3)



出土石器 (4)



出土石器 (5)

モンガクB遺跡



工事立会風景



調査風景



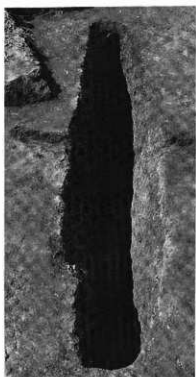
TP 1



TP 2



TP 3



TP 4



石組炉 1



P-7



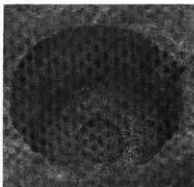
P-3・4



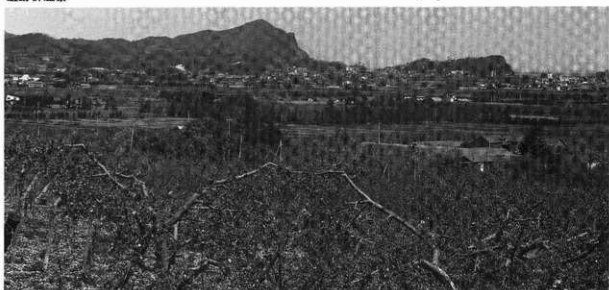
P-6



遺跡群遠景

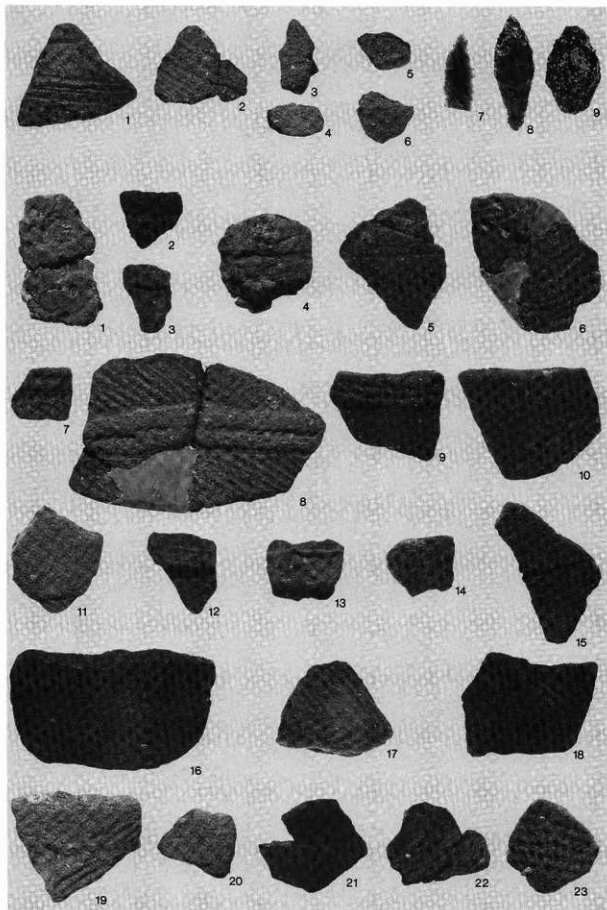


P-8

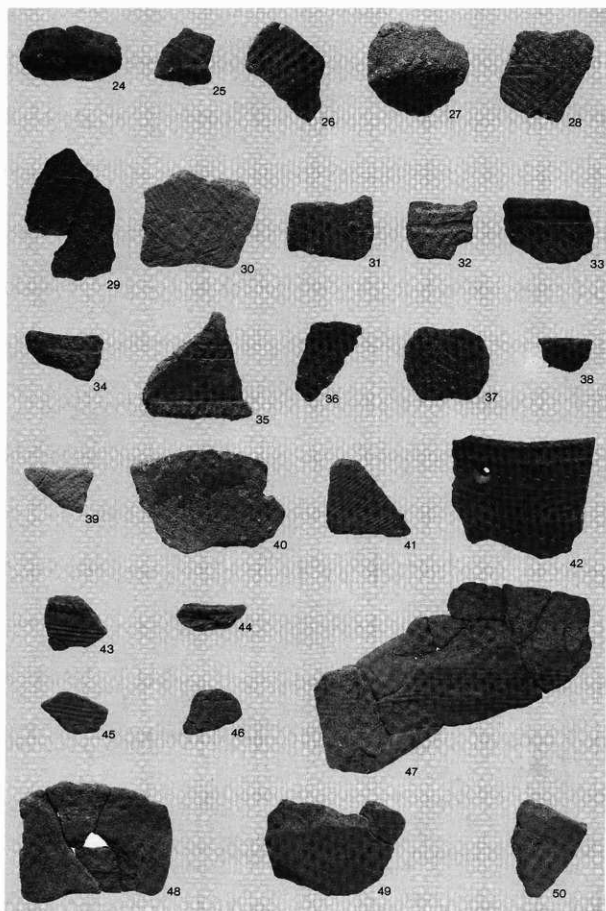


モンガクB遺跡から見たシリバ山、モイレ山

モンガクB遺跡



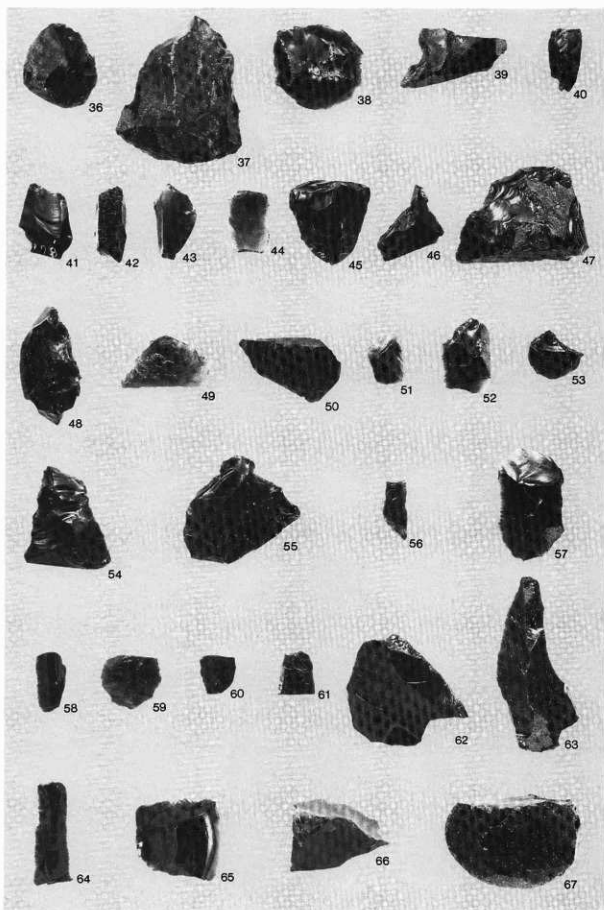
遺構出土遺物 (上段1~9)、出土土器 (1)



出土土器 (2)

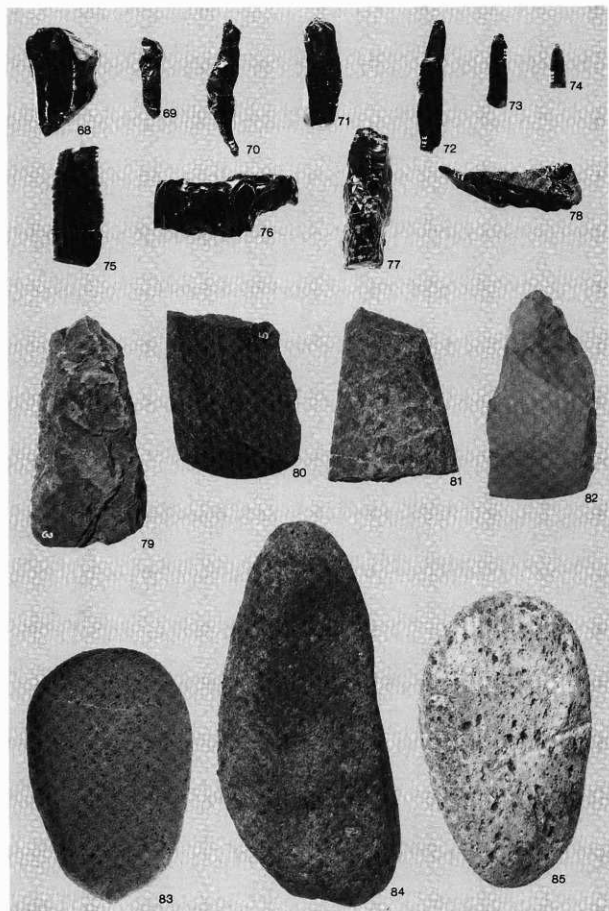


出土石器 (1)

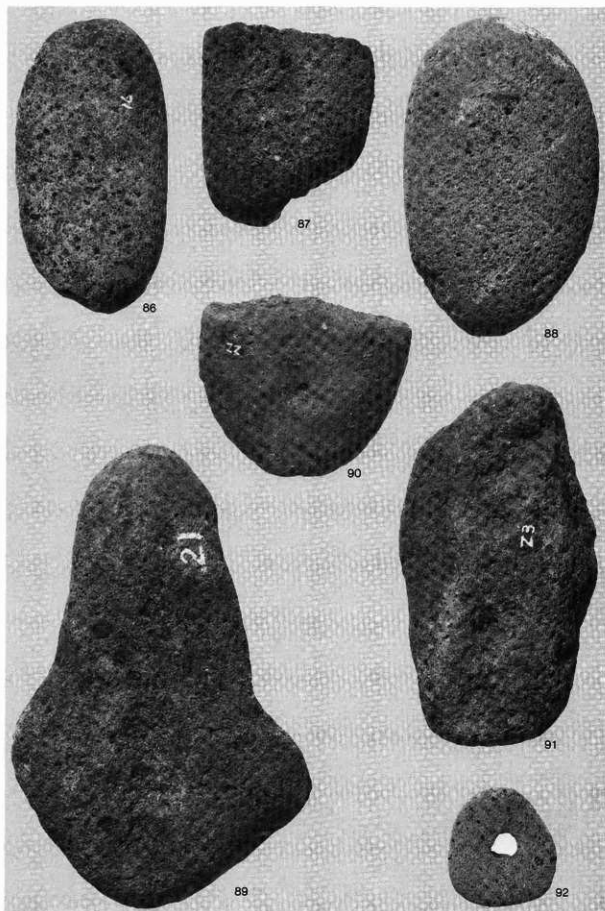


出土石器 (2)

モンガクB遺跡



出土石器 (3)



出土石器 (4)

モンガクF遺跡



工事立会風景



調査風景 1



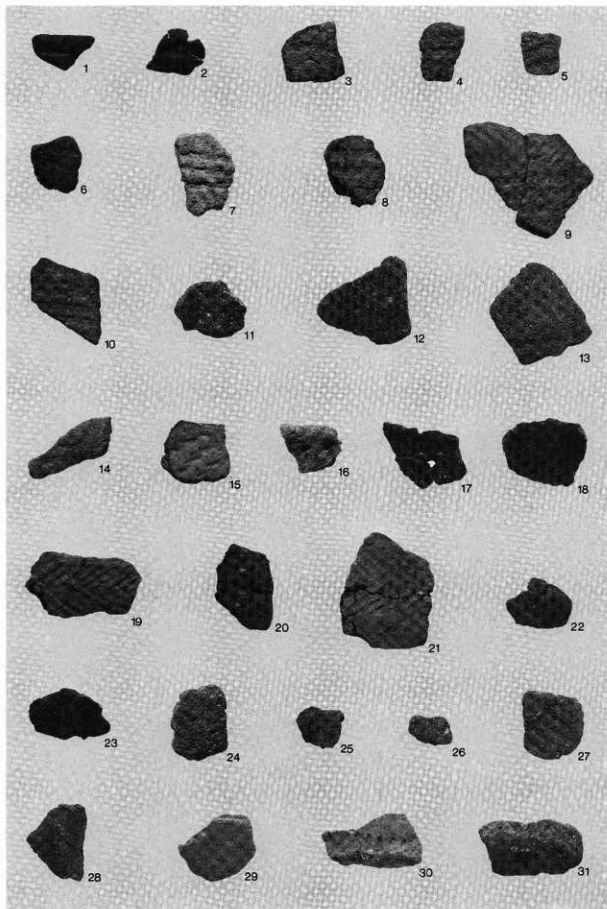
調査風景 2



完掘状況



モンガクF遺跡から見た仁木市街

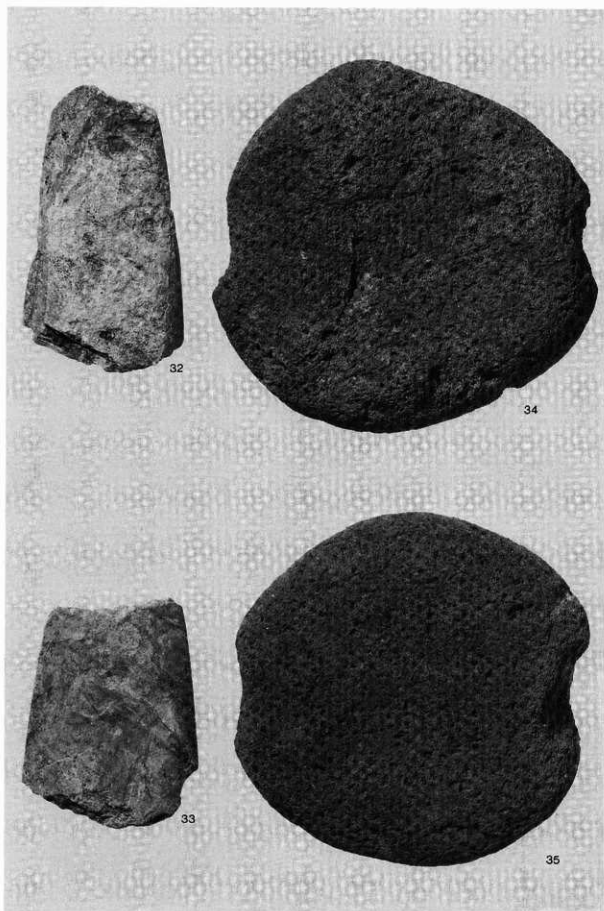


出土土器

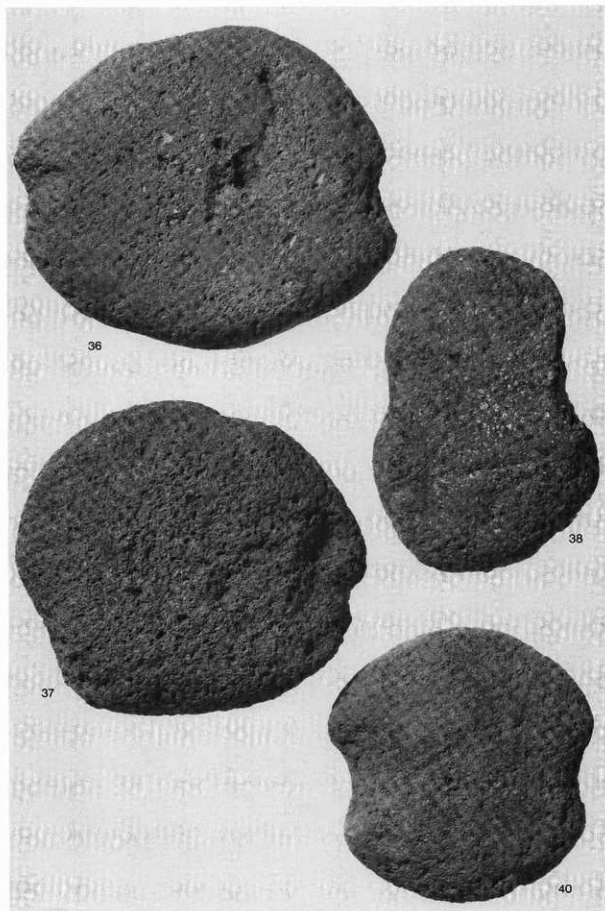
モンガクF遺跡



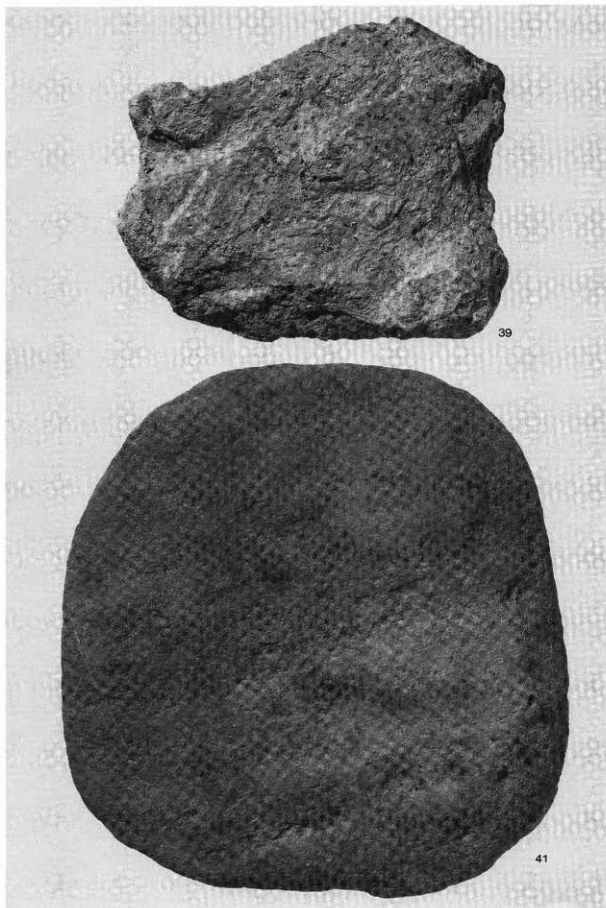
出土石器 (1)



出土石器 (2)



出土石器 (3)



出土石器 (4)

(財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第65集

モンガク丘陵の遺跡群

— 北後志東部地区広域営農団地農道整備事業用地内 —
— 埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成2年3月14日 発行

編集・発行 財団法人北海道埋蔵文化財センター
〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
TEL(011) 561-3131

印刷 中西印刷株式会社
〒065 札幌市東区東雁来3条1丁目1番34号
TEL(011) 781-7501

この報告書は後志支庁のご了解を得て増刷したものです。



